

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠA (CF201)			担当教員	池永 正人		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブラーニングの類型
テーマ：観光地域の野外巡検 本学から日帰り可能な観光地域の野外巡検であり、現地において観察・聞き取り・資料収集などを行い、研究成果レポートの作成を通じて、地域研究の基本的手法を修得する。							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標				評価手段・方法		評価比率
専門力	地域調査の方法やレポートの書き方およびプレゼンテーションの技法を身につけることができる。				研究発表		20%
情報収集、分析力	観光地域の特性や問題点を見出す観察力・思考力を養うことができる。				野外巡検		20%
コミュニケーション力	地域調査の準備や調査結果の整理において、グループで意見を述べるができる。				事前・事後学習		30%
協働・課題解決力	地域の自然や歴史・文化の観光活用に関心を抱き、調査・研究に取り組むことができる。				事前・事後学習		10%
多様性理解力	観光地域の事象に関する自然科学や人文・社会科学の幅広い知識を修得できる。				研究成果レポート		20%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
・演習は野外巡検である。 ・評価は、野外巡検、研究発表、研究成果レポート、事前・事後学習を総合して行う。							
授 業 の 概 要							
演習の方法は、以下の手順で行う。 1.野外巡検の目的・意義・場所・日程・方法などを検討 2.研究テーマ・内容の設定 3.研究内容に関する文献・資料の収集と分析 4.現地調査（前期（春期）：5月下旬か6月上旬に1日実施。観察や役所・観光施設等での聞き取り。） 5.研究成果レポートの作成 6.研究発表会 注）専門演習ⅠBとは異なる場所を巡検する。また、旅費は各自で実費を負担する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書・参考書・指定図書：研究地域が決定した後、巡検地に関連する文献を提示する。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この演習は、地域研究の基本的手法を習得するものであり、観光地の地域調査に関心のある学生の受講を希望する。野外巡検を通じて、観光地域の特性や問題点を見出す観察力を養ってほしい。そのためには、研究対象地域に関する文献・資料を図書館やインターネット等で収集し、積極的に予備知識を身につけることを希望する。 ※本演習を選択する学生は、次のコースを履修することが望ましい。 観光マネジメント							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	演習の内容	過年度の実績と新年度の演習計画を理解する。	予習：シラバスを読む 復習：野外巡検地の考案
2	前期（春期）野外巡検地の選定 省察・個人目標の設定	野外巡検（自然観光地）の目的・場所・日程等について検討する。 1年次の学修成果を省察し、2年前期の個人目標設定の面談を実施する。	予習：巡検地の文献調べ 復習：文献を読む
3	巡検地の事前学習①	研究内容に関する文献・資料を輪読する。	予習：巡検地の文献調べ 復習：文献を読む
4	巡検地の事前学習②	文献・資料を輪読する。	予習：文献を読む 復習：文献の要点整理
5	巡検地の事前学習③	地形図を用いて土地利用図を作成し、現象を分析する。	予習：土地利用図作成 復習：土地利用の分析
6	巡検地の事前学習④	観光施設等の観察調査の調査票を作成する。	予習：調査項目の考案 復習：調査票の作成
7	野外巡検の準備	野外巡検の日程・調査票・持参品等の確認をする。	予習：調査内容の確認 復習：持参品等の準備
8	野外巡検（自然観光地）	新緑の美しい5月下旬か6月初旬に、自然観光地（火山・温泉地域）を1日調査する。	予習：調査内容の確認 復習：調査結果の整理
9	レポート作成要領	研究成果レポートの作成要領を理解する。	予習：調査結果の整理 復習：調査結果の整理
10	収集文献・資料の分析	現地で収集した文献・資料を輪読し、内容を分析する。	予習：レポート執筆 復習：レポート執筆
11	レポート提出	研究成果レポートを提出する。	予習：レポート執筆 復習：口頭発表の準備
12	研究発表	作成したレポートをもとに、ゼミ内で個別に口頭発表する。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	レポートの添削指導	添削されたレポートについて、個別指導を受ける。	予習：レポート内容確認 復習：レポートの修正
14	レポートの修正	添削されたレポートを修正する。	予習：レポートの修正 復習：レポートの修正
15	前期（春期）レポートの受理	修正した研究成果レポートを提出する。夏休みの宿題を与えられる。	予習：レポート提出準備 復習：文献・資料の整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠA (CF201)			担当教員	板垣 朝之		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	1年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
観光学とは広い学問領域を範疇とするが、個々の領域をミクロに深めて行く事が重要であると同時に、マクロの視野から全体像を展望する視線も重要である。この演習では、観光をマクロの視点から展望し、社会の動きを観光の視点から俯瞰する事で、実際に動いている現代社会の動きの実像を理解することを目的とする。							⑤⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							%
情報収集、分析力	新聞、マスコミ、WEB、SNS等の情報源を駆使して、自分の意見を裏付けられる情報を収集し、自分の考えに沿って情報を取捨選択し、まとめる事が出来る。					・レポート ・討議参画	30%
コミュニケーション力	自分の考えを述べ、他の学生の意見を聞いた上で、両者を調整し、グループディスカッション等議論の上で最適解を発見できるようになる。					・討論参画 ・意見の陳述	50%
協働・課題解決力							
多様性理解力	自分の所属しない社会の現象を知り、その現象の負って立つ背景を理解できるようになる。					・レポート ・討議参画	20%
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
自分の意見を、口頭と文章の両方で表現できるか否かを重視する。答えが与えられるのを待つのではなく、自分はどう考えるという事をグループディスカッション等を通じ、どれだけ積極的に表現できるかが重要である。15週の中で各学生がどの様に考え、どの様にその考えを表現したかを評価軸におくので、筆記試験は行わない。							
授業の概要							
観光を構成する業界を再検証し、観光立国日本の観光の今後のあり方を再確認する。学生が自分なりの解答を見つけ出す事を目標とした授業となる。学外調査等の予定により授業振り替えが発生する可能性がある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書/参考書：特に指定しない。必要なレジュメ等は授業時に配布する。 指定図書：『この国のかたち1～6巻』：司馬遼太郎 文芸春秋社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この演習のキーワードは社会への「好奇心」である。「好奇心」を持って社会の動きに対峙してほしい。観光という視点から社会の動きをとらえてゆくことを一つの目標としているので、興味をもった事の情報収集に努める事、集めた情報を取捨選択し、判断し、何故そのような現象が起こっているのか自分で解答を求める事、自身で出した解答を積極的にグループディスカッション等で発表できる事、この様な力を身に付けたい学生の参加を望んでいる。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	全体の導入	どのようなメンバーとどのような演習を展開してゆくのか、この一年で何を目指すのかを確認する。演習全体の方向性を説明しメンバーの自己紹介等を行う。	予め指示された課題レポートを作成し持参する。
2	個人面談・目標設定	演習を開始するにあたって、個々の学生の興味のある方の確認や、個人目標の設定等を行う。	現在の自分の興味、目標を整理、再確認しておく。
3	平和産業としての観光のあり方の基本を考える（1）	世界は今どの様に動いているのか、世界中で起きている出来事を、歴史的な動きの中から理解する。	現在の世界情勢を理解する基本的なことからを再確認する。
4	平和産業としての観光のあり方の基本を考える（2）	戦後世界の中での平和産業としての観光は、どのような発展を遂げたのか、観光と平和の関わりを確認する。	戦後世界の発展と観光のあり方を再確認する。
5	観光業界の全体像を把握する	観光業界の全体像を把握し、現状のあり方、問題点、今後の課題等を整理、理解する。	観光業界の全体像を再確認する。
6	航空業界を知る（1）	観光の中に占める航空業の役割と民間航空の歴史的展開を理解する。	航空業界の役割を過去に遡って再確認する。
7	航空業界を知る（2）	LCC やアライアンスといった動きがどのような経緯で発生して来たのかを理解する。	LCC やアライアンスといった航空業界の動きを再確認する。
8	航空業界を知る（3）	観光の中に占める航空業界の今後の役割を理解する。	討議を通じ深めた理解を再確認する。
9	鉄道業を知る（1）	明治期以降、日本の運送業に果たしてきた鉄道の役割を理解し、基礎知識を習得する。	鉄道業に関して現在の自分の理解を再確認しておく。
10	鉄道業を知る（2）	日本の鉄道業の現状を理解し、基礎知識を習得する。	討議を通じ深めた理解を再確認する。
11	鉄道業を知る（3）	身近な長崎新幹線建設の現状を把握し、日本の鉄道の今後の展望を考察する。	新幹線の開業と地元への影響を再確認する。
12	都市交通と地方交通を知る（1）	少子高齢化の中で都市交通が抱える問題を理解し、今後の展望を考察する。	都市交通に関して現在の自分の理解を再確認しておく。
13	都市交通と地方交通を知る（2）	少子高齢化の状況での地方交通の問題点を把握する。	地方交通に関して現在の自分の理解を再確認しておく。
14	都市交通と地方交通を知る（3）	少子高齢化の中で地方交通が持つ問題点への対応を検証する。	討議を通じ深めた理解を再確認する。
15	まとめ	各自が半期の研究を振り返り、まとめの発表を行う。	半期のまとめ発表の準備をする。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠA (CF201)			担当教員	井上 英也 (実務経験のある教員)		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ ラーニング の 類 型
本学の建学の理念にあるホスピタリティは、人と人を結びつける重要な素養として、国際化、多様化が進む企業活動においても広く取り入れられています。本演習は、ホスピタリティ産業の先端であるホテルの研究を通じて、“感じる力”“考える力”“表現・行動する力”を養い、将来の観光産業のリーダーを育成することをねらいとします。授業は、個人・グループによる研究、討議、発表により学びを深めます。							②④ ⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標				評価手段・方法		評価比率
専門力	地域観光の核となる宿泊業の役割を理解し、個々のホテル、旅館について、ビジネス、顧客、社員の観点から評価ができる。				課題レポート		10%
情報収集、分析力	常に新聞や雑誌に掲載される最新のホテル関連記事や情報を収集し、世界および我が国のホテル業の潮流について自分なりの見識を持つことができる。				授業への積極姿勢		30%
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、自分の考えを説明することができる。また、パワーポイントを使って説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。				授業への積極姿勢 プレゼンテーション		40%
協働・課題解決力	ホテル視察、研究において、自分の役割を設定し、グループに貢献することができる。また、課題に対する新たなチャレンジに果敢に挑戦することができる。				授業への積極姿勢 現場視察への積極姿勢		10%
多様性理解力	外国人旅行客が地域のホテル・旅館・観光全般に求めることを理解し、改善策を提言することができる。				プレゼンテーション		10%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
「授業への積極姿勢」は、授業中の態度、発言・質問の頻度とレベルをもとに評価する。 「課題レポート」は提出時期（30%）内容の論理性・独自性（50%）文章構成力・形式要件（20%）で評価する。 ③ 「プレゼンテーション」は、内容とともに、情報ツールの活用能力、発表態度などをもとに評価する。 ④ 「現場視察への積極姿勢」は、事前準備、視察中の態度、事後のグループワークのとりまとめなどをもとに評価する							
授 業 の 概 要							
近隣ホテルの視察、研究を通じ、ホテル運営全般の理解を深める。また、福岡、沖縄など地域ごとに様々なカテゴリーのホテルを研究する。個人またはグループの研究は、プレゼンテーションを通じて他のメンバーと成果を共有しながら授業をすすめる。また、授業の理解度をポートフォリオのレスポンスやイマキクを利用して確認する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：特になし / 参考書：演習時に提示する 指定図書：「真実の瞬間」ヤン・カールソン							
授業外における学修及び学生に期待すること							
①ホテル・旅館など宿泊産業の情報に興味を持ち、書籍及び新聞、テレビ、雑誌などメディアから積極的に入手する。 ②ゼミのチームメンバーとは、協力して授業外の研究活動を行う。 ③「宿泊業論」・「ホテルオペレーション」・「ブライダルマネジメント」など関連の科目を履修し、理解を深める。 ④近隣地域の観光イベントに興味を持ち、積極的に参加する。 ⑤国際的な情勢に関心を持ち、学内・学外を問わず、積極的に異文化交流を行う。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション ホテル業の概要	メンバーおよび教員の自己紹介、今後の演習の進め方をシラバスに基づいて詳しく説明する。 現在の日本と世界のホテル業界の動向を学ぶ。	(予習) シラバスを読んでおく
2	個人目標の設定	個人目標を設定するための面談を実施する。	(予習) 本ゼミにおける個人の目標を考えておく
3	ホテル視察 I	ハウステンボス・佐世保周辺のフルサービス型ホテルを視察する。(ホテルアムステルダム予習定)	(予習) ホテルアムステルダムについてウェブサイト調べておく
4	ホテル視察 I の振り返り 客室部門の理解	視察した内容を、グループごとに討議し、発表する。 ホテルの客室部門に関する基礎を理解する。	(予習) 視察した内容をまとめておく
5	ホテル視察 II	ハウステンボス・佐世保周辺のフルサービス型ホテルを視察する。(ホテルオークラ JR ハウステンボス予習定)	(予習) ホテルオークラ JR ハウステンボスについてウェブサイト調べておく
6	ホテル視察 II の振り返り レストラン部門の理解	視察した内容を、グループごとに討議し、発表する。 ホテルのレストラン部門に関する基礎を理解する。	(予習) 視察した内容をまとめておく
7	ホテル視察 III	ハウステンボス・佐世保周辺のフルサービス型ホテルを視察する。(ホテルヨーロッパ予習定)	(予習) ホテルヨーロッパについてウェブサイト調べておく
8	ホテル視察 III の振り返り 宴会・婚礼部門の理解	視察した内容を、グループごとに討議し、発表する。 ホテルの宴会・婚礼部門に関する基礎を理解する。	(予習) 視察した内容をまとめておく
9	ホテル試泊 長崎県内のホテルを試泊	長崎県内のホテルに宿泊し、ホテル館内の視察を通じて、ホテルのインスペクションを行う。 (ANA クラウンプラザ長崎グラバーヒル予習定)	(予習) ANA クラウンプラザ長崎グラバーヒルについてウェブサイト調べておく
10	ホテル試泊に関する プレゼンテーション	試泊によりインスペクションした結果について、グループごとに討議し、発表する。	(予習) 試泊した内容をまとめておく
11	ウェディング施設 視察	佐世保周辺のウェディング施設を視察する。 (ハーバーテラス SASEBO 迎賓館予習定)	(予習) ハーバーテラス SASEBO 迎賓館についてウェブサイト調べておく
12	ウェディング施設視察の 振り返り 婚礼業界の理解	視察した内容を、グループごとに討議し、発表する。 ウェディング・ビジネスに関する基礎を理解する。	(予習) 視察した内容をまとめておく
13	博多地域 ホテル研究 シティ・ホテルの概要理解	博多周辺の手ホテルチェーン傘下のホテルに関し、ブランドごとの特徴を理解する。	(予習) 博多地域にある大手ホテルチェーンのホテルを調べておく
14	沖縄地域 ホテル研究 リゾートホテルの概要理解	沖縄にあるリゾートホテルの地域および各ホテルの特徴を理解する。	(予習) 沖縄にあるリゾートホテルを調べておく
15	専門演習 I A のまとめ	学んだことをグループごとにとりまとめ、発表する。	(予習) グループ発表の準備をする

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A (CF201)			担当教員	落合 知子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブラーニングの類型
博物館等の見学を各自が行い、博物館を資料・展示・保存・研究・展覧会など様々な角度から概観し、博物館を幅広く学ぶとともに、卒業研究のテーマを考える力を身に付けることができる。 地域文化資源の野外調査を行い、その結果を発表することができる。							⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	博物館に関心を持つことができ、調査・研究の取り組み方法を身に付けることができる。					授業・調査への参加	10%
情報収集、分析力	博物館の特性や問題点を見出す力や思考力を養うことができる。書籍や論文を読み分析力を養うことができる。					事前・事後学習	30%
コミュニケーション力	ゼミ形態の授業を基本とし、学外のフィールドワークで協調性を養うことができる。					調査における態度	50%
協働・課題解決力	博物館の調査方法を身に付け、プレゼンテーションができる。勉強会に積極的に参加して、自分の考えを述べることができる。					プレゼンテーション	10%
多様性理解力							%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
合同調査や勉強会におけるコミュニケーション力が 50%、情報収集・分析力が 30%、プレゼンテーションおよびその他が各 10% で評価する。ポートフォリオで課題のフィードバックを行う。							
授 業 の 概 要							
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。 ・ 書籍・文献調査の課題提示をポートフォリオを通して行う。 ・ 勉強会を実施する。 ・ 研究発表会を行う。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
参考書：『博物館と観光』（落合知子編・雄山閣） 指定図書：『野外博物館の研究』（落合知子著・雄山閣）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習は、博物館や地域文化資源に興味を持ち、博物館専門職員である学芸員の資格取得を目指す学生の受講を希望する。教育者でもあり、研究者でもある学芸員は専門分野の知識は勿論のこと、コミュニケーション能力と礼節が求められるため、社会人としての基礎的能力を身に付けることを期待する。 また、日頃から博物館施設に訪れ、展示を見学するだけでなく、博物館で開催されるワークショップや公開講座にも積極的に参加し、博物館の教育活動の在り方を学ぶことが望ましい。 ※本演習を選択する学生は「学芸員資格課程」を履修することが望ましい。 ※見学・調査費用は実費とする。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	オリエンテーション	専門演習の進め方・目標について	予習：シラバスを読む 復習：博物館調査館の考案
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	見学館の事前学習①	博物館調査の場所・日程等について検討する。 博物館調査の具体的内容と割振りをする。	予習：博物館予備調査 復習：今回の復習
4	見学館の事前学習②	各担当者の事前学習の発表。	予習：発表の準備 復習：発表の反省
5	見学館の事前学習③	各担当者の事前学習の発表。	予習：発表の準備 復習：発表の反省
6	博物館調査	博物館及び地域文化資源の調査をする。	予習：調査内容の確認 復習：調査結果の整理
7	レポート作成要領	研究成果レポートの作成要領を理解する。	予習：レポート内容確認 復習：作成要領の復習
8	文献資料の収集と分析	調査で収集した文献・資料を理解する。	予習：調査収集資料の確認 復習：調査結果の整理
9	レポート作成	レポートを作成する。	予習：レポート執筆準備 復習：レポート執筆
10	レポート作成	レポートを作成する。	予習：レポート執筆 復習：レポート執筆
11	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：レポート執筆 復習：口頭発表の準備
12	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
14	レポートの添削指導	添削されたレポートを修正する。	予習：レポートの修正 復習：レポートの修正
15	前期レポートの受理	前期のまとめとして、修正した研究成果レポートを提出する。	予習：レポート提出準備 復習：文献・資料の整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A (CF201)			担当教員	熊谷 賢哉		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブラーニングの類型
トレーニング科学に関するテキストの輪読を通して、トレーニング科学に関する基礎的知識を理解すると共に、トレーニング科学と密接に関連した学問である運動生理学に関する基礎的知識を理解することを目的とする。また、これらの基礎的知識を、自分が行っている種目や、関心がある種目に応用して考えることができるようになることを目的とする。更に、テキストで扱う、ウェイトトレーニングの実践方法については、実践（実技）を通して修得することを目的とする。							① ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・方法	評価比率
専門力	- 運動生理学およびトレーニング科学に関する基礎的知識を理解することができる。 - ウェイトトレーニングの実践方法を修得する。					- プレゼン用レジュメ - 実技試験	10% 10%
情報収集、分析力	自分が行っている種目や、興味がある種目を、トレーニング科学および運動生理学の観点から考えることができる。					プレゼン後のディスカッション	30%
コミュニケーション力	ディスカッションにおいて自分の意見を述べることができる。					- プレゼンテーション - プレゼン後のディスカッション	50%
協働・課題解決力							%
多様性理解力							%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
プレゼンテーションおよびプレゼン後のディスカッション（80%）については、担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、その周辺領域に関する知識も把握した上でのプレゼンテーションとする。プレゼン用レジュメ（10%）については、プレゼンテーションを行うにあたり、その内容がしっかりと要約できているかを評価基準とする。実技試験（10%）については、正しいウェイトトレーニングの方法について理解した上で実践できているかを評価基準とする。							
授 業 の 概 要							
トレーニングに関するテキストを輪読していく（①担当箇所(担当者)の決定、②担当箇所を精読、③要約、④レジュメ作成、⑤報告、⑥ディスカッション）。なお、②～④の行程については、担当者が事前（ゼミ時間外）に準備するものとする。また、テキストの内容で、本学にて実習形式にて実際に行えるものについては、積極的に行っていく。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：特に指定しない 参考書：『ウィダー・トレーニングバイブル』ウィダー社 指定図書：『ウィダー・トレーニングバイブル』ウィダー社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本ゼミで行う内容に興味を持ち積極的に参加してほしい。そのためには、ゼミ時間外に、ゼミで行った内容につ							

いて復習を通して理解すると共に、ゼミで行った内容の周辺領域の知識について予習する等の取り組みを行ってほしい。また、知識の修得や理解の以前に、“ヒト”としてではなく“人”として、そして大学生としての最低限のマナーをもって教員やゼミ生と接してほしい。メリハリ（学ぶときは学び、遊ぶときは遊ぶ）を大切に！

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
2	オリエンテーション	自己紹介、ゼミの進め方について、輪読担当箇所の決定	担当者：担当箇所（ウェイトトレーニングの科学(1)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：ウェイトトレーニングの科学(1)の精読
3	輪読（1）	ウェイトトレーニングの科学(1)「負荷の質」	担当者：担当箇所（ウェイトトレーニングの科学(2)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：ウェイトトレーニングの科学(2)の精読
4	輪読（2）	ウェイトトレーニングの科学（2）「トレーニングの量」	担当者：担当箇所（ウェイトトレーニングの科学(3)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：ウェイトトレーニングの科学(3)の精読
5	輪読（3）	ウェイトトレーニングの科学（3）「トレーニングと休養」	ウェイトトレーニングの科学(1)～(3)の復習 新体力テストの測定方法について（予習）
6	測定評価（1）	新体力測定（測定評価）	担当者：担当箇所（子供のためのトレーニング(1)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：子供のためのトレーニング(1)の精読
7	輪読（4）	子供のためのトレーニング(1)「いつからトレーニングをはじめたらよいか？」	担当者：担当箇所（子供のためのトレーニング(2)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：子供のためのトレーニング(2)の精読
8	輪読（5）	子供のためのトレーニング(2)「子供とスポーツ」	担当者：担当箇所（子供のためのトレーニング(3)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：子供のためのトレーニング(3)の精読
9	輪読（6）	子供のためのトレーニング(3)「子供のアスリートの怪我」	担当者：担当箇所（子供のためのトレーニング(4)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：子供のためのトレーニング(4)の精読
10	輪読（7）	子供のためのトレーニング(4)「子供の怪我の特徴」	子供のためのトレーニング(1)～(4)の復習 最大酸素摂取量の推定方法について（予習）
11	測定（2）	最大酸素摂取量の推定（測定）	課題レポート（歳大酸素摂取量の推定について）
12	測定評価（2）	最大酸素摂取量の推定（評価）	担当者：担当箇所（スポーツマンの栄養(1)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：スポーツマンの栄養(1)の精読
13	輪読（8）	スポーツマンの栄養(1)「スポーツマンの栄養」	担当者：担当箇所（スポーツマンの栄養(2)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：スポーツマンの栄養(2)の精読
14	輪読（9）	スポーツマンの栄養(2)「エネルギー」	担当者：担当箇所（スポーツマンの栄養(3)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：スポーツマンの栄養(3)の精読
15	輪読（10）	スポーツマンの栄養(3)「栄養素」	スポーツマンの栄養(1)～(3)の復習

授業科目(ナンバリング))	専門演習ⅠA ((CF201))			担当教員	嶋内 麻佐子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ ラーニング の 類 型
本演習では、日常生活のなかで飲まれている日本茶の基礎知識を知り、色々なシーンでのおもてなし(実践)ができる力を養う。ここでは実際に地域で栽培されている茶葉の生産に触れ、茶葉の種類により色々なシーンでのおもてなしに使用できる茶を試飲することでお茶のイメージを明確にする。また、美味しいお茶の淹れ方を実践し日本茶のおもてなしの基礎知識を身につけることができる。							①②③ ⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	茶葉の種類の特長を知り、茶葉の選び方が比較できる。茶系飲料の利用法について情報を収集し、茶葉の種類の特長と茶器の種類を学び、おもてなしのシーンごとに使用する茶葉を使用してお茶を淹れることができる。TPOにあう茶の淹れ方について議論することができる。					・ディスカッション	20%
コミュニケーション力	茶の淹れ方を学び、それぞれのお茶のおいしさを理解できる。お茶(玉露・煎茶・ほうじ茶・ペットボトルの茶・インスタントの茶など)の特長を活かした実演をそれぞれのお茶のおいしさを確認できる。					・課題レポート ・プレゼンテーション	50%
協働・課題解決力							
多様性理解力	日本茶の基礎知識を学び、それによる接客内容の違いについて説明できる。					・課題レポート	30%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
・課題レポートは、50%、課題に対するディスカッションを20%、プレゼンテーションを30%とする。課題レポートは、それまでの授業内容に関する課題を問う。また、レポートのフィードバックを授業で行う。茶葉の種類にあう美味しい淹れ方を実演し、全員でディスカッションを実施する。 ・もてなしの基本概念や方法についての理解を前提に、独自性のある茶会の企画力を身につけているか課題レポートを通して評価する。 ・さらに課題レポートでは、第10回～14回のおもてなし実践の立案計画の際、理論的かつ独自のアイデアが組み込まれているかを評価基準とする。 ・課題レポートについて、ポートフォリオに提出させ、内容を確認する。							
授 業 の 概 要							
・参考書にそって日本茶の基礎知識を学ぶ。茶葉を収集し、オリジナルのお茶を作る。 ・おもてなしを実践するために、美味しいお茶の淹れ方(茶葉の選択・温度・水・茶器)を習得する。 ・日常生活の中でのおもてなしについて、斬新なアイデアを考え、ゼミ内で発表する。 ・日本茶と町おこしに関する事例を研究し、ゼミ内で報告する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教 科 書 ・ 参 考 書							

教科書：見城徹『知識ゼロからの日本茶入門』幻冬舎、2009

参考書：NPO法人日本茶インストラクター協会『日本茶のすべてがわかる本』社団法人農産漁村文化協会、2008

指定図書：木下是男『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫、1994

授業外における学修及び学生に期待すること

- ・専門演習での取り組みを含め、学外で実施されている茶会に積極的に参加する。
- ・茶会の軸である人と人、人と物に対する感性をしつかり磨く。
- ・学内の行事は勿論インターンシップに参加して、社会人基礎力身につける。
- ・本演習を選択するものは「茶道文化」を履修することが望ましい。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	導入	日本における「茶」の始まりと展開について述べる。 専門演習Ⅰの進め方やゼミ活動について説明する。	シラバスを読んでくる。
2	日本茶の基礎知識（1）	お茶の歴史と文化について（日本のお茶の起源）説明する。	緑茶についてインターネットで検索し、その内容をまとめてみる。
3	日本茶の基礎知識（2）	茶の種類と入れ方の違いを学ぶ。実際に茶器を使い基本的な煎茶の入れ方を実践し、色・香・味について比較する。	茶器について調べる。
4	日本茶の基礎知識（3）	実践：おいしいお茶を淹れる。（玉露・番茶）	日本茶の種類を調べる。
5	日本茶の基礎知識（4）	ペットボトルの茶と缶入りの茶を試飲し、色・香・味の比較をする。また、どのお茶が売れているのか、その理由を調べる。	各自お気に入りのペットボトルの茶と缶入りの茶を捜し、持参する。
6	日本茶の基礎知識（5）	ティーバック・インスタント茶等の茶系飲料が伸びている背景を探る。	茶系飲料についてインターネットで検索し、その内容を分析する。
7	日本茶のおもてなし（1）	丁寧な日本茶でのおもてなしについて考える。	もてなしについてアイデアを練る。
8	日本茶のおもてなし（2）	ビジネスでの日本茶のおもてなしについて考える。	もてなしについてアイデアを練る。
9	日本茶のおもてなし（3）	カジュアルでの日本茶のおもてなしについて企画・準備する。	もてなしについて企画する。
10	日本茶のおもてなし（4）	自分流のおもてなしについて報告する。	資料を作成し報告する。
11	シーンごとのもてなし（1）	ビジネスでのおもてなしの茶について考える。	シーンごとのもてなしの茶について考え、レポートを作成する。
12	シーンごとのもてなし（2）	特別なおもてなしの茶について考える。	特別なもてなしとは？どのような場面か考える。
13	おもてなし実践（1）	現代流のおもてなし（カジュアルなもてなし）の茶を立案・企画する。	茶会の企画案を作成する。
14	おもてなし実践（2）	現代流のおもてなしの茶を実施する。	茶会の準備・実践をする。
15	まとめ	茶会の基本的な考え方について、総括する。	これまでの講義資料とレポートを整理する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠA (CF201)			担当教員	滝 知則		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ ラーニング の 類 型
三川内焼の特徴と魅力を、2つの言葉でガイドする 観光学の基本的な理解と、佐世保・西九州に関わる国際交流史の学修に基づいて、三川内焼の特徴を説明できるようになる（2つの言語で）。これらを通じ、佐世保の観光対象としての三川内焼の魅力を理解するとともに、コミュニケーション能力を伸ばす。							④ ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	研究対象とする陶磁器の歴史と制作過程を理解し、説明できる。				期末レポート		10%
情報収集、分析力	資料調査、観察またはインタビューを行うことにより、対象とする陶磁器の情報を収集する。				期末レポート		25%
コミュニケーション力	調査結果を聞き手に分かりやすく並べ替え、説明できる。ゼミのメンバーならびに担当教員の発言を傾聴できる。				ゼミ内発表会 演習への貢献度		35% 10%
協働・課題解決力	三川内町でのフィールドワークの際、3年生と一緒に調査を行うことができる。				フィールドワーク参加		10%
多様性理解力	ゼミのメンバーと自分の文化的背景の違いを認識したうえで、お互いを尊重して行動できる。				演習への貢献度		10%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
1. 評価基準を授業の時系列順に示すと、授業中の傾聴（毎回）、自他の文化の尊重（毎回）、フィールドワーク参加状況（実施時）、ゼミ内発表会（グループワーク）、期末レポートである。 2. フィードバックは次の時点で行う。予習課題・復習課題（マナバに出題）：授業中、プレゼンテーション：当該授業時、期末レポート：提出締切後（個別に）							
授 業 の 概 要							
ゼミ生どうしで協働し、各種資料の調査、レポートの作成ならびに報告する経験を積み重ねる。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：指定しない。 参考書：『平戸の文化と自然』、『皿山なぜなぜ』、『長崎学への道案内』、『日本やきもの史』等。 指定図書：大橋康二（2004）海を渡った陶磁器。吉川弘文館。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
（1）開国祭での学術発表への参加を、必須とする。（2）ようこそ JAPAN 外国語コンテストへの出場または運営の支援が望ましい（必須ではない）。（3）3コースの履修生の受講を勧める。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	イントロダクション	この科目の目的と目標、ならびに学習スケジュールを確認する。	(予習) シラバスの内容を理解し、質問に答えられるようにしておくこと。 (復習) 指定された資料を収集し、次回に持参すること。
2	省察	1年後期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	(予習) 面談の準備。 (復習) 面談結果を記録しておく。
3	事前準備 1	①三川内焼の概要、②三川内へのアクセスについての調査結果の報告	(予習) 自分で集めた情報ならびに配布された情報を読み、内容を理解しておく。
4	事前準備 2	①陶磁器の製作方法、②部分の名称についての調査結果の報告	(復習) 指示された事項の説明を箇条書きのリストにし、次回提出する。
5	事前準備 3	フィールドワークのスケジュール決定	(予習) 演習で提示できるようにスケジュール案を作成する (復習) スケジュール通りに実施するための確認をする。
6	フィールドワーク実施	フィールドワークの実施	(復習) 次回での報告に向け、調査メモを整理し、印刷する。写真・動画は報告に使うものを絞り込んでおく。
7	フィールドワーク 振り返り 1	フィールドワークの報告 (速報)	(予習) 5 分程度の報告メモを作成・印刷する。(復習) 各人の報告のよかったところをメモにまとめ、次回提出する。
8	文献講読 1	中国の陶磁器の歴史	(予習) 所定の資料の要約 (復習) 「速報」に追加する内容を、次回で提出する。
9	文献講読 2	朝鮮の陶磁器の歴史	
10	文献講読 3	三川内焼の特徴	
11	文献講読 4	佐世保と三川内の観光の現状	
12	フィールドワーク 振り返り 2	①第 8 週～第 11 週の学習内容を「速報」に反映させたプレゼンテーションを作成する。	(予習) プレゼンの作成 (復習) 見つかった改善点を考慮してプレゼン資料を修正し、次回で提示する。
13	フィールドワーク 振り返り 3	②プレゼンテーションの内容を、リーフレット (A4 版 1 ページ) にまとめる。	
14	ゼミ内発表会	①各ゼミ生によるプレゼンテーション (3 分間) ②リーフレット ①・②とも「分かりやすさ」に留意し、相互に評価する。	(予習) プレゼンの練習 (復習) ①プレゼンの評価、②目標到達状況の確認
15	全体のまとめ	①この科目で学習した内容のふりかえり、②所期の目標に到達したか、③後期に向けての改善点、④次の調査対象地の検討、⑤期末レポートの指示	(予習) 三川内焼についてのさらなる調査事項のリストを用意する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠA (0F201)			担当教員	田中 誠		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
- 身近な内容に関して、英語で表現できるようになり、多文化共生社会において交流することができる。 - 特定のテーマに関して、自ら事前に調べ発表することで学びや知識を深め、様々な問題解決に役立つ思考や判断をすることができる。 - TOEICの基礎的な内容を理解し、それを実際のコミュニケーションに活かすことができる。							① ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	TOEIC 450点レベルの語法問題を概ね解くことができる。					・テスト	25%
情報収集、分析力	基礎レベルの問題の情報収集、及び解決のための思考・判断能力を身につけ、その内容を発表することができる。					・受講者の発表	30%
コミュニケーション力	(1)基礎的なコミュニケーションのために必要な知識を理解し、コミュニケーションがうまくいかない場合は、なぜうまくいかないのかを説明することができる。					(1) 受講者の発表	25%
	(2)コミュニケーション力をつけるための課題英文を適切に書くことができる。					(2) 課題	20%
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
1. 毎回、コミュニケーション力をつけるための英文音読筆写の課題を提出してもらう。また、そのフィードバックは課題提出時にその都度行う。 2. 14回目に30分のテストを実施。テスト内容はTOEICの形式とする。テスト後はポートフォリオでフィードバックを行う。 3. 担当箇所の発表内容を評価の対象とする。準備不足の学生は減点となる。							
授業の概要							
英語と日本語の実際の場面で使用される様々な表現を学ぶとともに、与えられたテーマに関して議論し、理解を深める。また、TOEICの基礎を学ぶ。(コースの指定は特になし。) この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：『脱文法 100トピック実践英語トレーニング』中山誠一(他)、ひつじ書房。及び、プリント配布。 参考書：『新TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ』TEX 加藤(著)、朝日新聞出版。 『新TOEIC TEST 入門特急 とれる600点』TEX 加藤(著)、朝日新聞出版。 指定図書：『英語はもっと科学的に学習しよう』白井恭弘(著)、中央出版。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
コミュニケーション能力向上のために自ら学ぶという努力をしてもらいたい。この演習は、自ら学ぼうとする学生向けの内容となっている。英語と日本語双方の言語に関して、コミュニケーション能力の向上を目指し、ハイレベルな内容を取り扱うので、英語力と日本語力の両方がないと授業についていくのは難しい。特に、留学生は日本語能力がN1レベルないと授業内容を理解するのは難しいであろう。毎回、課題も出るので、一生懸命学ぼうと努力する必要があることを理解して履修すること。また、長期インターンシップに参加する学生を歓迎する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	オリエンテーション	ゼミがスムーズに運営できるように、オリエンテーションを行う。英語の習得方法、本専門演習の意義などについて	予習：TOEIC の最新情報について調べる 復習：音読筆写
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	「イメージでつかむ」前置詞	前置詞のイメージ、翻訳研究、ディスカッション TOEIC 問題	予習：TOEIC 1-10 について調べる 復習：英文 1-10 音読筆写
4	1 つに決まる the	冠詞のイメージ、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 11-20 について調べる 復習：英文 11-20 音読筆写
5	導く that を使いこなす	導く that のイメージ、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 21-30 について調べる 復習：英文 21-30 音読筆写
6	自分の意見を言う①	効果的なグループディスカッションについて学ぶ①。 (レベル1)、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 31-40 について調べる 復習：英文 31-40 音読筆写
7	迫ってくる「現在完了」	ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究、現在完了のイメージ	予習：TOEIC 41-50 について調べる、小テスト準備 復習：英文 41-50 音読筆写
8	躍動する「進行形」	進行形のイメージ、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 51-60 について調べる 復習：英文 51-60 音読筆写
9	すべての-ing は躍動する	躍動する-ing 形のイメージ、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習 TOEIC 61-70 について調べる 復習：英文 61-70 音読筆写
10	未来を表す表現	ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究、未来表現の方法	予習：TOEIC 71-80 について調べる 復習：英文 71-80 音読筆写
11	助動詞を使いこなす	助動詞の使い方、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 81-90 について調べる 復習：英文 81-90 音読筆写
12	自分の意見を言う②	効果的なグループディスカッションについて学ぶ② (レベル1)、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 91-100 について調べる 復習：英文 91-100 音読筆写
13	過去形が「過去じゃない」とき	過去形のイメージ、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 101-110 について調べる 復習：英文 101-110 音読筆写
14	仮定法を使いこなす、テスト	英単語もイメージで、ディスカッション、TOEIC 問題 テスト実施、翻訳研究	予習：試験の準備学習、 復習：音読筆写
15	まとめ	休暇中の学びについて、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 111-120 について調べる 復習：英文 111-120 音読筆写、振り返り

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠA (CF201)			担当教員	安部 雅隆		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブラーニングの類型
・経済・企業・社会の3つが我々の生活の中でどのように結びついているかを理解できるようにする。 ・日々の株価や為替の動向を注視していくことで、世の中の経済の流れについて大まかに把握できるようにする。 ・ある事象について収集した情報を基に、プレゼンテーション用のソフトを用いて人前で伝える能力及びディスカッションを行うことで自分の考えを短時間でまとめて伝える能力を養成する。							①⑤ ⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	企業の基本的な収益構造が理解できる。 また企業が属している業界の構造について、その規模や動向、地図などを理解できる。					・課題レポート ・受講者の発表 ・授業内での発言内容	20%
情報収集、分析力	企業情報を示す客観的データから、その企業の特徴、問題点などを類別できる。					・課題レポート ・受講者の発表 ・授業内での発言内容	30%
コミュニケーション力	収集した情報を簡潔にまとめ、プレゼンテーション用ソフトを用いて人前で発表することができる。					・受講者のプレゼン	35%
協働・課題解決力							%
多様性理解力	『企業』の存在意義を理解でき、ビジネスへの関心が高まる。 企業で『働く』ということの重要性を認識できる。					・授業内の発言頻度	15%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
・各章ごとにプレゼンテーションを、また最終回にプレゼンテーションおよび課題レポート提出を課す。課題レポートについては、理論的かつ独創的な思考を内包しているかを評価する。プレゼンテーションの評価基準もこれと同様だが加えて時間内に簡潔にまとめられているかについても評価の対象とする。最終回に課す課題レポートおよびプレゼンテーションの内容は授業内で指示をする。 ・授業態度・授業への参加については、発表の内容とディスカッションへの参加度合いを評価する。							
授 業 の 概 要							
以下の2点を中心に据えながら、本演習を進めていく。							
1. 教科書を輪読し経営学の基礎的知識を修得する。その際、各章ごとに担当を決定し内容に関してプレゼンテーションを行う。プレゼンテーション後には、その評価を含め、発表内容について全員でディスカッションを実施する。 2. ひとつの企業を選定しその企業の概要や置かれている業界の構造、またその企業に孕む問題点を考察し発表する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：「1からの経営学」（中央経済社）							
参考書：「ゼミナール経営学入門」（日本経済新聞社） 「入門経営学」（新世社）							
指定図書：「1からの経営学」（中央経済社）「(留学生には別途、授業中に指示する)」							

授業外における学修及び学生に期待すること

コースについては問わないが、下記のいずれかに該当する学生の履修を希望する。

- ・経営に興味を抱くもの
- ・将来新規ビジネスを起業しようと考えているもの
- ・店舗経営等に関心を寄せるもの
- ・人前で話す力やプレゼンテーション能力の向上に努めたいもの

なお、実社会のビジネスを体感できるという観点から「長期インターンシップ」を履修することを強く推奨する。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習・復 習
1	オリエンテーション	本演習の受講者の紹介や演習形式の説明、また円滑な運営を行っていく上でのルール等の説明を行う。	自己紹介の準備
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する。	予習；前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習；本学期的目標設定の清書
3	業界地図から産業構造を学ぶ	世間にはどのような産業が存在するのかを、業界地図を使って研究する。	業界地図とは何かを調べる
4	基礎知識の習得①	『企業経営の全体像』について基礎的知識を理解する。	教科書の該当箇所を読む
5	基礎知識の習得②	『経営学の全体像』について基礎的知識を理解する。	教科書の該当箇所を読む
6	基礎知識の習得③	『企業と社会の結びつき』について基礎的知識を理解する。	教科書の該当箇所を読む
7	基礎知識の習得④	『株式会社の仕組み』について基礎的知識を理解する。	教科書の該当箇所を読む
8	実際に株を購入する①	『株式とはなにか』について説明した後、実際に企業を選定してその企業の株を購入してみる。	売買する株を選定する
9	実際に株を購入する②	購入した株価の推移を分析する。	購入した株式の推移を事前にまとめる
10	基礎知識の習得⑤	『企業とインプット市場との関わり』について基礎的知識を理解する。	教科書の該当箇所を読む
11	基礎知識の習得⑥	『企業とアウトプット市場との関わり』について基礎的知識を理解する。	教科書の該当箇所を読む
12	レポート作成要領およびプレゼン要領の説明	レポートの作成要領およびプレゼンテーションのやり方について指示する。	これまでレポートの書き方を各自まとめる
13	研究発表①	担当者が発表し、それについて全員で議論する。	担当者はプレゼン準備
14	研究発表②	担当者が発表し、それについて全員で議論する。	担当者はプレゼン準備
15	総まとめ	これまでのまとめを行う。 また完成したレポートを提出する。	レポート提出

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠA(CF201)			担当教員	乙須 翼		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ ラーニング の 類 型
本演習では、受講者がテーマに関するデータや報告書等の文献を読み、レジュメを作成して発表し、議論することを通じて、受講者の情報を収集する力、情報を批判的に分析する力、自分の考えを的確に説明する力、論理的な文書を書く力、これら基礎力の養成をはかりたい。テーマを「学校から世界を見る」とし、受講者が、学校という場所の国際比較を通して日本と世界の教育文化の違いを理解するとともに、世界の人々の生活や文化、社会へと関心を広げていけるよう導きたい。							⑤⑥⑧
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							%
情報収集、分析力	データや報告書、文献などを的確に読み取ることができる。					レジュメ 発表と議論	15% 15%
コミュニケーション力	指定された形でレジュメを作成し、発表することができる。 特定のテーマに関して他の受講者と議論することができる。					レジュメ 発表と議論	20% 30%
協働・課題解決力							
多様性理解力	日本の学校の基本的な特徴を説明することができる。 日本と他国の学校を比較し、その違いや共通点を、背景となる文化や歴史等から自分なりに考察し、説明することができる。					レジュメ 発表と議論	10% 10%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価については、レジュメの様式・内容を 45%、発表と議論を 55%の比率で評価する。レジュメは、様式や文献引用ルールの順守等、基本的なアカデミック・スキルと、論理的な文章による考察や独自性などの観点から評価する。レジュメの作成方法については演習中に予め指示をし、演習内で随時、修正個所の指摘やアドバイス等、コメントする。発表と議論については、テーマに対して批判的・探究的な態度で臨んでいるか、発言し、議論に参加しているかなどを基準に評価する。演習の無断欠席（特に課題発表の担当となっている日の欠席）は大幅に減点する。							
授 業 の 概 要							
授業については概ね次の内容、手順によって進める。1. 比較教育に関する文献を読み、学校を比較する視点や意義について理解する。2. 日本の学校の特徴について基本的な事項を確認し、理解を深める。3. 国際機関等が作成した子どもの教育に関するデータや資料を概観し、国による教育の違いを大まかに理解する。4. 各自興味を持った国を選び、その国の学校について文献を用いて紹介する。なお、授業の進め方については受講者の人数等により若干変更する場合がある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：特に指定しない（資料は適宜配布する） 指定図書：二宮皓編著『新版 世界の学校』（2013）学事出版 参考書：二宮皓編著『世界の学校』（2006）学事出版 文部科学省『諸外国の初等中等教育』（2016）明石書店 文部科学省『諸外国の教育動向 2017 年度版』（2018）明石書店							
授業外における学修及び学生に期待すること							
※発表担当でない回も必ず資料を事前に講読し、キーワードの意味や関連資料及び新聞等を調べて演習に臨むこと。 ※本演習は下記いずれかに該当する学生の受講を希望する。コースについては問わない。 ・教職課程を履修しているもの ・将来指導者等として子どもに関わろうとするもの ・子どもや教育の問題について関心のあるもの ・人々の生活・文化・社会の国際比較に興味があるもの ※本演習受講者（特に教職課程を履修せずに本演習を希望する者）には「教育学」（前期開講）の受講を勧める。 ※専門演習ⅠA終了後、夏期休暇中の課題として本1冊の講読を求める（IBにて発表）。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介および演習の進め方を説明する。	予) シラバスの確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ホスピタリティ・ルーブリックを用いて前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予) 前学期の省察と本学期の目標設定 復) 本学期の目標の確認
3	興味関心を高める	子どもの教育に関わる新聞記事について各自発表し、興味関心を高める。	予) 新聞記事の収集 復) 議論を振り返る
4	考察の視点を学ぶ①	比較教育に関する文献を読んで、学校を比較する視点や意義について理解する。	予) 指定された文献の講読 復) キーワードを中心に文献を復習する
5	考察の視点を学ぶ②	比較教育に関する文献を読んで、学校を比較する視点や意義について理解する。	予) 指定された文献の講読 復) キーワードを中心に文献を復習する
6	考察の視点を学ぶ③	比較教育に関する文献を読んで、学校を比較する視点や意義について理解する。	予) 指定された文献の講読 復) キーワードを中心に文献を復習する
7	考察の視点を学ぶ④	比較教育に関する文献を読んで、学校を比較する視点や意義について理解する。	予) 指定された文献の講読 復) キーワードを中心に文献を復習する
8	基礎知識の確認をする①	日本の学校の特徴について、基本的な事項を確認し、理解を深める。	予) 日本の学校の特徴を整理する 復) 日本の学校に関する基本的事項の復習
9	基礎知識の確認をする②	日本の学校の特徴について、基本的な事項を確認し、理解を深める。	予) 日本の学校の特徴を整理する 復) 日本の学校に関する基本的事項の復習
10	基礎知識の確認をする③	国際機関等が作成した子どもの教育に関するデータや資料を概観し、国による教育の違いを大まかに理解する。	予) 外国の教育について知っていることを整理する 復) 世界の教育に関する基礎データの復習
11	報告手法を習得する	報告手法(担当者の割り振り、文献の報告箇所の確認、レジュメの作成方法・形式、プレゼンテーションの方法など)を説明する。	予) プレゼンテーションの手法について調べる 復) 報告手法の確認
12	報告・議論する①	担当者がレジュメを用いて担当国の学校について報告し、全員で報告内容について議論する。	予) 報告準備と文献の該当箇所の講読 復) レジュメをもとに議論を振り返る
13	報告・議論する②	担当者がレジュメを用いて担当国の学校について報告し、全員で報告内容について議論する。	予) 報告準備と文献の該当箇所の講読 復) レジュメをもとに議論を振り返る
14	報告・議論する③	担当者がレジュメを用いて担当国の学校について報告し、全員で報告内容について議論する。	予) 報告準備と文献の該当箇所の講読 復) レジュメをもとに議論を振り返る
15	報告・議論する④	日本と世界の学校の違いについて本演習で学んだことを整理し、発表する。夏季休暇後のスケジュールを確認する。	予) 発表準備 復) レジュメをもとに議論を振り返る

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A (CF201)			担当教員	尾場 均		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ ラーニング の 類 型
社会人として必要な幅広い教養的知識を有し、デザイン力、コンピュータや放送に関わる資格取得を個別に目指す。(コンピュータ関連資格、インターネット情報士、ビジネス著作権、色彩検定など) 佐世保市のコミュニティ FM で毎週日曜日に放送される 60 分の生番組を担当する。観光の情報発信の手段として取材や調査をして FM 放送の番組を制作し情報発信する。またコンピュータの操作スキルの向上とメディアリテラシーを身につける。昨年度は番組出演、ラジオドラマ制作、動画編集など。							⑥ ⑪
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・方法	評価比率
専門力	情報機器や情報技術の出来事に常に関心を持ち、正しく理解することができる。					課題レポート (ポートフォリオ)	10%
情報収集、分析力	発信する情報内容に責任を持ち、情報の真偽を判断することができる。					課題レポート (ポートフォリオ)	20%
コミュニケーション力	情報に関するツールを使いこなし、プレゼンテーション力を身につけることができる。					課題提示に対する放送によるプレゼンテーション	40%
協働・課題解決力	地域活性化とイベントに関心を持ち、専門演習での活動に積極的・意欲的に参加することができる					授業態度・活動への参加度	10%
多様性理解力	社会人として必要な幅広い教養的知識を身につける。					文献を要約	10%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
活動への積極的な参加度。情報コンテンツの理解と開発内容。検定試験への取り組み度 ポートフォリオ・Web による情報交換の活用度、グループディスカッションでの内容 映像作成・ラジオ番組に必要な取材および原稿内容と発表内容 地域における調査やイベントの企画・実施等フィードバックは、ポートフォリオを通して行う。							
授 業 の 概 要							
インターネット技術を理解しコンピュータ関連の資格取得関連はメディアルームや演習室で実施する。 まちづくりや放送に関する演習は現地で実施し、学内スタジオや中心市街地に設けられた放送スタジオにて行う。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：なし 参考書： わかりやすく〈伝える〉技術（講談社現代新書） 指定図書：伝える力 PHP 研究所							
授業外における学修及び学生に期待すること							
授業外で多くの活動を実施するが、欠席なく積極的に参加することを期待する。 情報機器や放送機器の活用により、情報コンテンツの企画力・実践力を身につけ、まちづくりや地域振興に関係する人々と出会い、一緒に参加し専門知識や社会人基礎力を身につけることを期待する。 ※本演習を選択するものは次のコースを履修すること。 観光マネジメント グローバルツーリズム スポーツツーリズム							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	専門演習の導入	演習の説明および授業における到達目標の決定	事前に研究室ホームページを参照し活動内容を理解
2	番組視察	放送現場の視察およびまちづくりに関する活動	活動拠点・スタジオの場所を把握する。
3	資格試験対策・面談	資格試験対策のポートフォリオ・Webの演習 個人目標設定のための面談を実施する	資格の調査分析
11	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	番組テーマの決定
5	活動参加	放送現場の視察およびまちづくりに関する活動	活動拠点をインターネットで調査
6	資格試験対策	資格取得の内容分析	資格の調査分析
7	プレゼンテーション	プレゼンテーション作成の基礎ソフトウェア操作の演習	プレゼンテーション機器の活用
8	デザインツールの活用	ソフトウェアの操作習得	映像関連ソフトの導入
9	デザインツールの活用	アニメーション画像技術、画像編集	映像関連ソフトの活用
10	デザインツールの活用	プロ志向の本格的なデザインの演習（パス・アンカー処理）	デザイン関連ソフト導入
11	デザインツールの活用	プロ志向の本格的なデザインの演習（レイヤー・グラデーション処理）	デザイン関連ソフト活用
12	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	番組テーマの決定
13	情報発信	コンテンツ作成と管理、番組出演、まちづくりに関する活動	作成原稿の確認と読み合わせ
14	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	コンピュータを使い作成する
15	情報発信	番組出演、まちづくりに関する活動	番組テーマを決定して作成原稿の確認

授業科目(ナンバリング)		専門演習 I A (CF201)		担当教員	小島 大輔			
展開方法		演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い								アクティブ ラーニング の 類 型
本演習では、観光という視点から学んだ経済、国際情勢、歴史、地理、まちづくりなどに対する深い理解を社会科・地理歴史科教育の現場で活かすために、以下の能力を涵養することをねらいとしている。 ・社会科・地理歴史科教育に関する基礎知識を収集・分析することで、中学校・高等学校教諭になるために必要な自己の成長などに役立てることができる。 ・グローバル社会における社会科・地理歴史科の教育者という視点で、意見を傾聴するとともに、自分の考えを明確にした上で、意見を交換し、相互理解を図ることができる。								⑤⑥⑨
ホスピタリ ティを構成する 能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・ 方法	評価 比率	
専門力								
情報収集、 分析力	社会科・地理歴史科に関する基礎的知識を類別できる。 社会科・地理歴史科に関する基礎的知識を収集・分析し、基礎的な用語の使用法を類別することができる。					小テスト 課題レポート	10% 30%	
コミュニケー ション力	社会科・地理歴史科教育に関する基礎的知識を説明できる。 社会科・地理歴史科の知識の位置付けについてディスカッションで きる。					受講者の発表 授業への参加度	30% 30%	
協働・課題解 決力								
多様性理解力								
出 席						受験要件		
合 計						100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明								
・小テストについては、使用したキーワードの適切さ、内容の具体性および論理的に説明ができるかなどから評価する。 ・課題レポートについては、取り上げた内容の適切さなどから評価する（ポートフォリオで提出）。 ・受講者の発表は、説明の具体性などから評価する。発表内容に対しては、発表時に受講者でディスカッションされ、また担当教員から発表に対するコメントが与えられ、キーワードについての補足がなされる。 ・授業への参加度は、発表におけるディスカッションへの参加度合を評価する。								
授 業 の 概 要								
まず、社会科・地理歴史科教育の目標・内容の変遷について学び、現在の社会における社会科・地理歴史科教育の位置付けを明確化する。次に、学習指導要領の読み方を学び、教育における社会科・地理歴史科の知識の位置付け方を確認する。さらに、社会科・地理歴史科の知識を受講者同士で確認し、ディスカッションを通じて教育における知識の体系化を図る。以上をふまえて、社会科・地理歴史科の指導計画および個々の授業を組み立てる基礎的な能力を身に付ける。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。								
教 科 書 ・ 参 考 書								
教科書：『中学校学習指導要領解説 社会科』、『高等学校学習指導要領解説 地理歴史』 参考書：社会認識教育学会編『中学校社会科教育』学術図書出版社 社会認識教育学会編『地理歴史科教育』学術図書出版社 指定図書：『中学校学習指導要領解説 社会科』、『高等学校学習指導要領解説 地理歴史』								

授業外における学修及び学生に期待すること

※本演習は、教職課程（社会または地理歴史）を履修し、教育者になるという強い意志をもち、真摯に社会科教育を追求しようとする学生を歓迎する。
 ※本演習選択者は、いずれのコースも履修してよい。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習・復 習
1	イントロダクション	専門演習のプロセスを理解し、目標を共有する。また、発表の担当を決める。	予習：シラバスの通読 復習：前学期の省察の確認
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	社会科・地理歴史科教育の歴史・目標・内容	社会科・地理歴史科の教育論・実践の歴史、目標および内容を概観する。	予習：事前配布資料の通読 復習：授業時配布資料の再読
4	社会科・地理歴史科教育の学習指導要領の読み方	社会科・地理歴史科教育の学習指導要領の読み方を学ぶ。	予習：学習指導要領解説の通読 復習：学習指導要領解説の指定箇所一読
5	社会科・地理歴史科の知識の確認	小テストを実施し、社会科・地理歴史科の知識を確認する。	予習：社会科・地理歴史科教科書の通読 復習：小テストの解答・解説の通読
6	社会科地理的分野の知識の体系化	社会科地理的分野の知識を受講者同士で確認し合い、社会科教育における位置付けについてディスカッションする。	予習：【課題レポート】ワークシート作成・解説準備 復習：学習指導要領解説の指定箇所一読
7	社会科歴史的分野の知識の体系化	社会科歴史的分野の知識を受講者同士で確認し合い、社会科教育における位置付けについてディスカッションする。	予習：【課題レポート】ワークシート作成・解説準備 復習：学習指導要領解説の指定箇所一読
8	社会科公民的分野の知識の体系化	社会科公民的分野の知識を受講者同士で確認し合い、社会科教育における位置付けについてディスカッションする。	予習：【課題レポート】ワークシート作成・解説準備 復習：学習指導要領解説の指定箇所一読
9	地理歴史科地理総合の知識の体系化	地理歴史科地理総合の知識を受講者同士で確認し合い、社会科教育における位置付けについてディスカッションする。	予習：【課題レポート】ワークシート作成・解説準備 復習：学習指導要領解説の指定箇所一読
10	地理歴史科地理探究の知識の体系化	地理歴史科地理探究の知識を受講者同士で確認し合い、社会科教育における位置付けについてディスカッションする。	予習：【課題レポート】ワークシート作成・解説準備 復習：学習指導要領解説の指定箇所一読
11	地理歴史科歴史総合の知識の体系化	地理歴史科歴史総合の知識を受講者同士で確認し合い、社会科教育における位置付けについてディスカッションする。	予習：【課題レポート】ワークシート作成・解説準備 復習：学習指導要領解説の指定箇所一読
12	地理歴史科世界史探究の知識の体系化	地理歴史科世界史探究の知識を受講者同士で確認し合い、社会科教育における位置付けについてディスカッションする。	予習：【課題レポート】ワークシート作成・解説準備 復習：学習指導要領解説の指定箇所一読
13	地理歴史科日本史探究の知識の体系化	地理歴史科日本史探究の知識を受講者同士で確認し合い、社会科教育における位置付けについてディスカッションする。	予習：【課題レポート】ワークシート作成・解説準備 復習：学習指導要領解説の指定箇所一読
14	社会科・地理歴史科の知識の再確認	小テストを実施し、社会科・地理歴史科の知識を再確認する。	予習：ワークシートの通読 復習：小テストの解答・解説の通読
15	まとめ	専門演習の成果を確認する。	予習：成果の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠA(CF201)			担当教員	城前奈美		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
テーマ：国家資格『国内旅行業務取扱管理者』試験の「旅行業法」「約款」をマスターする。 国内旅行業務取扱管理者試験合格を目指したゼミとする。 特に旅行業法、約款に力を入れる。国家試験は9月上旬							⑪ ⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	最終的な目標である国内旅行業務取扱管理者試験のうちの「旅行業法」と「約款」で60点以上取得できる。				模擬試験	20%	
情報収集、分析力	旅行業のみならず宿泊業、運輸交通業など、かなり専門的な分野までその法規及び実務を理解する。				模擬試験	30%	
コミュニケーション力	旅行業及び関連業界への関心が高まり、かつ自らの旅行意欲が高まる。かつ積極的にゼミ以外でも仲間ともに自主的な勉強会ができる。さらに下級生の指導ができる。				グループディスカッション	40%	
協働・課題解決力	旅行業としてやってはいけない行為は何かが判断できる。客のニーズに応えた旅行業の在り方を旅行業法と共に考えることができる。				グループディスカッション	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
学生が持ち回りで講師を務め、担当部分の課題を準備し、講義する。その際に、出された質疑に対する解答をする。 また、模擬試験を3回受験する。							
授業の概要							
内容としては、1年次から開講されている「旅行業法・約款」の授業で学習したものである。 本専門演習では国内旅行業務取扱管理者試験の合格をめざし、問題を解きながら学生主体で進めていく。 形式としては勉強会を考えてほしい。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：『旅行業実務シリーズ1 旅行業法及びこれに基づく命令』 JTB 総合研究所 『旅行業実務シリーズ2 旅行業約款 運送・宿泊約款』 JTB 総合研究所 指定図書：『旅行業実務シリーズ1 旅行業法及びこれに基づく命令』 JTB 総合研究所 『旅行業実務シリーズ2 旅行業約款 運送・宿泊約款』 JTB 総合研究所							
授業外における学修及び学生に期待すること							
欠席や遅刻をする場合は、必ず事前に連絡をすること。また、自主的に積極的に協力して学んでいくこと。 単位を既に取得していても、「旅行業法・約款」の授業には出席して欲しい。また、週2コマの特別講座に出来るだけ出席すること。夏休みには模擬試験3回および4日間の集中ゼミを行なうので参加すること。模試費用は5,500円。なお、国家試験を受験しない者には特段の理由がない限り、単位を出さないので注意してください。 ※本演習を選択するものは、次のコースもしくは専修課程を履修することが望ましい。 観光マネジメント、グローバルツーリズム、スポーツツーリズム、旅行業務取扱管理者養成課程							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 省察、個人目標の設定	前期の進め方を説明する。 前年度の学修成果を省察し、前期の個人目標設定のための面談を実施する。	ループリック入力
2	省察、個人目標の設定	前年度の学修成果を省察し、前期の個人目標設定のための面談を実施する。	ループリック入力
3	旅行業法	法の目的、旅行業の定義 登録制度、登録拒否、登録変更	旅行業法 第1～6条の予習、復習
4	旅行業法	営業保証金制度、旅行業務取扱管理者	第7～12条の予習、復習
5	旅行業法	料金揭示、旅行業約款、取引条件説明、書面交付	第12条の該当箇所の予習、復習
6	旅行業法	外務員、広告	第12条の該当箇所の予習、復習
7	旅行業法	標識、企画旅行の措置、旅程管理業務	第12条の該当箇所の予習、復習
8	旅行業法	禁止行為、代理業	第13～15条の予習、復習
9	旅行業法	業務改善命令、旅行業協会	第18条～該当箇所の予習、復習
10	旅行業約款	募集型企画旅行の部 第1条から第10条	旅行業約款 募集型企画旅行の部 第1～10条の予習、復習
11	旅行業約款	募集型企画旅行の部 第13条から第19条	第13～19条の予習、復習
12	旅行業約款	募集型企画旅行の部 第21条から第26条	第21～26条の予習、復習
13	旅行業約款	募集型企画旅行の部 第27条から第30条	第27～30条の予習、復習
14	旅行業約款	受注型企画旅行の部、手配旅行契約の部、旅行相談の部	受注型企画旅行の部、手配旅行契約の部、旅行相談の部の予習、復習
15	旅行業約款	運送約款、宿泊約款	運送約款、宿泊約款の予習、復習

授業科目(ナンバリング)		専門演習ⅠA (CF201)		担当教員	谷口 佳菜子		
展開方法		演習	単位数 1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブラーニングの類型
本演習では、マーケティングの考え方を理解するとともに、議論やグループワークを通じて、ビジネスやまちづくりなどあらゆる場面で求められる創造力を養う。また、課題を実践する過程でコミュニケーション能力を身につける。							⑦
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標				評価手段・方法		評価比率
専門力							
情報収集、分析力	新聞記事や企業のホームページなどからマーケティングに関する必要な情報を収集し、事例をわかりやすくまとめることができる。				レポート① レポート②		15% 15%
コミュニケーション力	議論や課題の実践が円滑に進むよう積極的に発言することができる。 事例研究や課題の実践で学んだことについて、マーケティングの観点から要点をまとめて説明することができる。				授業態度・貢献度 発表① 発表②		40% 15% 15%
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
・受講者の発表および課題レポート（計画書等を含む）の形式については、授業内で指示する。 ・2回のレポートの提出を求める。（ポートフォリオにて提出） ・授業態度・参加については、議論やグループワークへの参加度合を評価する。 ・フィードバックは、授業内にて行う。							
授 業 の 概 要							
テーマ：発想の転換と斬新なアイデアの創造 本演習では、創造力を発揮し、指定した課題の実践を行う。まず専門領域の基礎的知識を学び、各自が発表を行なう（発表①）。各自が関心のある企業について調査を行い、調査結果をレポート（レポート①）にまとめ報告する。報告された内容について議論を行う。 また、グループで指定された課題（「価値」を生み出す）を実践する。どのように実践したかについて、各グループに発表してもらう（発表②）。最後に、本演習のまとめとして議論を行い、各自レポートを作成し提出する（レポート②）。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：特に定めない。 参考書：石井淳蔵ほか（2013）：『ゼミナールマーケティング入門（第2版）』日本経済新聞社、コトラー，P・アームストロング，G・恩蔵直人（2015）：『コトラー，アームストロング，恩蔵のマーケティング原理』丸善出版株式会社。 その他、必要に応じて授業中に紹介する。 指定図書：コトラー，P・アームストロング，G・恩蔵直人（2015）：『コトラー，アームストロング，恩蔵のマーケティング原理』丸善出版株式会社。							

授業外における学修及び学生に期待すること			
・議論や課題の実践には主体的かつ積極的に取り組んでほしい。 ・本演習を選択する者はどのコースに所属してもよい。 ※「長期インターンシップ」または「インターンシップ A/B」の履修を推奨する。			
回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	導入	ゼミの進め方やテーマについてオリエンテーションを行う。	予習：配布資料の精読
2	省察	前学期の省察を行い、目標の達成度の確認、本学期以降の目標設定を行う。	予習：本学期の目標設定を行う
3	基礎学習（1）	マーケティングに関する文献や資料を読み、理解を深める。	予習：専門用語の理解 復習：配布資料の精読
4	基礎学習（2）	マーケティングに関する文献や資料を読み、理解を深める。 まとめたことを発表する。（発表①）	予習：発表準備 復習：配布資料の精読、発表準備
5	基礎学習（3）	マーケティングに関する文献や資料を読み、理解を深める。 まとめたことを発表する。（発表①）	予習：発表準備
6	事例研究（1）	発想の転換や斬新なアイデアが成功につながった企業の事例を紹介する。	復習：配布資料の精読
7	事例研究（2）	関心のある企業について資料を収集し、斬新なアイデアが成功へつながった事例を探し出して、内容をまとめる。	予習：資料収集 復習：レポート①の作成
8	事例研究（3）	関心のある企業について資料を収集し、斬新なアイデアが成功へつながった事例を探し出して、内容をまとめる。	予習：資料収集 復習：レポート①の作成
9	事例研究（4）	調査した企業の事例について発表する。 調査結果について議論を行う。	予習：発表の準備 復習：議論内容をまとめる
10	課題の実践（1）	課題（「価値」を生み出す）について説明を行う。 議論を行い、計画を立案する。	復習：計画書の作成
11	課題の実践（2）	議論を行い、計画を立案する。	予習：計画書の作成 復習：課題実践の準備
12	課題の実践（3）	計画を実践する。	復習：指定課題の実践についてまとめる
13	課題の実践（4）	計画を実践する。	復習：指定課題の実践についてまとめる
14	課題の実践（5）	実践した内容について発表する。（発表②）	予習：発表準備
15	まとめ	事例研究と課題の実践を通じて学んだことについて議論を行い、レポートを作成する。	復習：レポート②の作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠA (CF201)			担当教員	原 哲弘		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブラーニングの類型
【観光まちづくり計画】佐世保市を活動の中心に据えフィールドワークを行い、ディスカッションを繰り返します。観光まちづくりの専門的な知識を身につけ地域社会に対して実践的な演習を行います。長期的な視点で「観光を媒体」として考える時に経済的な効果だけでなく、社会的な効果として町並み景観の保全と生活の質の向上にも効果があります。さらに少子高齢化における高齢者や幼児の理解も必要となります。この学習が「基礎学習」となり、さまざまな分野において「地域コーディネーター」として社会貢献できる人材になることがねらいです。							④⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・方法	評価比率
専門力	現実に即した中で経済的效果と社会的効果を考える能力や思考・判断する力を身に付け、深く考えることができます。					・発表会	20%
情報収集、分析力	ワード、エクセル、パワーポイントなど基本的な情報処理ができる技術が身に付き、それらを SWOT 分析やブレスト、K J 法などで分析することができるようになります。					・課題レポート	20%
コミュニケーション力	演習の随所に学内、学外を問わず発表の機会を設け自己表現力が身につきます。従って、市民とのコミュニケーション能力も身に付けることができます。					・発表の表現力	10%
協働・課題解決力	地域に向くことで現場を理解し、一人でできない観光まちづくりは、ゼミ生だけでなく多くの市民と協働で目的に向かって活動することができます。					・課題レポート	20%
多様性理解力	学校で学んだ観光に関する基本的な知識をもとに、「地域学」として、佐世保市、西海市、平戸市の歴史（市史）を学び、土地特有の特性を理解できます。					・試験	30%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価の基準となるのは、グループ内でのコミュニケーション能力と役割分担に対する達成率を重視します。課題レポート（40%）は、ポートフォリオを利用して双方向型としフィールドワーク毎に随時行います。そして前期で実施した結果をまとめ全員の発表会（10%）を開催します。試験（30%）は 12 回目の授業で実施します。なお授業の出席率、授業態度、および学習実績（現地作業・レポート評価など）を参考としながら評価します。							
授 業 の 概 要							
佐世保市、平戸市、西海市、川棚町などの市民を交えながら現状の「まち」が抱える課題をいかに解決するのか考えます。特に隣接する西海市では「空き家」を調査し観光活用方法をディスカッションしながら検討し、発表会（プレゼンテーション）を行います。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
指定図書、教科書：なし、参考書：佐世保市、平戸市、西海市、川棚町に関する資料は随時、プリント配布します。また書籍「犬と鬼」（著者アレックス・カー）は、必ず読んでください。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
準備学習として佐世保市、平戸市、西海市、川棚町を理解し把握すること、特に現地市町村の図書館に赴き、市史、観光動向、観光資源などを調べることが基本となります。また自宅でプロット図及び企画書などの表現力（文章表現、スケッチ、彩色、イラストレーター、フォトショップなど）を身につけ、調査内容についてポートフォリオを用いて、双方向にやり取りする授業を行います。そして社会人となった時、即戦力になれるように取り組むことを期待します。なお「社会人基礎力」を身に付けるために、地域連携活動ⅠA、ⅠB、及び長期インターンシップに参加することを推奨します。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	全体の流れ	すべての内容とスケジュールの説明、それに将来に向けて期待すること、達成目標を説明します。	シラバスを十分読み込み、疑問があれば事前にまとめる。
2	現状把握①A と面談	計画地に関する自然環境の把握（佐世保市、平戸市、西海市など）します。個人目標設定のための面談を実施します。	図書館など資料収集の方法を事前に経験する①
3	現状把握②A	計画地に関する人文・社会環境を把握します。	図書館など資料収集の方法を事前に経験する②
4	現地調査①A	現地に行き、自分の目で“まち”の雰囲気を把握します。	地図を用意し、現地で書き込みできるように準備する。
5	現地調査②A	現地に行き、あらかじめ決められたテーマ（地域の課題）によって各自が体感する。	事前にテーマを考え、現地で感じたことを復習する。
6	アンケート資料検討	市民に対してアンケート内容を検討し、実施する。（アンケート資料の作成）	疑問点を列記して、アンケート作成に備える。
7	アンケート配布	市民へのインタビューとアンケート配布。	コミュニケーションの方法などを事前に練習する。
8	分析・評価①A	現地調査をもとに現状の分析と評価します。	分析作業で役割分担を協議する①
9	分析・評価②A	回収したアンケートをもとに、問題点や地域資源を分析・評価します。	分析作業で役割分担を協議する②
10	コンセプトづくり①A	全体の調査資料をもとに、プレストによるコンセプトづくりをします。	チームごとにコンセプト内容を検討する。
11	コンセプトづくり②A	全体の調査資料をもとに、KJ 法、SWOT 分析によるコンセプトづくりを試みます。	KJ 法、SWOT 分析を事前に調べる。
12	コンセプトまとめ	これまでのコンセプトワークからキーワードを抽出して、コンセプトをまとめます。 試験①	チームごとのリーダーを事前協議の上、決定する。
13	市民との協議①A	コンセプトをもとに、市民と意見交換会を行います。	リーダーの下で、パワーポイントによる発表の準備をする。
14	コンセプトの修正	市民との対話の中から、具体的なコンセプトへと修正を加えます。	意見交換から得られた情報をまとめる。
15	地図へのプロット①A	まち全体のプロット図・白地図作成による現状図と課題図をつくり、それに対する解決策を議論してまとめます。	チームの意見と市民の意見を織り交ぜる。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠA (CF201)			担当教員	三浦 知子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、ますます発展するインバウンドツーリズムに向けて、対象とする国・地域を含めた広い視点から学ぶ。今後の観光先進国を担う人材に成長できるよう、毎回、英語も含めた学生主導のディスカッションやプレゼンテーションを中心に進める。							①⑥⑧
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・方法	評価比率
専門力	- 日本のインバウンドツーリズムの歴史を理解することができる。 - 海外観光資源、海外旅行実務の基礎を身につけることができる。					- テスト - テスト	5% 5%
情報収集、分析力	- 観光先進国に関する情報について、公的機関等から入手し活用することができる。 - インバウンドツーリズムの動向について調べ、各方面の特色や魅力について分析することができる。					受講者の発表	10% 10%
コミュニケーション力	- プレゼン資料を作成し、わかりやすく発表することができる - グローバルな視点から、国や地域の問題点や課題について議論することができる。					受講者の発表	20% 20%
協働・課題解決力	インバウンドツーリズムに必要な知識を深め、外国との比較といった視点から、日本の特質や地域の課題を理解することができる。					テスト	10%
多様性理解力	- 各国・地域の地理・歴史を把握することができる。 - 日本各地の取組みについて理解し、外国語で表現することができる。					テスト	20%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
- ゼミで行う内容について、毎回事前にプレゼン資料を作成し発表する。発表内容について学生相互に討論する。 - レスポンスを利用した確認テストによって理解度を測定する。授業態度・授業への参加・受講者の発表については、発表の内容と討論への参加割合を評価する。							
授 業 の 概 要							
本演習では、インバウンドツーリズムに関する文献、英語で書かれた海外旅行に関する文章について理解しながら、「新しい観光」について学びます。毎回課題を課します。国や地域の概略を理解した上で、国際観光に関する施策における課題、知識を徹底的に学びます。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：『インバウンド観光入門』、矢崎紀子著、晃洋書房 参考書：適宜紹介する。 指定図書：『臨 3311 に乗れ』、城山三郎著、集英社文庫							
授業外における学修及び学生に期待すること							
膨大な知識を要する、「インバウンドツーリズム」について総合的に学びます。そのため、毎回の課題や発表が数多く設定されます。継続的かつ主体的な学習態度が求められます。 本演習を選択する学生は、どのコースを履修してもかまいませんが、プレゼンテーション等に用いるため、パソコンの環境を整える必要があります。合わせてインターンシップ、長期インターンシップの参加を推奨します。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	観光立国と日本の観光政策	観光立国推進基本法に基づく日本の観光政策のポイントについて学び、日本における国際観光の現状について発表資料を作成し、相互に討論する。	予習／観光立国推進基本計画を読む 復習／日本の観光政策
2	前期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、これまでの履修科目の成績等から前年度の省察を行い、前期の目標設定について確定する。	予習：既習の関連科目の省察と目標設定の作成 復習：前期目標と計画作成
3	第二次世界大戦後の海外旅行と訪日観光	1945年から2000年頃までの日本人の海外旅行の変遷と、外国人の訪日観光の変遷について学び、発表資料を用意し、プレゼンテーションを行う。	予習／第二次世界大戦後の日本史 復習／海外旅行、訪日慣行の変遷
4	訪日プロモーション方針①	中国・韓国市場の動向や特性について理解を深め、訪日プロモーション方針について学ぶ。新聞記事から関連資料をピックアップし、相互に討論する。	予習／中国・韓国の観光動向を調べる、復習／訪日方針（中国・韓国）
5	訪日プロモーション方針②	台湾・香港の市場の動向や特性について理解を深め、訪日プロモーション方針について学ぶ。新聞記事から関連資料をピックアップし、相互に討論する。	予習／台湾・香港の観光動向を調べる、復習／訪日方針（台湾・香港）
6	訪日プロモーション方針③	アメリカの市場の動向や特性について理解を深め、訪日プロモーション方針について学ぶ。文献から関連資料をピックアップし、相互に討論する。	予習／アメリカの観光動向を調べる、復習／訪日方針（アメリカ）
7	訪日プロモーション方針④	オーストラリア・カナダへの訪日プロモーション方針について学ぶ。オーストラリア・カナダの市場の動向や特性について理解を深める。	予習／オーストラリア人・カナダ人に人気の国内観光地を調べる、復習／訪日方針（豪州・カナダ）
8	海外の関連資料の読解①	アメリカへの旅行に関するトピックスについて、英語で書かれた文書を読解する。各自が作成したプレゼン資料内容を発表し、トピックスの詳細について、相互に討論する。	配布するプリントの内容について予習、復習する。
9	海外の関連資料の読解②	ヨーロッパへの旅行に関するトピックスについて、英語で書かれた文書を読み解く。各自が作成したプレゼン資料内容を発表し、トピックスの詳細について、相互に討論する。	配布するプリントの内容について予習、復習する。
10	海外の関連資料の読解③	アジア・オセアニアへの旅行に関するトピックスについて、英語で書かれた文書を読み解く。各自が作成したプレゼン資料内容を発表し、トピックスの詳細について、相互に討論する。	配布するプリントの内容について予習、復習する。
11	訪日プロモーション方針⑤	東南アジアへの訪日プロモーション方針について学ぶ。市場の動向や特性について理解を深める。	予習／ドイツ人に人気の国内観光地を調べる、復習／訪日方針（ドイツ）
12	訪日プロモーション方針⑥	ドイツへの訪日プロモーション方針について学ぶ。市場の動向や特性について理解を深める。	予習／の国を調べる 復習／訪日方針（東南アジア）
13	国際航空運賃の計算①	基本規則について学ぶ。旅行形態によって適用運賃や規則が異なる。旅行形態は片道旅行、往復旅行、オープン・ジョー、周回運賃があることを理解する。	航空利用の旅行形態について予習／片道、往復旅行、オープン・ジョー、周回運賃について復習
14	国際航空運賃の計算②	キャリア運賃計算について復習する。該当する区間の国・都市名・空港名・航空会社名についても合わせて復習する。	予習：キャリア運賃計算 復習：2レター、③レターの復習
15	海外観光資源、国際航空運賃の実力把握	総合旅行業務取扱管理者試験の過去問題に取組み、理解度を把握する。それぞれの得意分野について発表し合い、互いの知識を共有する。	発表内容を元に、各々が担当外の地域について理解を深める。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠA (CF201)			担当教員	宮良 俊行		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ ラーニング の 類 型
本ゼミでは、日本政府の施策である「生涯スポーツ社会の実現」へ向けた「総合型地域スポーツクラブ」の設立・育成の方法や基礎知識を学ぶことである。「総合型地域スポーツクラブ」の実態や存在意義をおさえ、プレゼンテーションすることができることが目標である。そして、学んだ知識を活かし実践の場として、「チャレンジスポーツ」などのスポーツイベントに積極的に参加し、主体的に取り組むことをねらいとしている。							④、⑤、⑥、 ⑦、⑩、⑪
ホスピタリティ を構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標				評価手段・ 方法		評価 比率
専門力	「総合型地域スポーツクラブ」に関することを説明することができる。また、スポーツイベントの運営を補助することができる。				・受講者の発表 ・企画書、発表 資料の作成		15% 20%
情報収集、 分析力	地域におけるスポーツ環境の様々なデータを読み取り、分析することができる。				・資料の作成		15%
コミュニケーション力							%
協働・課題解決 力	地域のスポーツイベントにボランティアとして活動することができる。また、地域スポーツの課題・問題点を発見し指摘することができる。				・全体討議 ・課題レポート		20% 30%
多様性理解力							%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
課題レポートについては、理論的かつ実践的な内容をもつように書くことができたかを評価する。また、文字数不足および誤字・脱字は、減点の対象とする。授業態度・授業への参加については、発表の内容と討論への参加度合を評価する。ポートフォリオで課題レポートのフィードバックを行うので確認すること。							
授 業 の 概 要							
年間を通して、「総合型地域スポーツクラブ」に関する資料を購読し、基礎知識を習得し、問題意識を高めていく。また、グループワークを通して、全員で議論ができるようになることを目指す。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：『ジグソーパズルで考える 総合型地域スポーツクラブ』黒須 充 大修館書店 参考書：授業の中で指示する。 指定図書：『スポーツ解体新書』玉木正之 NHK 出版							
授業外における学修及び学生に期待すること							
各地域で活動している総合型地域スポーツクラブに出向きボランティア活動を積極的に実施し、社会貢献して欲しい。また、指定された教科書を事前に読んでおくこと。 ※本演習を選択するものは次のコースを履修することが望ましい スポーツツーリズム、地域マネジメント、グローバルツーリズム							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	導入	ゼミのテーマと進め方についてのオリエンテーションを行う。	先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
2	総合型地域スポーツクラブの設立に向けて	総合型地域スポーツクラブのビジョンづくり 10 のポイントについて	先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
3	総合型地域スポーツクラブの設立に向けて	データで探るスポーツクラブの現状について	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
4	総合型地域スポーツクラブの設立に向けて	スポーツクラブのマスタープランについて	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
5	総合型地域スポーツクラブの設立に向けて	住民参加の手法と実践について	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
6	総合型地域スポーツクラブの設立に向けて	自立した市民の力について	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
7	総合型地域スポーツクラブの設立に向けて	スポーツ組織の連携とそのあり方について	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
8	総合型地域スポーツクラブの設立に向けて	スポーツクラブ設立に向けたマーケティングについて	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
9	総合型地域スポーツクラブの設立に向けて	スポーツ NPO を活用したスポーツクラブのつくり方について	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
10	総合型地域スポーツクラブの設立に向けて	広域スポーツセンターの役割について	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
11	総合型地域スポーツクラブの運営方法	社会変革としての総合型地域スポーツクラブについて	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
12	総合型地域スポーツクラブの運営方法	「地域密着」から「人生密着」へ	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
13	総合型地域スポーツクラブの運営方法	スポーツクラブの会計と財務について	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
14	総合型地域スポーツクラブの運営方法	スポーツクラブづくりとマーケティングについて	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
15	前期のまとめ	前期を振り返り総合型地域スポーツクラブについて討論する。	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠA (CF201)			担当教員	山内 美穂		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ・ラーニングの類型
この演習では、日本語文法について考えます。日本語母語話者が日常当たり前に使っている「ことば」の背後に「ルール」があります。この「当たり前」を深く考え、「ルール」を見出すことが文法を考えることです。演習を通じて、日本語を母語としない人に様々な日本語の文法における「なぜ？」を説明できる力を養います。							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	自分が担当した[問題]の答えについて分かりやすい資料を作る。コーパスデータを用い、その中の文法ルールを分析できる					発表資料レポート	20% 20%
コミュニケーション力	自分が担当した[問題]の答えについて自分のことばで説明できる。他人の発表や授業で提示される[問題]に対して意見を述べられる。					発表議論	30% 20%
協働・課題解決力	グループメンバーと協力して [問題] の答えを準備できる					発表準備	10%
多様性理解力							
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
自分の担当箇所の発表資料の作成で 20%、発表で 30%、レポートで 20%、授業の議論への参加で 20%、発表準備の状況で 10%を評価します。発表内容、レポートに関しては、授業中または個別にコメントの形でフィードバックします。							
授 業 の 概 要							
履修者は、教科書に沿って教員が投げかけたテーマについて考え、議論しながら、日本語の文法を学習します。また、各テーマの発表者は、授業の中で指定された教科書の[問題]や教員の出す問題に対して十分に考え答えを準備しておき、授業の中で発表します。発表者以外の人、教科書の該当箇所を読みこみ、積極的に質問やコメントし、全体でディスカッションします。							
この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分です。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：森山卓郎『ここからはじまる日本語文法』ひつじ書房, 2003 参考書：授業中に指示する。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習は、日本語母語話者が使用する「ことば」に関心がある学生や、日本語を母語としない人に日本語を教えたいと思っている学生の受講を希望します。留学生の受講に関しては、授業内容が理解でき、自分のことばで説明できるレベルが必要です。							
授業外でも耳に入る「ことば」に敏感になって下さい。そして、日本語のルールの面白さを楽しんでほしいです。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 文法を考えるとということ	本演習の進め方、発表などについて説明する。	予習：テキスト pp1-6 を読んで [問題] 1-6 を解いておく。
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	世界の言語の中で、日本語はどんなタイプ？	言語の種類、語順や形態による類型、日本語文法研究のながれについて理解する。	予習：テキスト pp7-13 を読んで [問題] 1-2 について考えておく。
4	「黒髪」はいいのに、「真っ黒髪」はなぜダメか？	単語の一体性、形態素、派生語、複合語について理解する。 発表者は [問題] に対する答えを発表する。	予習：テキスト pp16-24 を読んでおく。[問題] について考えておく
5	「小さい」と「小さな」の違いは？	名詞、連体詞、副詞、接続詞、感動詞について理解する。 発表者は [問題] に対する答えを発表する。	予習：テキスト pp25-34 を読んでおく。[問題] について考えておく
6	動詞の過去形の「～んだ」「～いた」「～った」は何の違い？	動詞、形容詞、形容動詞について理解する。 発表者は [問題] に対する答えを発表する。	予習：テキスト pp35-46 を読んでおく。[問題] について考えておく
7	「日本は湿度が高いだ」はどうして不自然？	助動詞、助詞について理解する。 発表者は [問題] に対する答えを発表する。	予習：テキスト pp47-56 を読んでおく。[問題] について考えておく
8	「大学を出る」と「大学から出る」どう違う？	格助詞についてについて理解する。 発表者は [問題] に対する答えを発表する。	予習：テキスト pp58-66 を読んでおく。[問題] について考えておく
9	「コーヒーが入りました」と「コーヒーを入れました」。日本語らしいのはどちら？	自動詞と他動詞について理解する。 発表者は [問題] に対する答えを発表する。	予習：テキスト pp67-69 を読んでおく。[問題] について考えておく
10	「私の足は女の人にふまれました」は不自然か？	ヴォイス：受身について理解する。 発表者は [問題] に対する答えを発表する。	予習：テキスト pp70-75 を読んでおく。[問題] について考えておく
11	うわさを「広がらせる」？それとも うわさを「広げる」？	ヴォイス：使役について理解する。 発表者は [問題] に対する答えを発表する。	予習：テキスト pp76-78 を読んでおく。[問題] について考えておく
12	「友だちに自転車を修理された」はどんな状況で言うか？	ヴォイス：授受表現について理解する。 発表者は [問題] に対する答えを発表する。	予習：テキスト pp79-80 を読んでおく。[問題] について考えておく
13	「今食べる」っていつ食べるの？	アスペクトについて理解する。 発表者は [問題] に対する答えを発表する。	予習：テキスト pp82-90 を読んでおく。[問題] について考えておく
14	「あ、ここにいた！」はいつのことを表しているか？	テンス、空間と意志性について理解する。 発表者は [問題] に対する答えを発表する。	予習：テキスト pp91-97 を読んでおく。[問題] について考えておく
15	まとめ、書き言葉コーパスを用いた分析	本学期に学んだ文法項目についてふり返るとともに、コーパスデータを用いて、文法項目を説明・記述する方法を解説する。	興味を持った文法項目をコーパスからの実例文を用いて説明するレポート作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A (CF201)			担当教員	内田 智子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ ラーニング の 類 型
この演習では、普段は意識しない日本語の文法に光をあて、日本語教員として必要な知識を身につけるとともに日本語を分析する力を養います。様々な練習問題を解く中で、自ら言語の規則を見つけ出し、説明できるようになることを目指します。グループワークや発表を通して、コミュニケーション力も身につけましょう。							①④⑤⑥
ホスピタリティ を構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・方法	評価比率
専門力	日本語の仕組みが理解できる					毎時間の課題	20%
情報収集、 分析力	多くの例を収集し、そこから規則を発見できる。					発表資料	30%
コミュニケーション 力	他人の発表に対して積極的に意見を述べ、議論し合える。					討論	40%
協働・課題解決 力	メンバーと協力して発表ができる。					発表	10%
多様性理解力							
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
発表後の討論への参加度で 40%、自分の担当箇所の発表資料で 30%、毎時間の課題で 20%、発表で 10%を評価します。発表内容や課題に関しては、授業中に、討論または個別にコメントの形でフィードバックします。							
授 業 の 概 要							
教科書を素材として日本語の構造を把握したうえで、文法体系を研究し、グループで発表してもらいます。教員による解説ではなく、学生の発表を中心とした授業です。発表後には討論を行います。発表者以外の人は、授業前に該当箇所をよく読みこみ、積極的に質問やコメントをしてください。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：名古屋大学日本語研究会 GA6『ふしぎ発見！日本語文法。』三弥井書店、2006 参考書：授業中に指示する 指定図書：金田一春彦『日本語 下』岩波文庫 1988							
授業外における学修及び学生に期待すること							
このゼミは、将来日本語教員になりたいと思っている学生、日本語の文法体系を本格的に勉強したいと思っている人を対象としたゼミです。留学生の受講に関しては、授業内容が理解でき、自分の担当箇所を発表できる日本語レベルが必要です。発表者は、教科書以外の本も参考にして、しっかりと理解した上で発表してください。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習・復 習
1	導入	授業の進め方と発表の方法について説明する。 発表箇所の役割分担を行う。	自分の担当箇所のテキストを読み、内容を把握する (復習)
2	前学期の省察と本学期的の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的の目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期的の目標設定の下書き 復習：本学期的の目標設定の清書
3	「文法」って何？	単語、意味、区切り方、コンテキストについて解説する。	pp.1-6を読み、練習問題を解いておく(予習)
4	語順	格、助詞、助動詞等の語順の規則について考察する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.7-14を読み、練習問題を解いておく(予習)
5	造語法	語種と造語法について考察する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.15-20を読み、練習問題を解いておく(予習)
6	品詞性	品詞性の判定、格助詞付加テストについて理解する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.21-26を読み、練習問題を解いておく(予習)
7	一語とは	「一語化」について考察する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.27-32を読み、練習問題を解いておく(予習)
8	述語と項	述語によって項が変わることについて考察する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.33-38を読み、練習問題を解いておく(予習)
9	自動詞・他動詞	自動詞・他動詞について考察する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.39-45を読み、練習問題を解いておく(予習)
10	アスペクト	アスペクトの概念についてについて理解する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.47-52を読み、練習問題を解いておく(予習)
11	受け身 1	動詞の受け身について考察する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.53-58を読んでおく(予習)
12	受け身 2	日本語教育における動詞の受け身の問題について解説する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.59-60の練習問題を解いておく(予習)
13	ら抜き・レタス・さ入れ言葉 1	「日本語の乱れ」とされる表現について考察する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.63-70を読んでおく(予習)
14	ら抜き・レタス・さ入れ言葉 2	日本語教育における「日本語の乱れ」の扱い方を考える。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.70-71の練習問題を解いておく(予習)
15	まとめ	授業全体のまとめ・討論	興味を持った問題について課題レポート作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IA (CF 201)			担当教員	川上 直彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブラーニングの類型
人類の文明発祥の地で興った「古代オリエント世界の文明（古代メソポタミア文明、古代エジプト文明、古代インダス文明等）を考古学、そして古代史の演習（ディスカッション、グループワーク、発表）の観点から理解し、これらの文明が人類共有のかけがえのない文明であることが理解できる。また、なぜこれらの地が、人類共通の文明発祥の地であるのかを習得し、研究・観光資源である人類共通のかけがえのない文化遺産の宝庫であることが理解できる。観光として、古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡そして博物館・美術館を訪れた時、考古学および歴史学的視点から遺跡と展示遺物を理解するに必要な専門知識を修得することができる。							①⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・方法	評価比率
専門力	古代オリエントと東地中海世界の文明の遺跡・遺物、そして関連する博物館・美術館に関心を抱き、専門的課題に取り組むことにより、専門力を習得することができる。					レポート・発表	25%
情報収集、分析力	事前学習と演習を通じて実践する、文献読解から情報収集を行い、レポートを作成することにより、読解力、分析力、そしてレポートを書く能力を習得することができる。					レポート・発表	25%
コミュニケーション力	レポート発表を課し、発表に対する質疑応答と討議を実践することにより、コミュニケーション能力を上達させることができる。					発表	20%
協働・課題解決力	古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡と世界中の博物館に収蔵されている展示遺物の考古学および歴史学的意味についての発表と、発表に対する質疑応答を通じて他学生と協議することにより協働・課題解決力を習得することができる。					授業参加度	30%
多様性理解力							%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
各自、4本のレポート作成とそれらの発表を实践し、発表内容および発表のスキルを総合的に評価し、全体評価の70%とする。フィードバックは、個別に口頭で行う。							
授 業 の 概 要							
本演習では、人類共通の文明発祥の地に興った古代オリエント世界の核をなすメソポタミア文明を中心に、古代エジプト文明、古代インダス文明にもふれ、文献購読と配布資料を用いた演習を実施する。演習内容が十分に理解できるように、補足的に講義も実践し、また、DVD などの視聴覚教材も補助教材として用い演習を实践する。この演習の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分です。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：適宜プリントを配布する。 参考書：適宜プリントを配布する。 指定図書：世界の歴史1：人類の起源と古代オリエント（大貫良夫・前川和也・渡辺和子・屋形複貞、中央公論社）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
古代史・考古学全般に関心をもち、遺跡や博物館・美術館を観光する機会を持ってほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	はじめに 最古の村落の出現（１）	演習全体の導入と説明 初期農耕牧畜社会の出現と拡散 1	復習：今回の復習 予習：初期農耕牧畜社会について調べる
2	最古の村落の出現（２）	初期農耕牧畜社会の出現と拡散 2	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
3	最古の村落の出現（３）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
4	最古の村落の出現（４）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：ウルク遺跡について調べる
5	古代メソポタミア文明 最古の都市（１）	都市の成立と都市国家間の争い 1	復習：今回の復習 予習：シュメール文明について調べる
6	古代メソポタミア文明 最古の都市（２）	都市の成立と都市国家間の争い 2	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
7	古代メソポタミア文明 最古の都市（３）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
8	古代メソポタミア文明 最古の都市（４）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：古王国時代について調べる
9	古代エジプト文明（１）	古王国時代（ピラミッドが建設された時代） 1	復習：今回の復習 予習：ピラミッドについて調べる
10	古代エジプト文明（２）	古王国時代（ピラミッドが建設された時代） 2	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
11	古代エジプト文明（３）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
12	古代エジプト文明（４）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：古代インダス文明について調べる
13	古代インダス文明（１）	古代メソポタミアとの海上交易	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
14	古代インダス文明（２）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
15	古代インダス文明（３）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A (CF201)			担当教員	柴田 あづさ		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ・ラーニングの類型
この演習では、日本語指導理論の基盤になる教師学や初級の教え方、社会言語学、学習者心理について学びます。また、日本語学習者の「会話パートナー」となって会話の練習を支援し、日本語教師に必要とされる「学習者の習熟度を把握する力」と「異文化への対応力」を養います。							①②④ ⑤⑦
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	教科書や図書館にある文献から得た情報をもとに、例をあげながら、自分の言葉で説明したり、意見を述べたり、できる。					レジュメ 課題の提出	10% 20%
コミュニケーション力	・発表のレジュメを指定された形で作成し、レジュメを用いてプレゼンテーションをすることができる。 ・他の学生と学び合いながらディスカッションができる。 ・グループワークにおける自身のパフォーマンスを省察し、自己成長に繋げることができる。					発表 ディスカッション リフレクションシート 自己相互評価	20% 10% 20% 10%
協働・課題解決力							
多様性理解力	日本語学習者の「会話パートナー」になり、日本語教師に必要とされる「学習者の習熟度を把握する力」と「異文化への対応力」を養う。					自己相互評価	10%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
課題の提出と発表を各 20%、レジュメ作成とディスカッションの司会、リフレクションシートの提出を各 10%、自己相互評価 20%で評価します。尚、課題は、ポートフォリオで提示および回収し、個別にフィードバックを行います。							
授 業 の 概 要							
教科書やボランティア活動（会話パートナー）をとおして日本語教師に必要な指導理論の基礎知識と技術を身に付ける。授業は、教員による解説はなく、学生の発表や、グループワークを中心として進める。履修する学生には積極的に質問やコメントをして頂きたい。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：高見澤孟他『新はじめての日本語教育 1－日本語教育の基礎知識－相補改訂版』ASK（2016） 高見澤孟他『新はじめての日本語教育 2－日本語教授法入門－相補改訂版』ASK（2016） 参考書：適宜紹介します。							
指定図書：Diane Larsen-Freeman & Marti Anderson, 2011. <i>Techniques & Principles in Language Teaching</i> , Oxford University.							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この演習は、日本語教員養成課程を履修し、ゼミで身につけた知識や技術を、将来、教師として教壇に立った際に役立たせることに関心を持つ学生に適した内容となっています。留学生が受講を希望する場合は、授業内容を理解してレジュメを作成し、発表やディスカッションをとりまとめることのできる日本語力が必要です。同時に、日本語学習者の会話の練習相手になり、誤りがあればリキャストなどで修正できるだけの日本語力（N2 取得以上）が求められます。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	授業の進め方と課題の提出の仕方 グループワークの方法とその意義	予習) シラバスに目を通しておく。
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する	予習) 前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習) 本学期の目標設定の清書
3	2 : 第 1 章 日本語教師の役割①	教師は何をするのか	予習) p7-p13 をよく読んで、意見を考えておく 復習) 議論を振り返る
4	2 : 第 1 章 日本語教師の役割②	教師に求められる条件	予習) p14-p20 をよく読んで、意見を考えておく 復習) 議論を振り返る
5	2 : 第 2 章 日本語を教えるということ ①	どこまで教えるか : 指導範囲 何をどう教えるか 1 : コースデザイン	予習) p21-p30 をよく読んで、意見を考えておく 復習) 議論を振り返る
6	2 : 第 2 章 日本語を教えるということ ②	何をどう教えるか 2 : シラバス カリキュラム 教材の選択	予習) p31-p42 をよく読んで、意見を考えておく 復習) 議論を振り返る
7	2 : 第 3 章 初級の教え方 (1) 発音 / 会話①	会話を教えるということ 日本語教育と教授法 会話テキストの構成 課の目的理解 対話の指導	予習) p43-p55 をよく読んで、意見を考えておく 復習) 議論を振り返る
8	2 : 第 3 章 初級の教え方 (1) 発音 / 会話②	補足語彙の指導 文法用法説明の指導 各種練習の指導 1	予習) p56-p69 をよく読んで、意見を考えておく 復習) 議論を振り返る
9	2 : 第 3 章 初級の教え方 (1) 発音 / 会話③	各種練習の指導 2 日本語教育における「練習」と「転移」 練習問題の指導	予習) p69-p80 をよく読んで、意見を考えておく 復習) 議論を振り返る
10	1 : 第 6 章 社会言語学①	敬語	予習) p191-p203 をよく読んで、意見を考えておく 復習) 議論を振り返る
11	1 : 第 6 章 社会言語学②	方言と共通語 文法外のコミュニケーション行動	予習) p203-p210 をよく読んで、意見を考えておく 復習) 議論を振り返る
12	1 : 第 6 章 社会言語学③	コミュニケーションストラテジー 言語接触	予習) p210-p220 をよく読んで、意見を考えておく 復習) 議論を振り返る
13	1 : 第 7 章 心理学①	心理学と日本語教育 現代の心理学とは 学習 (Learning) とは ? 学習の形態	予習) p222-p229 をよく読んで、意見を考えておく 復習) 議論を振り返る
14	1 : 第 7 章 心理学②	発達と成熟と学習の関係 初期学習 言語の習得と臨界期	予習) p230-p237 をよく読んで、意見を考えておく 復習) 議論を振り返る
15	発表会 前期の振り返り	発表会 (「日本語会話パートナーをして学んだこと」) グループおよび全体で振り返りをする 前期の学びを振り返る 課題作成について情報を得る 自己相互評価を行う	予習) 発表のレジュメを作成し、話す練習をする。 復習) 課題を作成する

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IA (CF201)			担当教員	神野 周太郎		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、「体育」「スポーツ」「身体」に関連する問いを各自で設定し、それについての答えをみつけるための能力を培うことを目的とする。それは個人的な問題を他者と共有し、多角的な視点から共通理解となる答え（ものごとの本質）をみつけるための「哲学的思考」を展開する能力を培うことでもある。本演習では、教員や学生が共に対話（議論）を展開することを重視する。							⑤ ⑥ ⑦
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	「体育」「スポーツ」「身体」に関するニュース、コラム、評論、書籍を集め、それらを通覧する中で個人的な問いを設定できる。					・資料収集 ・研究発表の展開内容	3 0 % 1 0 %
コミュニケーション力	「体育」「スポーツ」「身体」についての個人的な問題意識を他者と共有し、共通理解となる答えをみつけるための議論ができる。					・研究発表や実践後の議論内容	6 0 %
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
・プレゼンテーション（研究発表）では各自設定したテーマに関連する適切な先行研究や資料を選択し、それらを概観した上でレジュメを作成しているか、その内容が論理的に展開されているか（問題、テーマ、議論、答え）を評価する。 ・プレゼンテーション（実技指導）では、各自設定した種目、対象について適切な課題や教材を設定した上で指導案（指導計画）が作成されているかを評価する。 ・研究発表や実技指導の後の議論では、問いを共有しそれについての意見を建設的に述べられているか、評価すべき点や改善すべき点は何かといった自身の意見を述べられているかを評価する。							
授 業 の 概 要							
・体育やスポーツの諸科学の中でも、人文科学的な研究方法に基づいて、問題を共有するためのレジュメ（発表資料）や現場で必要となる指導案を作成し、適宜運動実践も交えつつ、発表内容や実践の省察を議論形式で実施する。議論については、その方法自体を学んだ上で実際に意見を交わし合う。実践については、教員希望者の場合模擬授業を、スポーツ指導者の場合はスポーツ指導を展開し、それについて省察する。 ・この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は 45 分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：『中学校学習指導要領解説 保健体育』 『高等学校学習指導要領解説 保健体育』 参考書：『各県教員採用試験過去問題集 保健体育』 『教員採用試験参考書 保健体育』 『教員採用試験ステップアップ問題集』 指定図書：『月刊 体育科教育』 『現代スポーツ評論』 『はじめての哲学的思考』（吉野一徳：2017）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
「体育」「スポーツ」「身体」に関わるニュース、コラム、評論、雑誌、書籍に触れる機会を増やすこと。ネット記事であればブックマークをしたり、気になる紙媒体の資料があれコピーしてファイリングしたりして情報を蓄積すること。それが後に卒業論文の執筆、教員採用試験、現場実践につながります。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	・ 自己紹介、本演習の進め方、テキストの選定 ・ 担当教員と相談しながら前学期を省察し、それに基づいて本学期の目標を設定	予習：前学期の省察と本学期的目標設定を下書き 復習：本学期的目標設定を清書
2	哲学的対話という方法Ⅰ	超ディベート（共通了解型志向型対話）の実践Ⅰ	・ 指定図書『はじめての哲学的思考』を通読
3	レジュメの作成Ⅰ	主張の抽出と思考の言語化Ⅰ	・ 各自関心のあるキーワードで体育・スポーツ学系の論文を検索し通読
4	指導案の作成Ⅰ	授業計画と種目の教材化Ⅰ	・ 学習指導要領を通読
5	テーマ研究①	担当者が設定したテーマに基づいて発表	・ テーマに適切な先行資料をもとにレジュメを作成 ・ 担当者は発表準備
6	テーマ研究②	担当者が設定したテーマに基づいて発表	・ テーマに適切な先行資料をもとにレジュメを作成 ・ 担当者は発表準備
7	実技指導研究①	種目を設定し担当者が模擬授業を展開	・ 設定された種目のルール、学習指導要領を確認 ・ 担当者は指導案作成
8	テーマ研究③	設定したテーマに基づいて担当者が発表	・ テーマに適切な先行資料をもとにレジュメを作成 ・ 担当者は発表準備
9	テーマ研究④	設定したテーマに基づいて担当者が発表	・ テーマに適切な先行資料をもとにレジュメを作成 ・ 担当者は発表準備
10	実技指導研究②	種目を設定し担当者が模擬授業を展開	・ 設定された種目のルール、学習指導要領を確認 ・ 担当者は指導案作成
11	授業内小テスト	教員採用試験過去問	・ 指定された範囲を予習
12	テーマ研究⑤	設定したテーマに基づいて担当者が発表	・ テーマに適切な先行資料をもとにレジュメを作成 ・ 担当者は発表準備
13	テーマ研究⑥	設定したテーマに基づいて担当者が発表	・ テーマに適切な先行資料をもとにレジュメを作成 ・ 担当者は発表準備
14	実技指導研究③	種目を設定し担当者が模擬授業を展開	・ 設定された種目のルール、学習指導要領を確認 ・ 担当者は指導案作成
15	まとめ	前期授業のまとめと夏季休暇の課題	・ 各自設定した研究テーマや作成した指導案の省察

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IA (CF201)			担当教員	Brendan Van Deusen		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ ラーニング の 類 型
This course provides an introduction to discussing and presenting ideas about current global affairs. Working in stages, students learn basic technical, academic and communication skills necessary for an engaging and informative presentation and report.							2, 4, 5
ホスピタリ ティを構成する 能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標				評価手段・方法		評価比率
専門力							%
情報収集、 分析力	Students will be able to read about and discuss global affairs				Assignments Presentation		20% 10%
コミュニケー ション力	Students will be able to present ideas about global affairs in a way that engages their audience				In-class engagement Presentation Report		30% 20% 20%
協働・課題解決 力							%
多様性理解力							%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
In-class engagement (Group discussions, supporting other students with helpful ideas): 30% Assignments (weekly assignments, preparation work for projects): 40% Projects (final presentation, final report): 50%							
授 業 の 概 要							
In the first few classes, students discuss current events topics that are of interest to them. From this, they move on to building an academic presentation about one of these topics. Working in stages, students build their knowledge and ability to communicate their ideas and engage with others in a group setting. The project culminates in a final presentation with extended Q&A / class discussion. この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分です。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書 : None 参考書 : English newspapers in the library 指定図書 : English dictionary							
授業外における学修及び学生に期待すること							
1. This course is conducted in English. 2. Students are responsible for the cost of project-related materials and off-campus field work. 3. Student expectations: Students will attend <u>all lessons</u> (unless sick or on a school trip). Students must contact the teacher <u>before</u> missing a class. If a student misses a class, he or she will catch-up on the lesson and homework. Students will complete projects and homework on time. Students will ask for help							

if necessary. This syllabus is subject to change.

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	Introduction	- Introduce the course and review the syllabus - Basic framework for selecting and discussing current events	Read syllabus in advance
2	Personal goal setting	Conference with seminar teacher about personal goals for the semester	Prepare goals
3	Current Event Topic 1 Presentation beginnings	- Students discuss selected current events topic. - Effective introductions and message objective	Prepare current event topic 1
4	Current Event Topic 2 Basic slide design	- Students discuss selected current events topic. - Overview of basic slide design principles	Prepare current event topic 2
5	Mini-presentation 1	Students present part 1 of their presentation	Prepare mini-presentation
6	Body 1-2 Signposting for clarity	- Feedback on mini-presentation 1 - Using signposting to make a clearer presentation - Making body 1-2	Check feedback
7	Body 3 - 4 Describing visuals	- Describing what's on your slides - Making body 3-4	Review signposting
8	Describing visuals Engaging the audience	- Describing what's on your slides - Engaging the audience	Review slide visuals
9	Mini-presentation 2	Students present part 1 of their presentation	Prepare presentation
10	Making a conclusion	- Feedback on mini-presentation 2 - Summarizing ideas - Re-emphasizing the message objective	Check feedback
11	Designing handouts	- The role of handouts - Types of handouts	Review conclusions
12	Doing a Q & A	- The role of Q&A - Basic participation in a Q&A - Managing difficult questions	Review handouts
13	Final Presentations	Students present and participate in Q&A	Prepare for presentation and Q&A
14	Final Presentations	Students present and participate in Q&A	Prepare for presentation and Q&A
15	Final Presentations Wrap-up	- Students present and participate in Q&A - Final class discussion	Prepare for presentation and Q&A Submit final report

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠA (CF201)			担当教員	森尾真之		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブラーニングの類型
旅行業のバリューチェーンを理解し、それぞれの市場別の特性や課題、他業種とのコラボレーション事業の実態などアップデートな旅行・観光業への理解を深めます。そのうえで法人向け旅行市場におけるソリューション営業・提案営業の狙いを研究し、具体的な顧客・市場ニーズにマッチした事業企画フレームを生み出す思考力・判断力を身に着けます。							②⑥ ⑦⑫
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標				評価手段・方法		評価比率
専門力	- 旅行業および観光業の成り立ちを理解する。 - 現在直面している地域課題と市場の動向について理解する。				企画書作成 (ポートフォリオ)		20%
情報収集、分析力	域内の旅行業・観光業に関する最新の情報に触れ、同様の事例情報の収集や、関連する地域のテーマと比較して検討することができる。				・授業への積極的な姿勢		30%
コミュニケーション力	- 論点が整理され、簡潔でわかりやすい表現ができる。 - 課題に積極的に取り組み、メンバーの考えを尊重しつつ、自分の考えも説明することができる。				- グループワーク - プレゼンテーション		40%
協働・課題解決力	自分の役割を設定し、グループでの企画書作成作業に貢献する。				- グループワーク - 授業への積極的な姿勢		10%
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
企画書は様式や見やすさに加え、独自性と表現力、実行可能性の観点から評価します。また企画やプレゼンテーションの出来不出来だけではなく、普段からの議論への参加度も勘案します。講義への参加貢献度は、出席に加え討議をまとめるなどのリーダーシップやグループ内での率先垂範、メンバー支援などを総合的に判断します。							
授 業 の 概 要							
基礎知識として旅行業・観光業の成り立ちを考え、バリューチェーンにおける各ポジションの役割を理解し、業界全体を俯瞰します。また、旅行業における市場別の動向や収益構造、顧客との関係性を理解し、実際に市場に提案可能な高付加価値な発地型商品造成を目標に企画フレームをメンバーとともに研究・発表を行います。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とします。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書/参考書：特に指定しない。必要なレジュメなどは授業時に配布。 指定図書：「幸せの仕事術」小山薫堂（NHK 出版）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習では現実的に実施可能な企画の手法の研究と実践を目標と、多くの学外機関の方との連携や協力が不可欠です。社会に役に立つ企画を実現させるという高い目標意識をもち、学内外での多くの活動、自主的な調査など授業以外での活動へ積極的に参加する学生の受講を期待します。また、プレゼンや企画書面の作成など表現スキルの向上に取り組むことも期待します。							

回	テーマ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	オリエンテーション	メンバー自己紹介 演習概略およびゼミの運営方法を確認する。	(予習) 事前にシラバス及び演習概略に目を通してくる。
2	個人目標の設定	個別面談による目標設定をおこなう。	(予習) 自身のこれまでの取り組みや興味・関心をまとめてくる。
3	旅行業務の基礎知識習得①	旅行事業の成り立ちと日本の観光業における立ち位置(業務内容、事業パートナー)を学ぶ	(予習) 各旅行会社のHPを確認する。
4	旅行業務の基礎知識習得②	法人ソリューション営業の市場について	(予習) MICE、教育旅行について調べる。
5	旅行業務の基礎知識習得③	事業タイアップ型(文化交流・スポーツ・教育支援)企画提案営業について	(予習) 「テーマのある旅」などの旅行パンフを探してくる。
6	旅行業務の基礎知識習得④	収益構造について(価格設定と差別化)	(復習) 旅行業におけるバリューチェーンを理解する。
7	旅行業務の基礎知識習得⑤	長崎における旅行事業の実態と課題の解説、事例の検証(外部講師を予定)	(復習) 事業として旅行企画に取り組む会社の事例を集める。
8	グループ編成と企画案テーマ検討	これまでの予備学習について各自レポート作成・発表。グループ編成とテーマ設定	(予習) これまでの学びから自分の興味関心をまとめる。
9	テーマ案発表と立案企画フレームの精査	各チームのテーマを発表・全員で討議 企画テーマの内容や方向性を確認	(復習) 企画イメージをまとめる。
10	グループワーク	関連データの収集、調査内容の整理・検討およびスケジュールリング確認。	(予習) 調査対象の絞り込み。
11	グループワーク	フィールドワーク(事業パートナーとの打ち合わせ、想定利用施設の視察など)	(予習) 調査ポイントの確認
12	グループワーク	グループごとの進捗・経過の発表	(予習) 発表内容の論点確認
13	グループワーク	担当教員と各グループ別に企画案の内容確認・精査	(予習) 自分の調査分野での論点を確認。
14	グループワーク	プレゼンテーション準備	(予習) 発表準備
15	まとめ	グループごとに企画案プレゼンテーション。 意見交換と演習全体のふりかえり。	(予習) グループでの発表の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠA (CF201)			担当教員	中島 金太郎		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ・ラーニングの類型
テーマ：地域文化資源の調査と収集 博物館及び地域文化資源に関するフィールドワークを行い、その成果をまとめて発表することができる。特に博物館の4大機能の中でも「収集」「調査研究」機能について学び、実際の収集・記録活動を行うことで、学芸員に必要な実践的能力を養うことができる。							⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・方法	評価比率
専門力	博物館や地域文化資源に関心を持つことができ、主に資料の収集・記録の方法を身に着けることができる。					授業・調査への参加度	10%
情報収集、分析力	地域文化資源の特性を見出す洞察力や、問題点を把握する分析力及び思考力を取得することができる。					研究成果レポート	30%
コミュニケーション力	フィールドワークおよびグループワークの実施により、集団内でのコミュニケーション能力や発言力、企画立案力を養うことができる。					グループワークへの取り組み	40%
協働・課題解決力	地域文化資源について関心を抱き、調査・研究を行う中でゼミ生との協調性を養い、協働して課題解決に取り組むことができる。					プレゼンテーション	20%
多様性理解力							%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
・ 演習は、フィールドワークへの参加を中心とし、それに至るまでのグループワーク、現地調査への取り組み・態度を総合的に判断する。 ・ 事後学習の一環として、フィールドワークで得られた研究成果をレポートにまとめ、その提出を必須とする。							
授 業 の 概 要							
演習の方法は以下の手順で行う。 1. 博物館における資料収集および記録の目的・意義を確認 2. フィールドワークのテーマ・目的・場所・日程・方法についてグループワーク 3. テーマに関する文献資料の収集と分析、および文献調査結果のプレゼンテーションの実施 4. フィールドワークの実施（6月上旬～中旬に1日実施。踏査を基本とし、地域文化資源の搜索と収集、記録作業を行う。） 5. 収集した地域文化資源の記録作成（調書・文化財マップ等） 6. フィールドワークを基とした研究レポートの執筆 ※旅費は実費負担とする。なおフィールドワークは、日帰りできる範囲で行う。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：使用しない 参考書：調査地に応じて授業中に指示する 指定図書：青木豊編『人文系博物館資料論』雄山閣							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この演習は、博物館学芸員としての基礎である収集および調査能力を習得するものであり、フィールドワークを通じて実務能力だけでなく地域文化資源を判断する洞察力を養ってほしい。そのためには、普段から身の回りの自然や史跡等にも注意を払い、些細なことにも疑問をもってそれを解決する意識を涵養してほしい。 ※本演習を選択する学生は、博物館学芸員課程の履修者であることが望ましい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	演習内容の確認	ガイダンス（演習内容の把握）を実施。	予習：シラバスおよび教養セミナーBで配布されたフィールドワークについてのレジュメを再確認 復習：フィールドワーク予定地の考案
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の学習成果を省察し、本学期の個人目標設定のための面談を実施。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標を設定し、用紙にまとめる
3	事前学習①	ゼミ内でグループワークを行い、フィールドワーク実施地を選定する。 併せて、調査方法についても検討する。	予習：フィールドワーク調査方法の考案 復習：調査方法の再検討
4	事前学習②	フィールドワーク予定地に関する文献調査を行い、各組で調査内容を明確化する。 具体的には、歴史的環境・地理的環境などの各分野を割り振り、文献調査を基に後日発表する。	予習：図書館の使い方を再確認 復習：必要に応じて文献調査を再度実施
5	事前学習③	文献調査の成果をまとめ、プレゼンテーション用の資料（パワーポイント、配布資料）を作成する。	予習：調査した文献の確認 復習：発表用資料（PPT）、配布資料の完成
6	事前学習④	文献調査の成果をゼミ内で共有するため、プレゼンテーションを実施。	予習：発表練習 復習：発表内容、発表方法の振り返り
7	フィールドワークの準備	地図を基に具体的な調査方法を検討し、同時に日程・持参物等について確認する。	予習：各人の発表内容の再確認 復習：準備事項の確認
8	フィールドワーク	6月上旬～中旬に、日帰りで地域文化資源のフィールドワークを実施する。（学外授業、調査日は天候等によって変更となる可能性あり。）	予習：フィールドワーク予定地および調査方法の再確認 復習：調査成果の見直し
9	整理作業①	フィールドワークで得た成果を記録し、活用できるようにする整理作業を行う。	予習：調査成果の再確認 復習：作業結果の記録
10	整理作業②	フィールドワークで得た成果を記録し、活用できるようにする整理作業を継続して行う。	予習：調査成果の再確認 復習：作業結果の記録
11	レポート作成の準備	レポートの作成方法について講義する。 その際、「レポート執筆要領」を配布する。	予習：教養セミナーAで配布された「レポートの書き方」を再読 復習：作成方法の確認
12	レポート作成①	レポートを作成する。	予習：「レポート執筆要領」の確認 復習：レポート作成
13	レポート作成②	レポートを作成し、ポートフォリオを通じて提出する。	予習：レポート作成 復習：レポートの振り返り
14	レポートの添削指導	提出されたレポートについて面談・指導し、添削を基に修正する。	予習：レポートの振り返り 復習：レポートの修正
15	前期レポートの受理	修正した研究成果レポートを提出し、前期のまとめを行う。	予習：レポート提出の準備 復習：個人目標の達成状況の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IA (CF201)			担当教員	宮本 彩		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ ラーニング の 類 型
スポーツ科学についての基礎知識を理解するとともに、プレゼンテーションなどを通じて他者と知識や意見を共有・交換することを学ぶ。また、得た知識等を今後の自分自身の競技・スポーツの取り組みへと応用する手法について学ぶ。 スポーツ科学の視点からこれまでの自分自身の競技・スポーツ経験について振り返り、自分史としてまとめ、これからのキャリアについて考える。							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標				評価手段・方法		評価比率
専門力	スポーツ科学に関する基礎知識を理解することができる。 スポーツ科学で用いられる研究手法や測定・評価方法を理解することができる。				レポート		20 %
情報収集、分析力	自分自身が行っている、あるいは、興味を持っている競技種目について、スポーツ科学の観点から情報を収集し、分析することができる。				レポート		50 %
コミュニケーション力	自分自身の経験や文献等から得た知識を基に、他者に対してプレゼンテーションすることができる。また、ディスカッションにおいて、自分の意見を述べることができる。				プレゼンテーション ディスカッション		30 %
協働・課題解決力							%
多様性理解力							%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
自分史づくりなど授業内でのいずれの取り組みにおいてもレポートを作成する。レポートの出来栄え（論理的に文章が書けているかなど）はもちろん、取り組み姿勢についても評価する。評価比率は全体の 70%とする。なお、レポートの提出はポートフォリオを通じて行い、学生個々への評価のフィードバックを行う。 また、プレゼンテーションやディスカッション（2～3 回実施予定）において自分自身の意見を端的かつ論理的にまとめられているかについても評価する。なお、評価比率は全体の 30%とする。							
授 業 の 概 要							
この授業ではスポーツ科学の基礎知識を文献や資料から学んでいく。また、得た知識はレポートやプレゼンテーションとして積極的にアウトプットする。この授業で最も重点的な取り組みが自分史づくりである。これまでの自分自身の競技・スポーツ経験について振り返り、文書としてまとめていく。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分です。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：特に指定しない 参考書：アスリートとして知っておきたいスポーツ動作と身体のしくみ（ナツメ社） スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法―トレーニング科学の活用テクニック―（大修館書店） 指定図書：アスリートとして知っておきたいスポーツ動作と身体のしくみ（ナツメ社）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本ゼミの内容に興味を持ち、積極的かつ主体的に取り組んでほしい。 ゼミ時間外においても、予習・復習として課題に取り組む必要があることを理解しておいてください。 いずれの取り組みも自分だけで行うことはできません。他者と協力することを最重要視します。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	教員ならびに学生の自己紹介を行う。 専門演習の進め方についての説明を行う。	予習：自己紹介文の作成
2	前年度の省察と本年度の目標設定	前年度の大学での学びについて省察を行い、本年度の目標設定を行う。	予習：前年度の学習振り返り
3	スポーツ科学とは	スポーツに関する様々な学問について学ぶ。	予習：スポーツ科学について調べる
4	文献・資料の収集	書籍や研究論文等の文献・資料の収集方法について学び、1冊選出して精読する。	予習：図書館の利用方法等について調べる 復習：文献・資料を精読
5	文献・資料の紹介	精読した文献・資料についてプレゼンテーションを行う。	予習：プレゼンテーション作成
6	専門競技の分析①	自分自身が行っている、あるいは、興味を持っている競技種目について調べる。	予習：専門競技に関する文献・資料の収集
7	専門競技の分析②	自分自身が行っている、あるいは、興味を持っている競技種目について調べる。	予習：専門競技に関する文献・資料の精読
8	自分史づくり①	これまでの自分自身の競技・スポーツ経験について振り返り、自分史を作成する。	予習：自分自身の競技・スポーツ経験振り返り
9	自分史づくり②	これまでの自分自身の競技・スポーツ経験について、作成した自分史を基にプレゼンテーションする。	復習：自分史の加筆・修正
10	スポーツバイオメカニクスとは	スポーツバイオメカニクスについて学ぶ。	予習：スポーツバイオメカニクスの授業復習
11	研究手法の分析①	スポーツバイオメカニクスの書籍や研究論文等を調べ、研究手法について学ぶ。	予習：スポーツバイオメカニクスの文献・資料の収集
12	研究手法の分析②	スポーツバイオメカニクスの書籍や研究論文等から各競技での活用事例について学ぶ。	予習：スポーツバイオメカニクスの文献・資料の収集
13	研究手法の体験①	他のグループ（担当教員指導の専門演習ⅡA）が企画する測定に被験者（測定される人）として参加する。	予習：測定方法について調べる
14	研究手法の体験②	他のグループ（担当教員指導の専門演習ⅡA）が企画する測定に検者（測定する人）として参加する。 測定で得られたデータの取りまとめを行う。	復習：データの取りまとめ
15	まとめ	前期授業のまとめ 夏季休暇の課題の確認	復習：夏季休暇中の自分自身あるいはチームのトレーニング記録

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A (CF201)			担当教員	元嶋 菜美香		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブラーニングの類型
スポーツ心理学に関するテキストの輪読を通して、運動学習・健康心理の基礎知識を理解することを目的とする。また、これらの基礎的知識を専門的に実施している競技に応用して考え、ディスカッションを通じて知識を深めることができるようにする。さらに、スポーツ心理学における実験・調査について理解を深め、レポート作成を通してデータ収集、分析、心理的考察の方法を実践的に学ぶ。							①⑤⑩
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標				評価手段・方法		評価比率
専門力							%
情報収集、分析力	スポーツ場面における心理的要因を中心に、客観的な根拠を基に自分の考えを理論的に展開することができる。				プレゼン資料 調査・実験レポート		20% 20%
コミュニケーション力	スポーツ指導者および現役のアスリートとして、運動・スポーツにおける心理的課題とその対処法についての基本知識を説明することができる。 スポーツ場面における心理的要因について自身の意見をまとめ、ディスカッションに積極的に参加し、発表をすることができる。				プレゼンテーション、授業の参加度		60%
協働・課題解決力							%
多様性理解力							%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
授業への参加度：授業内でのディスカッションの参加度およびゼミ内での役割の遂行状況について評価する。 プレゼンテーション：担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、周辺領域に関する知識を把握した上で、理論的に説明できているかを評価する。 プレゼンテーション資料：プレゼンテーションを行うにあたり、担当箇所に記載されている基礎知識を理解し要約できているかを評価する。 調査・実験レポート：ゼミ内で行う調査・実験について専門用語を用いてまとめることができているかを評価する。							
授 業 の 概 要							
前半は、スポーツ心理学に関するテキストの輪読を通して、運動学習および健康心理に関して運動制御や情報処理などの運動の制御機構、フィードバックや練習法などの運動の学習と指導、スポーツにおける動機づけ、スポーツの社会心理、運動による健康の増進を中心的に学ぶ。各章の担当者を決定したのち、担当者は事前にテキストを精読・要約し、プレゼンテーション資料を作成する。作成した資料をもとにプレゼンテーションを行い、ゼミ内でディスカッションを行う。 後半は、運動学習に関する実験・調査を計画し、実験計画書の作成、データ収集、分析、レポートの作成を通してスポーツ心理学の研究方法を学ぶ。 課題の提出およびレポートの共有は、ポートフォリオを通じて行う。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：使用しない 参考書：よくわかるスポーツ心理学（ミネルヴァ書房，2012）、運動指導の心理学（杉原，2003） 指定図書：よくわかるスポーツ心理学（ミネルヴァ書房，2012）							

授業外における学修及び学生に期待すること			
スポーツ心理学に興味を持ち、普段から自分の専門種目や興味関心のある競技種目、日常生活における心理的要因について知識を深めること。また、時間厳守や報告・連絡・相談など、大学生としてふさわしい行動をするように努めること。グループワークが中心となるので、他者の心を思いやり協調性をもった行動をとること。 ※本演習を選択するものは、次のコースを履修することが望ましい：スポーツツーリズムコース			
回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、ゼミの進め方、輪読担当箇所の決定	シラバス及び参考書の確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	スポーツ心理学の概要	スポーツ心理学の領域、意義、心理的要素	担当箇所の精読・要約・レジュメ作成
4	輪読（１）	運動の制御機構「運動制御」「注意・集中」	担当箇所の精読・要約・レジュメ作成
5	輪読（２）	運動の学習と指導「練習方法」「フィードバック」	担当箇所の精読・要約・レジュメ作成
6	輪読（３）	スポーツにおける動機付け「動機付け」「自己効力感」「自己決定理論」	担当箇所の精読・要約・レジュメ作成
7	輪読（４）	スポーツの社会心理「チームビルディング」「ライフスキル」	担当箇所の精読・要約・レジュメ作成
8	輪読（５）	運動による健康の増進「ストレス・不安」	担当箇所の精読・要約・レジュメ作成
9	キッズスポーツ調査	キッズスポーツに参加し、調査を行う。	調査内容およびデータ入力方法を確認
10	実験・調査計画（１）	運動学習に関する調査・実験を計画する	運動学習に関する調査・実験の計画書の作成
11	実験・調査計画（２）	運動学習に関する調査・実験を計画する	運動学習に関する調査・実験の計画書の作成
12	実験・調査	運動学習に関する調査・実験を実施する	運動学習に関する調査・実験の結果の分析
13	実験・調査の分析	運動学習に関する調査・実験結果の分析	運動学習に関する調査・実験のレポートの作成
14	実験・調査レポートの作成（１）	運動学習に関する調査・実験結果の考察、レポートの作成	運動学習に関する調査・実験のレポートの作成
15	実験・調査レポートの作成（２）	運動学習に関する調査・実験結果の考察、レポートの作成	運動学習に関する調査・実験のレポートの作成、提出

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	池永 正人		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ ラーニング の 類 型
テーマ：観光地域の野外巡検 本学から日帰り可能な観光地域の野外巡検であり、現地において観察・聞き取り・資料収集などを行い、研究成果レポートの作成を通じて、地域研究の基本的手法を修得する。							⑥
ホスピタリティ を構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・ 方法	評価 比率
専門力	地域調査の方法やレポートの書き方およびプレゼンテーションの技法を身につけることができる。					研究発表	20%
情報収集、 分析力	観光地域の特性や問題点を見出す観察力・思考力を養うことができる。					野外巡検	20%
コミュニケーション力	地域調査の準備や調査結果の整理において、グループで意見を述べる ことができる。					事前・事後学習	30%
協働・課題解決 力	地域の自然や歴史・文化の観光活用に関心を抱き、調査・研究に取り 組むことができる。					事前・事後学習	10%
多様性理解力	観光地域の事象に関する自然科学や人文・社会科学の幅広い知識を修 得できる。					研究成果 レポート	20%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
・演習は野外巡検である。 ・評価は、野外巡検、研究発表、研究成果レポート、事前・事後学習を総合して行う。							
授 業 の 概 要							
演習の方法は、以下の手順で行う。 1.野外巡検の目的・意義・場所・日程・方法などを検討 2.研究テーマ・内容の設定 3.研究内容に関する文献・資料の収集と分析 4.現地調査（後期（秋期）：11 月に実施。観察や役所・観光施設等での聞き取り。） 5.研究成果レポートの作成 6.研究発表会 注）専門演習 I Aとは異なる場所を巡検する。また、旅費は各自で実費を負担する。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書・参考書・指定図書：研究地域が決定した後、巡検地に関連する文献を提示する。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この演習は、地域研究の基本的手法を習得するものであり、観光地の地域調査に関心のある学生の受講を希望する。野外巡検を通じて、観光地域の特性や問題点を見出す観察力を養ってほしい。そのためには、研究対象地域に関する文献・資料を図書館やインターネット等で収集し、積極的に予備知識を身につけることを希望する。 ※本演習を選択する学生は、次のコースを履修することが望ましい。 観光マネジメント							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	演習の内容	過年度の実績と新年度の演習計画を理解する。	予習：シラバスを読む 復習：野外巡検地の考案
2	後期（秋期）野外巡検地の選定 省察・個人目標の設定	野外巡検（人文観光地）の目的・場所・日程等について検討する。 前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定の面談を実施する。	予習：巡検地の文献調べ 復習：文献を読む
3	巡検地の事前学習①	研究内容に関する文献・資料を輪読する。	予習：巡検地の文献調べ 復習：文献を読む
4	巡検地の事前学習②	文献・資料を輪読する。	予習：文献を読む 復習：文献の要点整理
5	巡検地の事前学習③	地形図を用いて土地利用図を作成し、現象を分析する。	予習：土地利用図作成 復習：土地利用の分析
6	巡検地の事前学習④	観光施設等の観察調査の調査票を作成する。	予習：調査項目の考案 復習：調査票の作成
7	野外巡検の準備	野外巡検の日程・調査票・持参品等の確認をする。	予習：調査内容の確認 復習：持参品等の準備
8	野外巡検（人文観光地）	紅葉の美しい11月に、人文観光地（都市・農村地域）を1日調査する。	予習：調査内容の確認 復習：調査結果の整理
9	レポート作成要領	研究成果レポートの作成要領を理解する。	予習：調査結果の整理 復習：調査結果の整理
10	収集文献・資料の分析	現地で収集した文献・資料を輪読し、内容を分析する。	予習：レポート執筆 復習：レポート執筆
11	レポート提出	研究成果レポートを提出する。	予習：レポート執筆 復習：口頭発表の準備
12	研究発表	作成したレポートをもとに、ゼミ内で個別に口頭発表する。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	レポートの添削指導	添削されたレポートについて、個別指導を受ける。	予習：レポート内容確認 復習：レポートの修正
14	レポートの修正	添削されたレポートを修正する。	予習：レポートの修正 復習：レポートの修正
15	後期（秋期）レポートの受理	修正した研究成果レポートを提出する。冬休みの宿題を与えられる。	予習：レポート提出準備 復習：文献・資料の整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	板垣 朝之		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ・ラーニングの類型
専門演習 I A で実践したマクロ視野での観光の学びを、更に領域を広げて検証する。観光が日本の国策として取り上げられ経済や文化の多様な領域の中で語られ注目されている現状を、専門演習 I A で身に付けた手法により検証し、グループディスカッション等を通じてより深い理解を得る事、得た知識を自分のものとし、自分の意見を発表し文章で表すようになることを目的とする。							⑤⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・方法	評価比率
専門力							%
情報収集、分析力	新聞、マスコミ、WEB、SNS 等の情報源を駆使して、自分の意見を裏付ける情報を収集し、自分の考えに沿って情報を取捨選択し、まとめる事が出来る。					・レポート ・討議参画	30%
コミュニケーション力	自分の考えを述べ、他の学生の意見を聞いた上で、両者を調整し、グループディスカッション等、議論の上で最適解を発見できる様になる。					・討論参画 ・意見の陳述	50%
協働・課題解決力							
多様性理解力	自分の所属しない社会の現象を知り、その現象の負って立つ背景を理解できる様になる。					・レポート ・討議参画	20%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
自分の意見を、口頭と文章の両方で表現できるか否かを重視する。答えが与えられるのを待つのではなく、自分はどう考えるという事をどれだけ表現できるかが重要である。15 週の中で各学生がどの様に考え、どの様にそれを表現したかを評価軸におくので、筆記試験は行わない。レポート等のフィードバックは返却時等に適宜行う。							
授 業 の 概 要							
観光を構成する要素を再検証し、観光立国日本の観光の今後のあり方を再確認する。学生が自分なりの解答を見つけて出す事を目標とした授業となる。学外調査や外部講師の予定等により授業振り替えが発生する可能性がある。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書/参考書：特に指定しない。必要なレジュメ等は授業時に配布する。 指定図書：『この国のかたち 1 ～ 6 巻』：司馬遼太郎 文芸春秋社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この演習のキーワードは「好奇心」+「探求心」である。常に社会の神羅万象に好奇心を持って臨む事、情報収集に努める事、情報を取捨選択した上で自ら判断し、自分の意見を持つ事が重要である。この授業での自分磨きが、将来自分自身の「教養」となって身について行く事を体験してほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	全体の導入	IAの結果を踏まえ、IBでの方向性や各自の問題意識の持ち方等を確認する。	専門演習 IA での目標達成度を自己評価しておく。
2	個人面談・省察	専門演習 IA での成果を個人面談により省察し、到達目標の進捗状況確認や新たな目標設定を行う。	後期に向け新たな目標案を検討しておく。
3	旅行会社の役割と旅行商品について考える (1)	観光産業の中心占める旅行業発展の過程を歴史的に検証する。	資料を読み、旅行業の変遷を再確認する。
4	旅行会社の役割と旅行商品について考える (2)	海外旅行客の増加が日本全体へ与えた影響を考える。	海外旅行が大衆化して行く過程を再確認する。
5	旅行会社の役割と旅行商品について考える (3)	旅行商品にはどのような種類があり、どの様に利用されているのかを考える。(第1回)	旅行を「商品」として考える事を再確認する。
6	旅行会社の役割と旅行商品について考える (4)	旅行商品にはどのような種類があり、どの様に利用されているのかを考える。(第2回)	「旅行商品」の種類とそれぞれの特色を再確認する。
7	旅行会社の役割と旅行商品について考える (5)	旅行業と旅行商品の今後のあり方を考える。	旅行業の今後の方向性を再確認する。
8	旅行商品、観光素材の WEB 販売について考える (1)	旅行商品、観光素材の WEB での販売に関し、現状と問題点を把握する。	WEB 上で OTA をバーチャル体験しておく。
9	旅行商品、観光素材の WEB 販売について考える (2)	旅行商品や観光素材の WEB での販売の現状と問題点について自分の考察結果を発表し共有する。	発表準備をする。
10	旅行商品、観光素材の WEB 販売について考える (3)	WEB 販売の未来と、旅行商品の未来について考える。	旅行業の WEB 化がもたらす現状を再確認する。
11	日本文化の魅力を考える (1)	日本文化の特徴について考える。	日本文化に関し、どのような特徴があるのか自分の意見をまとめておく。
12	日本文化の魅力を考える (2)	「日本食」や「サブカルチャー」のあり方を考える。	日本食やサブカルチャーの現状を確認する。
13	日本文化の魅力を考える (3)	日本食文化の特徴について討議し理解を深める。	(1) (2) で共有した現状に関し、自分の意見をまとめておく。
14	専門演習 I 全体の振り返り	1 年生の演習で学んだことを省察し、次の学年での学びや自分の将来にどの様につながるのかを考える。	専門演習 I 全体で学んだことを再確認する。
15	まとめ	各自が半期の研究を振り返り、まとめの発表を行う。	半期のまとめ発表の準備をする。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	井上 英也 (実務家教員)		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ ラーニング の 類 型
本学の建学の理念にあるホスピタリティは、人と人を結びつける重要な素養として、国際化、多様化が進む企業活動においても広く取り入れられています。本演習は、ホスピタリティ産業の先端であるホテルの研究を通じて、“感じる力”“考える力”“表現・行動する力”を養い、将来の観光産業のリーダーを育成することをねらいとします。授業は、個人・グループによる研究、討議、発表により学びを深めます。							②④ ⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標				評価手段・方法		評価比率
専門力	地域観光の核となる宿泊業の役割を理解し、個々のホテル、旅館について、ビジネス、顧客、社員の観点から評価ができる。				課題レポート		10%
情報収集、分析力	常に新聞や雑誌に掲載される最新のホテル関連記事や情報を収集し、世界および我が国のホテル業の潮流について自分なりの見識を持つことができる。				授業への積極姿勢		30%
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、自分の考えを説明することができる。また、パワーポイントを使って説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。				授業への積極姿勢 プレゼンテーション		40%
協働・課題解決力	ホテル視察、研究において、自分の役割を設定し、グループに貢献することができる。また、新たなチャレンジに果敢に挑戦することができる。				授業への積極姿勢 現場視察への積極姿勢		10%
多様性理解力	外国人旅行客が地域のホテル・旅館・観光全般に求めることを理解し、改善策を提言することができる。				プレゼンテーション		10%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
「授業への積極姿勢」は、授業中の態度、発言・質問の頻度とレベルをもとに評価する。 「課題レポート」は提出時期（30%）内容の論理性・独自性（50%）文章構成力・形式要件（20%）で評価する。 ③ 「プレゼンテーション」は、内容とともに、情報ツールの活用能力、発表態度などをもとに評価する。 ④ 「現場視察への積極姿勢」は、事前準備、視察中の態度、事後のとりまとめなどをもとに評価する							
授 業 の 概 要							
ホテルを支える従業員の仕事の内容を理解することを通じ、働くこと、キャリアを積むことの意義を考える機会とします。また数人のゲストスピーカーを招き、グローバルなキャリアについて学びます。個人・グループの研究成果はプレゼンテーションを通じて、成果を共有していきます。また、授業の理解度をポートフォリオのレスポンスやイマキクを利用して確認するこの授業の標準的な授業外学修時間は、1コマ45分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：特になし / 参考書：授業時に、指定する。 指定図書：「ゴールド・スタンダード」ジョゼフ・ミケーリ							
授業外における学修及び学生に期待すること							
①ホテル・旅館など宿泊産業の情報に興味を持ち、書籍及び新聞、テレビ、雑誌などメディアから積極的に入手する。 ②ゼミのチームメンバーとは、協力して授業外の研究活動を行う。 ③「宿泊業論」・「ホテルオペレーション」・「ブライダルマネジメント」など関連の科目を履修し、理解を深める。 ④近隣地域の観光イベントに興味を持ち、積極的に参加する。 ⑤国際的な情勢に関心を持ち、学内・学外を問わず、積極的に異文化交流を行う。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	オリエンテーション ホテルの組織	専門演習ⅠAを総括し、今後の演習の進め方をシラバスに基づいて詳しく説明する。 ホテルの組織と各部門の役割について理解する。	(予習) シラバスを読んでおく
2	省察、個人目標の設定	前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	(予習) 後期の個人目標を考えておく
3	宿泊部門の仕事Ⅰ	現役の宿泊部長を招き、宿泊部門の仕事内容についての説明を受けた後、質疑応答により理解を深める	(復習) 宿泊部門の職務記述書を読む
4	宿泊部門の仕事Ⅱ	宿泊部門の職務を理解した後、業務上起こるケーススタディを通じ、具体的に仕事を理解する。	(予習) 予め指示された宿泊部門の職務内容を理解する
5	料飲部門の仕事Ⅰ	料飲部門の主だった職務を職務記述書から読み解くことにより理解する。	(予習) レストランの仕事を調べておく
6	料飲部門の仕事Ⅱ	レストランで業務上起こるケーススタディを通じ、具体的に仕事を理解する。	(予習) 予め指示された料飲部門の職務内容を理解する
7	ウェディング部門の仕事Ⅰ	ウェディング部門の職務を理解した後、業務上起こるケーススタディを通じ、具体的に仕事を理解する。	(予習) ウェディングプランナーの仕事を調べておく
8	ホテル試泊 福岡市内のホテルを試泊	福岡市内のホテルに宿泊し、ホテル館内の視察を通じて、ホテルのインスペクションを行う。 (ANA クラウンプラザ福岡 予定)	(予習) ANA クラウンプラザ福岡についてウェブサイト調べておく
9	ホテル試泊に関するプレゼンテーション	試泊によりインスペクションした結果について、グループごとに討議し、発表する。	(予習) 試泊した内容をまとめておく
10	セールス&マーケティング部門の仕事	セールス&マーケティング部門の職務を理解した後、業務上起こるケーススタディを通じ、具体的に仕事を理解する。	(予習) マーケティングの仕事を調べておく
11	管理部門（経理・人事）の仕事	管理部門の職務を理解した後、業務上起こるケーススタディを通じ、具体的に仕事を理解する。	(予習) 人事の仕事を調べておく
12	総支配人の仕事	現役の総支配人を招き、ホテルのリーダーとしての役割について説明を受けた後、質疑応答により理解を深める。	(予習) 総支配人の役割を考えておく
13	キャリア・マップの理解とキャリア・パスの作成	ホテルのキャリアマップを理解し、総支配人になることを想定したキャリア・パスを作成する。	(予習) キャリア・マップについて調べておく
14	国際人としてのキャリア	国際的に通用するキャリアを、ホテルの仕事を参考に考察する。	(予習) 海外のホテルを一つ選択し、施設内容を調べておく
15	専門演習ⅠBのまとめ	学んだことをグループごとにとりまとめ、発表する。	(予習) グループ発表の準備をする

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B(CF202)			担当教員	落合 知子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブラーニングの類型
博物館などの見学を各自が行い、博物館を資料・展示・保存・研究・展覧会など様々な角度から概観し、博物館を幅広く学ぶとともに、卒業研究のテーマを考える力を身に付けることができる。 地域文化資源の野外調査を行い、その結果を発表することができる。							⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	博物館に関心を持つことができ、調査・研究の取り組み方法を身に付けることができる。					授業・調査への参加	10%
情報収集、分析力	博物館の特性や問題点を見出す力や思考力を養うことができる。 書籍や論文を読み分析力を養うことができる。					事前・事後学習	30%
コミュニケーション力	ゼミ形態の授業を基本とし、学外のフィールドワークで協調性を養うことができる。					調査における態度	50%
協働・課題解決力	博物館の調査方法を身に付け、プレゼンテーションができる。勉強会に積極的に参加して、自分の考えを述べるができる。					プレゼンテーション 勉強会での発表	10%
多様性理解力							%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
合同調査や勉強会におけるコミュニケーション力が 50%、情報収集・分析力が 30%、プレゼンテーションおよびその他が各 10% で評価する。ポートフォリオで課題のフィードバックを行う。							
授 業 の 概 要							
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。 ・ 書籍・文献調査の課題提示をポートフォリオを通して行う。 ・ 勉強会を実施する。 ・ 研究発表会を行う。 ・ 研究成果レポートの作成と提出。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
参考書：『博物館と観光』（落合知子編・雄山閣） 指定図書：『野外博物館の研究』（落合知子著・雄山閣）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習は、博物館や地域文化資源に興味を持ち、博物館専門職員である学芸員の資格取得を目指す学生の受講を希望する。教育者でもあり、研究者でもある学芸員は専門分野の知識は勿論のこと、コミュニケーション能力と礼節が求められるため、社会人としての基礎的能力を身に付けることを期待する。 また、日頃から博物館施設に訪れ、展示を見学するだけでなく、博物館で開催されるワークショップや公開講座にも積極的に参加し、博物館の教育活動の在り方を学ぶことが望ましい。 ※本演習を選択する学生は「学芸員資格課程」を履修することが望ましい。 ※見学・調査費用は実費とする。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	オリエンテーション	専門演習の進め方・目標について	予習：シラバスを読む 復習：博物館調査館の考案
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら前学期の省察を行い、本学期の目標設定について確定する。	予習：本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	見学館の事前学習①	博物館調査の場所・日程等について検討する。 博物館調査の具体的内容と割振りをする。	予習：博物館予備調査 復習：今回の復習
4	見学館の事前学習②	各担当者の事前学習の発表。	予習：発表の準備 復習：発表の反省
5	見学館の事前学習③	各担当者の事前学習の発表。	予習：発表の準備 復習：発表の反省
6	博物館調査	博物館及び地域文化資源の調査をする。	予習：調査内容の確認 復習：調査結果の整理
7	レポート作成要領	研究成果レポートの作成要領を理解する。	予習：レポート内容確認 復習：作成要領の復習
8	文献資料の収集と分析	調査で収集した文献・資料を理解する。	予習：調査収集資料の確認 復習：調査結果の整理
9	レポート作成	レポートを作成する。	予習：レポート執筆準備 復習：レポート執筆
10	レポート作成	レポートを作成する。	予習：レポート執筆 復習：レポート執筆
11	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：レポート執筆 復習：口頭発表の準備
12	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
14	レポートの添削指導	添削されたレポートを修正する。	予習：レポートの修正 復習：レポートの修正
15	前期レポートの受理	後期のまとめとして、修正した研究成果レポートを提出する。	予習：レポート提出準備 復習：文献・資料の整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	熊谷 賢哉		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブラーニングの類型
運動生理学に関するテキストの輪読を通して、運動生理学に関する基礎的知識を理解すると共に、生理学的指標としての体力や運動能力の測定方法について理解することを目的とする。また、これらの基礎的知識を、自分が行っている種目や、関心がある種目に応用して考えることができるようになることを目的とする。更に、テキストで扱う、体力・運動能力の測定方法については、実践（実技）を通して修得することを目的とする。							① ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・方法	評価比率
専門力	- 運動生理学およびトレーニング科学に関する基礎的知識を理解することができる。 - 体力・運動能力の測定方法を修得する					- プレゼン用レジュメ - 実技試験	10% 10 %
情報収集、分析力	自分が行っている種目や、興味がある種目を、トレーニング科学および運動生理学の観点から考えることができる。					プレゼン後のディスカッション	30%
コミュニケーション力	ディスカッションにおいて自分の意見を述べることができる。					- プレゼンテーション - プレゼン後のディスカッション	50%
協働・課題解決力							%
多様性理解力							%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
プレゼンテーションおよびプレゼン後のディスカッション（80%）については、担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、その周辺領域に関する知識も把握した上でのプレゼンテーションとする。プレゼン用レジュメ（10%）については、プレゼンテーションを行うにあたり、その内容がしっかりと要約できているかを評価基準とする。実技試験（10%）については、体力・運動能力の測定方法について理解した上で測定ができているかを評価基準とする。							
授 業 の 概 要							
運動生理学に関するテキストを輪読していく（①担当箇所(担当者)の決定、②担当箇所を精読、③要約、④レジュメ作成、⑤報告、⑥ディスカッション）。なお、②～④の行程については、担当者が事前（ゼミ時間外）に準備するものとする。また、テキストの内容で、本学にて実習形式にて実際に行えるものについては、積極的に行っていく。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：特に指定しない 参考書：『スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法』大修館書店 指定図書：『スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法』大修館書店							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本ゼミで行う内容に興味を持ち積極的に参加してほしい。そのためには、ゼミ時間外に、ゼミで行った内容について復習を通して理解すると共に、ゼミで行った内容の周辺領域の知識について予習する等の取り組みを行ってほしい。また、知識の修得や理解の以前に、“ヒト”としてではなく“人”として、そして大学生としての最低限のマナーをもって教員やゼミ生と接してほしい。メリハリ（学ぶときは学び、遊ぶときは遊ぶ）を大切に！							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習・復 習
1	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
2	オリエンテーション	自己紹介、ゼミの進め方について、輪読担当箇所の決定	担当者：担当箇所（身体のかたちを知る(1)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：身体のかたちを知る(1)の精読
3	輪読（1）	身体のかたちを知る(1) 「形態を測る」	担当者：担当箇所（身体のかたちを知る(2)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：身体のかたちを知る(2)の精読
4	輪読（2）	身体のかたちを知る(2) 「体脂肪を測る」	担当者：担当箇所（身体のかたちを知る(3)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：身体のかたちを知る(3)の精読
5	輪読（3）	身体のかたちを知る(3) 「骨を測る」	身体のかたちを知る(1)～(3)の復習
6	測定評価（1）	形態計測（測定評価）	担当者：担当箇所（身体の機能を知る(1)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：子供のためのトレーニング(1)の精読
7	輪読（4）	身体の機能を知る(1)「筋力を測る」	担当者：担当箇所（身体の機能を知る(2)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：子供のためのトレーニング(2)の精読
8	輪読（5）	身体の機能を知る(2)「持久力を測る」	担当者：担当箇所（身体の機能を知る(3)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：子供のためのトレーニング(3)の精読
9	輪読（6）	身体の機能を知る(3)「乳酸を測る」	担当者：担当箇所（身体の機能を知る(4)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：子供のためのトレーニング(4)の精読
10	輪読（7）	身体の機能を知る(4)「スポーツ心臓を測る」	身体の機能を知る(1)～(4)の復習
11	測定（2）	最大酸素摂取量の測定（測定）	課題レポート（最大酸素摂取量の測定）
12	測定評価（2）	最大酸素摂取量の測定（評価）	担当者：担当箇所（身体の機能を知る(5)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：身体の機能を知る(5)の精読
13	輪読（8）	身体の機能を知る(5)「速度を測る」	担当者：担当箇所（身体の機能を知る(6)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：身体の機能を知る(6)の精読
14	輪読（9）	身体の機能を知る(6)「ジャンプ力を測る」	担当者：担当箇所（身体の機能を知る(7)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：身体の機能を知る(7)の精読
15	輪読（10）	身体の機能を知る(7)「筋電図を測る」	身体の機能を知る(5)～(7)の復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (GF202)			担当教員	嶋内 麻佐子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブラーニングの類型
茶道は、かた苦しいものであると思われがちであるが、茶道の背景にある「形」や「心」学び、それぞれのシーンでのおもてなしを実践する。また、平戸で開催される茶会、県内で開催される茶会に客として参加し、その魅力を探り茶会の楽しみ方を学ぶ。さらに茶道の持つ癒しの要素を、観光の現場や会社等に活かす方法を考える。							②⑥⑦⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力							
情報収集、分析力	県内で開催されている茶会に 2 回以上参加し、茶会の設定やテーマ等の情報を集めて、他県の町おこしのお茶のおもてなしについて批評することができる。				・ディスカッション ・プレゼンテーション		20% 20%
コミュニケーション力	茶会の組み立てや趣旨、茶道具の組み合わせ方を読み解き、主催者(亭主)の考えを述べるができる。TPOの知識を身につけ、茶道の用語を理解し、それを用いて、シーンごとのおもてなしの組み立てを理解し現代流のカジュアルな茶会を企画することができる。				・課題レポート ・茶会参加		50% 10%
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
・課題レポートは 50%、お茶のおもてなしについてのディスカッションが 20%、プレゼンテーションを 20%とする。お茶会への参加は 10%とする。課題レポートは、それまでの授業の内容に関する課題を問う。また、レポートのフィードバックを授業で行う。 ・プレゼンテーションについては 8 回目と 14 回目を実施し、それまでの基礎知識を理解し、その内容が実践されているかを総合的に評価する。また、全員でディスカッションを行う。							
授 業 の 概 要							
・茶道の基礎知識を学び、「点前」の「型」や「動作」について考察する。その知識を活かし、現代の生活シーンに合ったおもてなしのパターンを提案し、順次発表する。他の履修者は、発表者に対して質問を行う。 ・平戸の「大心茶会」及び県内で開催されている茶会を体験し、茶会の企画・実施するための方法・茶席のしつらえ・道具や菓子等について報告し、それに関してディスカッションを行う。 ・茶道のおもてなしの基本について、文献を用いて学習する。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分です。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：小堀宋実『茶の湯の不思議』日本放送協会、2008							
参考書：佐々木一成『地域ブランドと魅力あるまちづくり』学芸出版、2008							
指定図書：河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶応義塾大学出版会、2002							
授業外における学修及び学生に期待すること							

- ・専門演習での取り組みを含め、学外で実施されている茶会に積極的に参加する。
- ・茶会の軸である人と人、人と物に対する感性をしっかりと磨く。
- ・学内の行事は勿論インターンシップに参加して、社会人基礎力身につける。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	導入	専門演習の進めかたについて説明する。	シラバスを読む。
2	茶道の基礎知識 (1)	茶道の歴史 (茶道の始まりと展開・茶の湯のゲーム)	『観光の地平』を読む。
3	茶道の基礎知識 (2)	「点前」「てまえ」「点てる」「たてる」の由来について説明する。	点前の由来を調べる。
4	茶道の基礎知識 (3)	茶道の「型」と点前の効果について考える。	茶道以外に、日本文化の「型」には、どのようなものがあるか調べる。
5	おもてなし (1)	茶の一番大切な部分である、「おもてなしの心」について考える。さらに一座建立の言葉と意味について説明する。	一座建立の意味を調べる。
6	おもてなし (2)	大寄せ茶会(略式)を説明し、茶会でのおもてなしについて考える。	『観光の地平』を読む。
7	茶会参加	平戸で開催される茶会に参加し、大寄せ茶会の内容と組み立て方を観察する。	情報収集する。
8	茶会の報告	平戸で開催の茶席(書院・広間・フロアー)の内容について報告する。	レポートを作成する。
9	おもてなし (3)	おもてなしのための道具の考え方を理解する。(実際に茶道具を使い、テーマごとの道具の組み合わせをする。)	テーマに合わせた道具について調べる。
10	おもてなし (4)	おもてなしのための抹茶と菓子(季節の主菓子)の組み合わせを考える。	各自、主菓子を購入し季節ごと器と菓子を組み合わせる。
11	お茶と観光 (1)	藤枝市のお茶と観光について考える。	インターネットで藤枝市の町おこしを検索し、その内容をまとめる。
12	お茶と観光 (2)	松江市のお茶と観光について考える。	インターネットで松江市の町おこしを検索し、その内容をまとめる。
13	研究と発表 (1)	平戸大心茶会と観光について考える。	レポート作成と発表の準備を行う。
14	研究と発表 (2)	平戸大心茶会と観光について発表する。	レポート作成と発表の準備を行う。
15	まとめ	前期のまとめを行う。	これまでの講義資料を整理する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠB (CF202)			担当教員	滝 知則		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ ラーニング の 類 型
三川内焼の特徴と魅力を、2つの言葉でガイドする 後期においては、三川内焼と有田焼の比較を通じ、三川内焼の特徴の説明を、前期よりも幅広くまた深くできるようになる（2つの言語で）。これらを通じ、佐世保の観光対象としての三川内焼の魅力を理解するとともに、コミュニケーション能力を伸ばす。							④ ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	研究対象とする陶磁器の歴史と制作過程を理解し、説明できる。				期末レポート		10%
情報収集、分析力	資料調査、観察またはインタビューを行うことにより、対象とする陶磁器の情報を収集する。				期末レポート		25%
コミュニケーション力	調査結果を聞き手に分かりやすく並べ替え、説明できる。ゼミのメンバーならびに担当教員の発言を傾聴できる。				ゼミ内発表会 演習への貢献度		35% 10%
協働・課題解決力	有田町でのフィールドワークの際、3年生と一緒に調査を行うことができる。				フィールドワーク参加		10%
多様性理解力	ゼミのメンバーと自分の文化的背景の違いを認識したうえで、お互いを尊重して行動できる。				演習への貢献度		10%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
1. 評価基準を授業の時系列順に示すと、授業中の傾聴（毎回）、自他の文化の尊重（毎回）、フィールドワーク参加状況（実施時）、ゼミ内発表会（グループワーク）、期末レポートである。 2. フィードバックは次の時点で行う。予習課題・復習課題（マナバに出題）：授業中、プレゼンテーション：当該授業時、期末レポート：提出締切後（個別に）							
授 業 の 概 要							
ゼミ生どうして協働し、各種資料の調査、レポートの作成ならびに報告する経験を積み重ねる。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：指定しない。 参考書：『平戸の文化と自然』、『皿山なぜなぜ』、『長崎学への道案内』、『日本やきもの史』等。 指定図書：大橋康二（2004）海を渡った陶磁器。吉川弘文館。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
（1）開国祭での学術発表への参加を、必須とする。（2）ようこそ JAPAN 外国語コンテストへの出場または運営の支援が望ましい（必須ではない）。（3）3コースの履修生の受講を勧める。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	イントロダクション	この科目の目的と目標、ならびに学習スケジュールを確認する。	(予習) シラバスを読んでくる。 (復習) 後期のスケジュールを手帳等に記入する。
2	省察	2年前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	(予習) 面談の準備。 (復習) 面談結果を記録しておく。
3	学術発表準備 1	前期のレポートを基にした学術発表の準備。①グループ編成、②スライド制作の方針と作業分担。	(予習) 前期のレポート(紙媒体とデータ)を持参する。 (復習) 制作したスライドのページをマナバにアップする。
4	学術発表準備 2	学術発表用スライドの編集作業。	(予習) グループのメンバーのスライドを読んでおく。(復習) 自分のスライドの修正、編集
5	学術発表準備 3	学術発表のリハーサル。	(予習) 発表の練習をしてくる。 (復習) リハーサルで見つかった課題の改善
6	学術発表	大学祭期間中に学術発表を行う。	(予習) 発表の練習をしてくる。 (復習) 発表後の感想を、マナバに記入する。
7	有田焼の調査 1	①学術発表の振り返り。 ②有田焼の概要、③有田町へのアクセス	(予習) 配布された資料を読んでくる。(復習) 調査結果を記録する。
8	有田焼の調査 2	①フィールドワーク時調査対象(窯元、観光施設)の検討	(予習) 調査対象の候補を選ん でおく。(復習) 調査結果を記録 する。
9	有田焼の調査 3	①フィールドワーク時調査対象(窯元、観光施設)の選定、②行程の決定	(予習) 自分が希望する調査対象 を選ん でおく。(復習) フィールドワ ークの準備
10	有田町フィールド ワーク	フィールドワークの実施	(復習) フィールドワークの調査結 果をマナバに記入する。
11	フィールドワークの 振り返り 1	①フィールドワーク調査結果の共有	(予習) マナバに記入された調査 結果を読んでくる。(復習) 他メン バーの調査結果への感想を記入
12	フィールドワーク 振り返り 2	①有田焼との比較を踏まえ、三川内焼の特徴と魅力を聴き手に伝えるプレゼン用のスライドを作成する。	(予習) プレゼンの作成 (復習) 見つかった改善点を考慮 してプレゼン資料を修正し、次 回で提示する。
13	フィールドワーク 振り返り 3	②プレゼンテーションの内容を、リーフレット(A4版1ページ)にまとめる。	
14	ゼミ内発表会	①各ゼミ生によるプレゼンテーション(3分間) ②リーフレット ①・②とも「分かりやすさ」に留意し、相互に評価する。	(予習) プレゼンの練習 (復習) プレゼンの評価
15	全体のまとめ	①この科目で学習した内容のふりかえり、②所期の目標に到達したか、③期末レポートの指示	(予習) 目標の到達度を発表できるよう、準備する。

授業科目(ナンバリング)		専門演習 I B (0F202)		担当教員	田中 誠			
展開方法		演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い								アクティブ ラーニング の 類 型
・身近な内容に関して、英語で表現できるようになり、多文化共生社会において交流することができる。 ・特定のテーマに関して、自ら事前に調べ発表することで学びや知識を深め、様々な問題解決に役立つ思考や判断をすることができる。 ・TOEIC の基礎的な内容を理解し、それを実際のコミュニケーションに活かすことができる。								① ⑥
ホスピタリティ を構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・ 方法		評価 比率
専門力	TOEIC 450 点レベルの語法問題を概ね解くことができる。					・テスト		25%
情報収集、 分析力	基礎レベルの問題の情報収集、及び解決のための思考・判断能力を身につけ、その内容を発表することができる。					・受講者の発表		30%
コミュニケーション力	(1) 基礎的なコミュニケーションのために必要な知識を理解し、コミュニケーションがうまくいかない場合は、なぜうまくいかないのかを説明することができる。					(1) 受講者の発表		25%
	(2) コミュニケーション力をつけるための課題英文を適切に書くことができる。					(2) 課題		20%
協働・課題解決力								
多様性理解力								
出 席						受験要件		
合 計						100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明								
1. 毎回、英文の音読筆写の課題を提出する。また、そのフィードバックは課題提出時にその都度行う。 2. 14 回目に 30 分のテストを実施。テスト内容は TOEIC の形式とする。テスト後はポートフォリオでフィードバックを行う。 3. 担当箇所の発表内容を評価の対象とする。準備不足の学生は減点となる。								
授 業 の 概 要								
英語と日本語の実際の場面で使用される様々な表現を学ぶとともに、与えられたテーマに関して議論し、理解を深める。また、TOEIC の基礎を学ぶ。 (コースの指定は特にしない) この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。								
教 科 書 ・ 参 考 書								
教科書：『脱文法 100 トピック実践英語トレーニング』中山誠一(他)、ひつじ書房。及び、プリント配布。 参考書：『新 TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ』TEX 加藤 (著)、朝日新聞出版。 『新 TOEIC TEST 入門特急 とれる 600 点』TEX 加藤 (著)、朝日新聞出版。 指定図書：『ことばと文化』鈴木孝夫(著)、岩波新書。								
授業外における学修及び学生に期待すること								
コミュニケーション能力向上のために自ら学ぶという努力をしてもらいたい。この演習は、自ら学ぼうとする学生向けの内容となっている。英語と日本語双方の言語に関して、コミュニケーション能力の向上を目指し、ハイレベルな内容を取り扱うので、英語力と日本語力の両方がないと授業についていくのは難しい。特に、留学生は日本語能力が N1 レベルないと授業内容を理解するのは難しいであろう。毎回、課題も出るので、一生懸命学ぼうと努力する必要があることを理解して履修すること。また、長期インターンシップに参加する学生を歓迎する。								

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	発表、オリエンテーション	休暇中の取り組みについて英語で発表。また、ゼミがスムーズに運営できるように、オリエンテーションを行う	予習：TOEIC の最新情報について調べる 復習：音読筆写
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	to 不定詞を使いこなす	to 不定詞を使った表現、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 1-10 について調べる 復習：英文 1-10 音読筆写
4	if 節を使いこなす	if 節を使った表現、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究、	予習：TOEIC 11-20 について調べる 復習：英文 11-20 音読筆写
5	知覚構文を使いこなす	知覚構文を使った表現、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究、	予習：TOEIC 21-30 について調べる 復習：英文 21-30 音読筆写
6	論文の書き方①	論文のテーマを探す、資料の収集法、図書館活用法、カードの活用、PCの活用など（レベル1）、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究、	予習：TOEIC 31-40 について調べる 復習：英文 31-40 音読筆写
7	感情のこもった倒置	倒置を使った表現、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 41-50 について調べる 復習：英文 41-50 音読筆写
8	オブラートに包む否定表現	否定を使った表現、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究、	予習：TOEIC 51-60 について調べる 復習：英文 51-60 音読筆写
9	時制を使いこなす	時制に関する表現、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究、	予習 TOEIC 61-70 について調べる 復習：英文 61-70 音読筆写
10	臨場感を伝える表現	臨場感を伝えるための表現、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 71-80 について調べる 復習：英文 71-80 音読筆写
11	論文の書き方②	インターネット活用、切り口を考える、何をすべきかなど（レベル1）、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究、	予習：TOEIC 81-90 について調べる 復習：英文 81-90 音読筆写
12	数量詞を使いこなす	数量詞を使った表現、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 91-100 について調べる 復習：英文 91-100 音読筆写
13	可算名詞、不可算名詞を使いこなす	名詞に関する表現、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究、	予習：TOEIC 101-110 について調べる 復習：英文 101-110 音読筆写
14	的確に質問する	質問する際の表現、ディスカッション、TOEIC 問題テスト実施、翻訳研究、	予習：試験の準備学習、 復習：音読筆写
15	まとめ	TOEIC 問題、ディスカッション、まとめ	予習：TOEIC 111-120 について調べる 復習：英文 111-120 音読筆写、振り返り

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠB (CF202)			担当教員	安部 雅隆		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブラーニングの類型
- 企業がどのようにして利益を獲得しているのか、その構造を理解しながら一般企業の経営戦略を分析する力を身につける。 - 日々の株価や為替の動向を注視していくことで、世の中の経済の流れについて把握できるようにする。 - ある事象について収集した情報を基に、プレゼンテーション用のソフトを用いて人前で伝える能力及びディスカッションを行うことで自分の考えを短時間でまとめて伝える能力を養成する。							①⑤ ⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	企業の基本的な収益構造が理解できる。また、産業別の収益構造の相違点についても理解できる。					- 課題レポート - 受講者の発表 - 授業内での発言内容	20%
情報収集、分析力	企業情報を示す客観的データから、その企業の特徴、問題点などを分類できる。またそれによりその企業がとっている戦略や今後とるべき戦略を分析・指摘できる。					- 課題レポート - 受講者の発表 - 授業内での発言内容	30%
コミュニケーション力	収集した情報を簡潔にまとめ、プレゼンテーション用ソフトを用いて人前で発表することができる。					受講者のプレゼン	35%
協働・課題解決力							%
多様性理解力	『企業』の存在意義を理解でき、ビジネスへの関心が高まる。企業で『働く』ということの重要性を認識できる。					授業内の発言頻度	15%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
- 各章ごとにプレゼンテーションを、また最終回にプレゼンテーションおよび課題レポート提出を課す。課題レポートについては、理論的かつ独創的な思考を内包しているかを評価する。プレゼンテーションの評価基準もこれと同様だが加えて時間内に簡潔にまとめられているかについても評価の対象とする。最終回に課す課題レポートおよびプレゼンテーションの内容は授業内で指示をする。 - 授業態度・授業への参加については、発表の内容とディスカッションへの参加度合いを評価する。							
授 業 の 概 要							
以下の2点を中心に据えながら、本演習を進めていく。 - 教科書を輪読し経営学の基礎的知識を修得する。その際、各章ごとに担当を決定し内容に関してプレゼンテーションを行う。プレゼンテーション後には、その評価を含め、発表内容について全員でディスカッションを実施する。 - ひとつの企業を選定しその企業の概要や置かれている業界の構造、またその企業に孕む問題点を考察し発表する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：「1からの経営学」（中央経済社） 参考書：「ゼミナール経営学入門」（日本経済新聞社） 「入門経営学」（新世社） 指定図書：「1からの経営学」（中央経済社）「(留学生には別途、授業中に指示する)」							

授業外における学修及び学生に期待すること

コースについては問わないが、下記のいずれかに該当する学生の履修を希望する。

- ・経営に興味を抱くもの
- ・将来新規ビジネスを起業しようと考えているもの
- ・店舗経営等に関心を寄せるもの
- ・人前で話す力やプレゼンテーション能力の向上に努めたいもの

なお、実社会のビジネスを体感できるという観点から「長期インターンシップ」を履修することを強く推奨する。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	オリエンテーション	本演習の受講者の紹介や演習形式の説明、また円滑な運営を行っていく上でのルール等の説明を行う。	シラバスを読む 夏季休業前レポートを再度読む
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する。	予習；前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習；本学期的目標設定の清書
3	基礎知識の修得①	『経営戦略のマネジメント（part.1）』について基礎的知識を理解する。	教科書の該当箇所を読む 担当者は発表準備
4	基礎知識の修得②	『経営戦略のマネジメント（part.2）』について基礎的知識を理解する。	教科書の該当箇所を読む 担当者は発表準備
5	基礎知識の修得③	『多角化戦略のマネジメント』について基礎的知識を理解する。	教科書の該当箇所を読む 担当者は発表準備
6	基礎知識の修得④	『国際化のマネジメント』について基礎的知識を理解する。	教科書の該当箇所を読む 担当者は発表準備
7	基礎知識の修得⑤	『組織（マクロ）のマネジメント』について基礎的知識を理解する。	教科書の該当箇所を読む 担当者は発表準備
8	基礎知識の修得⑥	『組織（ミクロ）のマネジメント』について基礎的知識を理解する。	教科書の該当箇所を読む 担当者は発表準備
9	基礎知識の修得⑦	『キャリアデザイン』について基礎的知識を理解する。	教科書の該当箇所を読む 担当者は発表準備
10	基礎知識の修得⑧	『ファミリービジネスおよび病院のマネジメント』について基礎的知識を理解する。	教科書の該当箇所を読む 担当者は発表準備
11	基礎知識の修得⑨	財務諸表について基礎的知識を理解する。	配布資料を読む
12	基礎知識の修得⑩	財務諸表について基礎的知識を理解する。	配布資料を読む 担当者は発表準備
13	研究発表①	担当者が発表し、それについて全員で議論する。	担当者はプレゼン準備
14	研究発表②	担当者が発表し、それについて全員で議論する。	担当者はプレゼン準備
15	総まとめ	これまでのまとめを行う。 また完成したレポートを提出する。	レポート提出

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠB(CF202)			担当教員	乙須 翼		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ ラーニング の 類 型
本演習では、受講者がテーマに関するデータや報告書、文献を読み、レジュメを作成して発表し、議論することを通じて、受講者の情報を収集する力、情報を批判的に分析する力、自分の考えを的確に説明する力、論理的な文書を書く力、これら基礎力の養成をはかりたい。テーマを、「子育て・家族・ジェンダーから世界を見る」とし、テーマに関わる国際比較のデータや文献の情報収集、講読、プレゼンテーションなどの作業を進める中で、各受講者が日本の子どもや家族、男女の関係性に関する価値観の特徴を理解すると共に、世界の国の人々の生活や文化、社会へと関心を広げていけるよう導きたい。							⑤⑥⑧
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							%
情報収集、分析力	データや報告書、文献などを的確に読み取ることができる。 テーマに関する情報を文献やインターネットなどを用いて収集することができる。					レジュメ 発表と議論	15% 15%
コミュニケーション力	発表のレジュメを指定された形で作成し、レジュメを用いてプレゼンテーションをすることができる。 特定のテーマに関して他の受講者と議論することができる。					レジュメ 発表と議論	20% 30%
協働・課題解決力							
多様性理解力	日本の子どもや家族、男女の関係性に関する考え方について、その基本的特徴を説明することができる。 日本と他国を比較し、その違いや共通点を背景となる文化や歴史等から自分なりに考察し、説明することができる。					レジュメ 発表と議論	10% 10%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価については、レジュメの様式・内容を 45%、発表と議論を 55%の比率で評価する。レジュメは、様式や文献引用ルールの順守等、基本的なアカデミック・スキルと、論理的な文章による考察や独自性などの観点から評価する。レジュメの作成方法については演習中に予め指示をし、演習内で随時、修正個所の指摘やアドバイス等、コメントする。発表と議論については、テーマに対して批判的・探究的な態度で臨んでいるか、発言し、議論に参加しているかなどを基準に評価する。演習の無断欠席（特に課題発表の担当となっている日の欠席）は大幅に減点する。							
授 業 の 概 要							
授業については概ね次の内容、手順によって進める。1. 受講者全員で「子育て・家族・ジェンダー」の中から国際比較をしてみたいテーマを決定する。2. テーマに関する基本的な事項を確認し、理解を深める。3. 国際機関等が作成したテーマに関するデータや資料を概観し、国による違いや共通点を大まかに理解する。4. 各自興味を持った国を選び、テーマを中心にその国について紹介する。なお、授業の進め方については受講者の人数等により若干変更する場合がある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：特に指定しない 指定図書：牧野カヅコ他『国際比較に見る世界の家族と子育て』（2010） 参考書：汐見稔幸編著『世界に学ぼう！子育て支援』（2003）内閣府『少子化社会対策白書（平成30年版）』（2018） ルドヴィク・ガンパロ他著『保育政策の国際比較』（2018）内閣府『男女共同参画白書（平成30年版）』（2018）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
※発表担当でない回も必ず資料を事前に講読し、キーワードの意味や関連資料及び新聞等を調べて演習に臨むこと。 ※本演習は下記いずれかに該当する学生の受講を希望する。コースについては問わない。							

・教職課程を履修しているもの ・子どもや教育の問題について関心のあるもの ※本演習受講者（特に教職課程を履修せずに本演習を希望する者）には「教育学」（前期開講）の受講を勧める。			
・将来指導者等として子どもに関わろうとするもの ・人々の生活・文化・社会の国際比較に興味があるもの			
回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介および演習の進め方を説明する。	予) シラバスの確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ホスピタリティ・ルーブリックを用いて前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予) 前学期の省察と本学期の目標設定 復) 本学期の目標の確認
3	論評会	夏季休暇中の課題であった課題図書の評読会を行い、各自が課題図書について作成したレジュメを用いて発表する。	予) 発表レジュメの作成 復) レジュメをもとに議論を振り返る
4	興味関心を高める①	各自興味を持った子育て・家族・ジェンダーに関する新聞記事を紹介する。	予) 新聞記事の収集と発表準備 復) 議論を振り返る
5	テーマを設定する	本演習で国際比較をしてみたいテーマを受講者全員で一つ決定する。	予) テーマを考えておく 復) 議論を振り返る
6	興味関心を高める②	決定したテーマに関わる新聞記事を各自収集し、受講者全員でテーマに関して興味関心を高める。	予) 新聞記事の収集と発表準備 復) 新聞記事の見直し
7	基礎知識の確認をする①	テーマに関する基本的な語句や事項を確認し、理解を深める。	予) テーマに関する基本事項の整理 復) テーマに関する基本的な語句や事項の復習
8	基礎知識の確認をする②	テーマに関する日本社会の現状や価値観の特徴について、整理する。	予) テーマに関する現状を整理する 復) テーマに関する現状の復習
9	興味関心を深める①	テーマに関する国際比較のデータや資料を概観する。	予) テーマに関するデータや資料の収集 復) データの見直し
10	興味関心を深める②	テーマに関する国際比較のデータや資料を概観する。	予) テーマに関するデータや資料の収集 復) データの見直し
11	報告手法・情報収集の方法を習得する	報告手法（担当者の割り振り、レジュメの作成方法・形式、プレゼンテーションの方法など）を説明する。情報収集（文献・インターネット等）の方法について説明し、情報収集を始める。	予) プレゼンテーションの手法について調べる 復) 報告手法の確認
12	報告・議論する①	担当者がレジュメを用いて担当国について報告し、全員で報告内容について議論する。	予) 資料の収集と報告準備 復) レジュメをもとに議論を振り返る
13	報告・議論する②	担当者がレジュメを用いて担当国について報告し、全員で報告内容について議論する。	予) 資料の収集と報告準備 復) レジュメをもとに議論を振り返る
14	報告・議論する③	担当者がレジュメを用いて担当国について報告し、全員で報告内容について議論する。	予) 資料の収集と報告準備 復) レジュメをもとに議論を振り返る
15	報告・議論する④	日本と世界のテーマに関する価値観の違いについて本演習で学んだことを整理し、各自発表する。春のオリエンテーション日程等を確認する。	予) 発表準備 復) レジュメをもとに議論を振り返る

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠB (CF202)			担当教員	尾場 均		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ ラーニング の 類 型
放送用プロ機材を使った映像作成とFM放送の実践をおこない、番組を制作、放送でメディアリテラシーを学ぶ。資格取得を目指す。(コンピュータ関連・色彩検定・ビジネス著作権・インターネット情報士など)国際観光学科で学んだ観光に関する知識を活かし実践的な情報発信の能力と情報における判断能力を身につける。佐世保市中心市街地および佐世保市のまちづくりに関する調査活動やIT関連の教育活動などを実践する。昨年度はFM放送の番組に加え、佐世保のB級グルメ「佐世保たこ焼き」の実践や地域活性化イベントを実施した。							⑥ ⑪
ホスピタリティ を構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・方法	評価比率
専門力	情報機器や情報技術の出来事に常に関心を持ち、正しく理解することができる。					課題レポート (ポートフォリオ)	10%
情報収集、 分析力	発信する情報内容に責任を持ち、情報の真偽を判断することができる。					課題レポート (ポートフォリオ)	30%
コミュニケーション力	情報に関するツールを使いこなし、プレゼンテーション力を身につけることができる。					課題提示に対する 放送によるプレゼンテーション	40%
協働・課題解決 力	地域活性化とイベントに関心を持ち、専門演習での活動に積極的・意欲的に参加することができる					授業態度・活動 への参加度	10%
多様性理解力	社会人として必要な幅広い教養的知識を身につける。					文献を要約	10%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
活動への積極的な参加度。情報コンテンツの理解と開発内容。検定試験への取り組み度 ポートフォリオ・Webによる情報交換の活用度、グループディスカッションでの内容 映像作成・ラジオ番組に必要な取材および原稿内容と発表内容 地域における調査やイベントの企画・実施等のフィードバックは、ポートフォリオを通して行う							
授 業 の 概 要							
インターネット等の新しい技術を使って観光情報について実践で学ぶため、必ず個人の情報機器を使用する。 企画やディスカッション、プログラム開発は演習室にて自分の情報機器でおこなう。 まちづくりや放送に関する演習は中心市街地に設けられた放送スタジオ、および現地にて実施する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：なし 参考書：なし 指定図書：伝える力2 (PHP ビジネス新書)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
授業外で多くの活動を実施するが、欠席なく積極的に参加することを期待する。 情報機器や放送機器の活用により、情報コンテンツの企画力・実践力を身につけ、まちづくりや地域振興に関係する人々と出会い、一緒に参加し専門知識や社会人基礎力を身につけることを期待する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	専門演習の導入	演習の説明および授業における到達目標の決定 検定試験への準備（内容把握）	事前に研究室ホームページを参照し活動内容を理解
2	番組視察	放送現場の視察およびまちづくりに関する活動	活動拠点・スタジオの場所を把握する。
3	ポートフォリオ・Web 登録と演習	ポートフォリオ・Web の登録と演習 個人目標設定のための面談を実施する	SNS の登録とメールアドレスを準備
4	インターネット基礎	インターネットの仕組み 検索術・画像・データ管理	通信機器を準備
5	テーマを決める	地域活性化のテーマをグループで決定して目標を明確にする。	地域活性化事業の事例を集めること
6	検定試験への取り組み	多種多彩な検定試験へ向けての演習（実践系の資格）	規定様式の書式や設定を事前に確認
7	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	番組テーマの決定
8	情報発信	番組出演、まちづくりに関する活動	作成原稿の確認と読み合わせ
9	イベント計画	テーマに関するスケジュールの制作	開催日から逆算してスケジュールを決定する
10	イベント準備	イベント実行のための調査	開催場所の調査・確認
11	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	番組テーマの決定
12	情報発信	番組出演、まちづくりに関する活動	作成原稿の確認と読み合わせ
13	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	番組テーマの決定
14	情報発信	番組出演、まちづくりに関する活動	作成原稿の確認と読み合わせ
15	成果発表	情報発信メディア（TV, ラジオ、インターネット）を通じて成果を発表する。	発表準備・担当を明確にする。

授業科目(ナンバリング)		専門演習 I B (CF202)		担当教員		小島 大輔	
展開方法		演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択
授 業 の ね ら い							アクティブラーニングの類型
本演習では、観光という視点から学んだ経済、国際情勢、歴史、地理、まちづくりなどに対する深い理解を教育の現場で活かすために、以下の能力を涵養することをねらいとしている。 ・社会科・地理歴史科教育に関する基礎知識を収集・分析することで、中学校・高等学校教諭になるために必要な自己の成長などに役立てることができる。 ・グローバル社会における教育者という視点で、意見を傾聴するとともに、自分の考えを明確にした上で、意見を交換し、相互理解を図ることができる。 ・社会科・地理歴史科の教職を目指すものとして必要な資質の向上に意欲的に取り組む姿勢を身につけている。							⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	単元計画を構造的に示すことができる。 適切な単元観・教材観、生徒観、指導観を記述することができる。 単元の目標に対応した個々の授業設計ができる。					課題レポート	40%
コミュニケーション力	教材や発問など主体的な学習を促す工夫ができる。 意見交換を通じて、実践した模擬授業の問題点を指摘することができる。					受講者の発表 授業への参加度	30% 30%
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
・課題レポートについては、単元の構造図は取り上げた要素とその関係の適切さから評価する。学習指導案は、単元観・教材観、生徒観、指導観の関連の適切さ、および単元目標と授業設計との関係の適切さなどから評価する。構造図および学習指導案は、担当教員からコメントと修正が促され、修正したものを評価する（ポートフォリオで提出）。 ・受講者の発表は、模擬授業の主体的な学習の促しの効果などから評価する。模擬授業に対しては、終了直後に受講者でディスカッションされ、また担当教員からコメントが与えられる。 ・授業への参加度は、模擬授業後の意見交換における討論への参加度合を評価する。							
授 業 の 概 要							
まず、授業づくりに臨むにあたり、学習指導要領の読み方、単元計画の作成、単元観・教材観、生徒観、指導観、発問・学習活動・授業設計、学習指導案の作成方法について学ぶ。続いて、社会科3分野および地理歴史科5科目の授業づくりおよび模擬授業を実践し、その方法についてディスカッションする。最後に、授業を効果的に行うために必要な身に付けるべき資質・技術について考え、教育実習までに修得すべき資質・技術を確認する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：『中学校学習指導要領解説 社会科』、『高等学校学習指導要領解説 地理歴史』 参考書：社会認識教育学会編『中学校社会科教育』学術図書出版社 社会認識教育学会編『地理歴史科教育』学術図書出版社 指定図書：『中学校学習指導要領解説 社会科』、『高等学校学習指導要領解説 地理歴史』							

授業外における学修及び学生に期待すること

※本演習は、教職課程（社会または地理歴史）を履修し、教育者になるという強い意志をもち、真摯に社会科教育を追求しようとする学生を歓迎する。

※本演習選択者は、いずれのコースも履修してよい。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習・復 習
1	イントロダクション	専門演習のすすめ方を理解し、目標を共有する。	予習：シラバスの通読 復習：前学期の省察の確認
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	単元計画の作成	指導計画の作成方法および作成時の注意点を学ぶ。	予習：配布資料の通読 復習：授業時配布資料の再読 【課題レポート】単元の構造図
4	単元観・教材観、生徒観、指導観	個々の授業設計に必要とされる単元観・教材観、生徒観、指導観について学ぶ。	予習：配布資料の通読 復習：授業時配布資料の再読
5	発問・学習活動・授業設計	個々の授業の展開方法について学ぶ。	予習：配布資料の通読 復習：授業時配布資料の再読
6	学習指導案の作成	学習指導案の作成方法および作成時の注意点を学ぶ。	予習：配布資料の通読 復習：授業時配布資料の再読
7	模擬授業1 —社会科地理的分野—	模擬授業の実践、問題点の指摘を通して、社会科地理的分野の授業づくりの工夫についてディスカッションする。	予習：模擬授業準備 【課題レポート】学習指導案の作成 復習：学習指導案の修正
8	模擬授業2 —社会科歴史的分野—	模擬授業の実践、問題点の指摘を通して、社会科歴史的分野の授業づくりの工夫についてディスカッションする。	予習：模擬授業準備 【課題レポート】学習指導案の作成 復習：学習指導案の修正
9	模擬授業3 —社会科公民的分野—	模擬授業の実践、問題点の指摘を通して、社会科公民的分野の授業づくりの工夫についてディスカッションする。	予習：模擬授業準備 【課題レポート】学習指導案の作成 復習：学習指導案の修正
10	模擬授業4 —地理歴史科地理総合—	模擬授業の実践、問題点の指摘を通して、地理歴史科地理総合の授業づくりの工夫について考える。	予習：模擬授業準備 【課題レポート】学習指導案の作成 復習：学習指導案の修正
11	模擬授業5 —地理歴史科地理探究—	模擬授業の実践、問題点の指摘を通して、地理歴史科地理探究の授業づくりの工夫についてディスカッションする。	予習：模擬授業準備 【課題レポート】学習指導案の作成 復習：学習指導案の修正
12	模擬授業6 —地理歴史科歴史総合—	模擬授業の実践、問題点の指摘を通して、地理歴史科歴史総合の授業づくりの工夫についてディスカッションする。	予習：模擬授業準備 【課題レポート】学習指導案の作成 復習：学習指導案の修正
13	模擬授業7 —地理歴史科世界史探究—	模擬授業の実践、問題点の指摘を通して、地理歴史科世界史探究の授業づくりの工夫についてディスカッションする。	予習：模擬授業準備 【課題レポート】学習指導案の作成 復習：学習指導案の修正
14	模擬授業8 —地理歴史科日本史探究—	模擬授業の実践、問題点の指摘を通して、地理歴史科日本史探究の授業づくりの工夫についてディスカッションする。	予習：模擬授業準備 【課題レポート】学習指導案の作成 復習：学習指導案の修正
15		授業を効果的に行うために必要な身に付けるべき資質・技術について確認する。	復習：成果の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠB(CF202)			担当教員	城前奈美		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
テーマ：グループワークを通じて、「観光の経済社会への影響」について事例研究をしよう。 1つの研究テーマをグループで見出し、共同でその研究テーマに関して先行研究を調べ、研究調査を実践し、報告書を作成し、報告する。この一連の研究過程を通して、研究とはどのようなものを学び、共同作業による連帯意識を構築することができる。							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	(1)観光経済学や観光社会学の諸理論について理解できる。 (2)研究テーマに関する研究手法や研究の意義を理解できる。				・グループによる課題提出 ・グループによるプレゼンテーション		20%
情報収集、分析力	(1)先行研究がどのように活かせるかを述べることができる。 (2)研究調査の構成を組み立てることができ、調査結果を的確に分析することができる。				グループディスカッション		30%
コミュニケーション力	調査結果を的確に伝えることができる。				グループによるプレゼンテーション		40%
協働・課題解決力	(1)計画的に準備し実行することができる。 (2)研究調査に積極的に参加し、貢献できる。				・課題提出 ・グループワークの取り組み		10%
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
課題提出はワード文書とし、グループによる発表は、パワーポイント資料を用いて行う。また、その提出方法は、ポートフォリオを使用するため、ネットワーク環境があることを前提とする。 課題提出においては、提出期日を守っているか、体裁が整っているか、論理構造が整っているか等を評価する。発表においては、聞き手に分かりやすく発表しているか、資料の提示が適切か、質問に的確に答えられるか等を評価する。ディスカッションにおいては、積極的に議論に参加しているか、議論を建設的に組み立てているか等を評価する。							
授業の概要							
グループで研究テーマを決め、その研究テーマに関する先行研究をまとめ、独自の調査内容を決めて、調査を実行する。調査結果を集計し、分析し、報告書をまとめ、発表報告し、一連の研究について討論する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：ジェームズ・マック（2005）『観光経済学入門』日本評論社 指定図書：ジェームズ・マック（2005）『観光経済学入門』日本評論社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
欠席や遅刻をする場合は、必ず事前に連絡をすること。また、自主的に積極的に協力して学んでいくこと。							
※本演習を選択するものは、次のコースもしくは専修課程を履修することが望ましい。 観光マネジメント、グローバルツーリズム、スポーツツーリズム、旅行業務取扱管理者養成課程							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 省察、個人目標の設定	ゼミ概要やスケジュールについて、オリエンテーションする。前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	ループリック入力
2	省察、個人目標の設定	前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	ループリック入力
3	共同研究(1)研究テーマの設定	共同研究する研究の目的を明らかにし、研究テーマを設定する。	研究テーマに関する先行研究を収集する。
4	共同研究(2)先行研究調査	研究テーマに関する先行研究を収集し解題し報告する。	先行研究を解題しまとめる。
5	共同研究(3)調査内容の決定	研究テーマに基づき、調査内容を決定する。	有効な調査方法、役割分担を検討する。
6	共同研究(4)調査方法の検討	調査方法を学び、有効な調査方法を確定する。	調査計画を検討する。
7	共同研究(5)調査	フィールドワークを実施する。	調査計画を定める。
8	共同研究(7)調査データの確認作業	調査データをチェックする方法を学び、チェックする。	入力作業をする。
9	共同研究(8) 調査結果の集計	調査結果を集計し、まとめる。	入力作業をする。
10	共同研究(9)分析	集計した結果から各種効果を算出する。	調査結果をまとめる。
11	共同研究(10)分析結果の検討	各種効果について討論する。	分析結果をまとめる。
12	共同研究(11)報告書の作成	報告書の構成および作成分担を決定する。報告書作成上のグラフ、脚注、参考文献の記述方法を学ぶ。	報告書の構成を考える。
13	共同研究(12)報告書の作成	発表用のパワーポイント資料を作成する。	資料を作成する。
14	共同研究(13)研究発表	一連の研究をプレゼンテーションし、ディスカッションする。	発表に向けた原稿を作成する。質疑応答対策をする。
15	共同研究(14)研究の振り返り	一連の研究を振り返り、研究の成果と研究の課題を振り返る。	研究を振り返る。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠB (CF202)			担当教員	谷口 佳菜子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブラーニングの類型
本演習では、議論やグループワークを通じて、地域ブランドなど観光分野でも応用されているブランドの構築（ブランディング）について理解し、実践する力を養う。また、課題を実践する過程でコミュニケーション能力を身につける。							⑦
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標				評価手段・方法		評価比率
専門力							
情報収集、分析力	新聞記事や企業のホームページなどからブランディングに関する必要な情報を収集し、事例をわかりやすくまとめることができる。				レポート① レポート②		15% 15%
コミュニケーション力	議論や課題の実践が円滑に進むよう積極的に発言することができる。 事例研究や課題の実践からブランディングに重要な要素を見つけ出し、優れたブランディングについて自らの考えを述べることができる。				授業態度・貢献度 発表		40% 30%
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
・受講者の発表および課題レポートの様式については、授業内で指示する。 ・2回のレポートの提出を求める。(ポートフォリオにて提出) ・授業態度・参加については、議論やグループワークへの参加度合を評価する。 ・フィードバックは、授業内にて行う。							
授 業 の 概 要							
テーマ：ブランディングについて学び、実践する 本演習では、専門領域の基礎的知識の学習と課題の実践を行う。身近なモノやサービスのブランドの事例を示し、ブランディングについて学ぶ。ブランディングを理解するために、各自、関心がある分野のブランドについて調査を行い、調査結果をレポート（レポート①）にまとめ報告する。報告された内容について議論を行い、優れたブランドとは何か考察する。 また、グループで指定する課題（ブランディングの実践）を実践する。どのように実践したかその内容を発表する。最後に、本演習のまとめとして議論を行い、各自レポートを作成し提出する（レポート②）。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：特に定めない。 参考書：石井淳蔵ほか（2013）：『ゼミナールマーケティング入門（第2版）』日本経済新聞社、コトラー，P・アームストロング，G・恩蔵直人（2015）：『コトラー，アームストロング，恩蔵のマーケティング原理』丸善出版株式会社。 その他、必要に応じて授業中に紹介する。 指定図書：コトラー，P・アームストロング，G・恩蔵直人（2015）：『コトラー，アームストロング，恩蔵のマーケティング原理』丸善出版株式会社。							

授業外における学修及び学生に期待すること			
・議論や課題の実践には主体的かつ積極的に取り組んでほしい。 ・本演習を選択する者はどのコースに所属してもよい。 ※「長期インターンシップ」または「インターンシップ A/B」の履修を推奨する。			
回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	導入	ゼミの進め方やテーマについてオリエンテーションを行う。	予習：配布資料の精読
2	省察	前学期の省察を行い、目標の達成度の確認、本学以降の目標設定を行う。	予習：本学期の目標設定を行う
3	事例研究（1）	ブランディングの事例を紹介する。	予習：専門用語の理解 復習：配布資料の精読
4	事例研究（2）	関心のある分野のブランドについて資料を収集し、内容をまとめる。	予習：専門用語の理解 復習：配布資料の精読
5	事例研究（3）	関心のある分野のブランドについて資料を収集し、内容をまとめる。	予習：専門用語の理解 復習：配布資料の精読
6	事例研究（4）	調査したブランドの事例について発表する。 優れたブランドとは何か議論を行う。	復習：配布資料の精読
7	課題の実践（1）	課題（ブランディングの実践）について説明を行う。 議論を行い、計画を立案する。	予習：資料収集 復習：レポート①の作成
8	課題の実践（2）	議論を行い、計画を立案する。	予習：資料収集 復習：レポート①の作成
9	課題の実践（3）	計画を実践する。	予習：発表の準備 復習：議論内容をまとめる
10	課題の実践（4）	計画を実践する。	復習：計画書の作成
11	課題の実践（5）	実践した内容について発表する。	予習：発表準備 復習：課題実践の準備
12	まとめ	事例研究と課題の実践を通じて学んだことについて議論を行い、レポートを作成する。	復習：指定課題の実践についてまとめる
13	事例研究（1）	ブランディングの事例を紹介する。	復習：ブランディングの事例についてまとめる
14	事例研究（2）	関心のある分野のブランドについて資料を収集し、内容をまとめる。	予習：資料収集 復習：レポート②の作成
15	事例研究（3）	関心のある分野のブランドについて資料を収集し、内容をまとめる。 再度、優れたブランドとは何か議論を行う。	復習：レポート②の作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (0F202)			担当教員	原 哲弘		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ ラーニング の 類 型
【観光まちづくり計画】佐世保市をフィールドの中心に据え、フィールドワークを行いディスカッションを繰り返します。【観光まちづくり】の専門的な知識を身につけ地域社会に対して実践的な演習を行います。長期的な視点で「観光を媒体」として考える時に経済的な効果だけでなく、社会的な効果として町並み景観の保全と生活の質の向上にも効果があります。さらに少子高齢化における高齢者や幼児の理解も必要となります。そのような現実 に即した中で「経済的效果と社会的効果」を考える能力や思考・判断する力を身に付け、さらに市民とのコミュニケーション能力も身に付けることを目標にします。この学習が「基礎学習」となり、さまざまな分野において【地域コーディネーター】として社会貢献できる人材になることを期待します。							④⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・方法	評価比率
専門力	学内教育を中心として基礎的な手法を学び、あらゆる部分で専門的な経験が身に付きます。					・発表会	20%
情報収集、分析力	ワード、エクセル、パワーポイントなど基本的な情報処理ができる技術が身に付きます					・課題レポート	20%
コミュニケーション力	演習の随所に市民との交流機会を設け、学内、学外を問わず発表の機会を経験することで自己表現力が身につきます。					・発表の表現力	10%
協働・課題解決力	市町村の現場に赴き、自らの五感で感じることで、具体的な理解と創造力が身に付きます。言い換えると深く考えることで自らの個性を磨くことができます。					・課題レポート	20%
多様性理解力	学校で学んだ観光に関する基本的な知識をもとに、地域学として、佐世保市、西海市、平戸市の歴史（市史）を学び、土地特有の特性を理解できます。					・試験	30%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価の基準となるのは、グループ内でのコミュニケーション能力と役割分担に対する達成率を重視します。課題レポート（40％）は、ポートフォリオを利用して双方向型としフィールドワーク毎に随時行います。そして前期で実施した結果をまとめ全員の発表会（20％）を開催します。試験（30％）は12回目の授業で実施します。授業の出席率、授業態度、および学習実績（現地作業・レポート評価など）を参考としながら評価します。							
授 業 の 概 要							
市民を交えながら現状の「まち」をいかに再生するか現地調査し、市民との対話や仮店舗（情報＋物産・飲食）の基本構想をつくり、具体的な【観光まちづくり】を体験します。さらに佐世保市と連携する周辺市町村を考え、隣接する西海市で「空き家」を調査し観光活用方法を検討します。また西海市では放置農園を着地型観光で考えたらどうなるか、などを検討し【観光ネットワーク】の取り組みを実習します。フィールドワークの場所は、川棚町、佐世保港、ハウステンボス、大宮町地区周辺の商店街、さいかい元気村などです。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：なし、参考書：佐世保市、平戸市、西海市、川棚町に関する資料は随時、プリント配布します。また書籍「犬と鬼」（著者アレックス・カー）は、必ず読んでください。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
準備学習として佐世保市、平戸市、西海市、川棚町を理解し把握すること、特に現地市町村の図書館に赴き、市史、観光動向、観光資源などを調べることが基本となります。また自宅でプロット図及び企画書などの表現力（文章表現、スケッチ、彩色、イラストレーター、フォトショップなど）を練習すること、更に理論による知識を身につけながら、それに基づく具体的な実践を交え現場で体感することが重要です。なお「社会人基礎力」を身に付けるために、地域連携活動Ⅰ、Ⅱ、及び長期インターンシップに参加することを推奨します。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習・復 習
1	全体の流れ	すべての内容とスケジュールの説明、それに将来に向けて期待すること、達成目標を説明します。	シラバスを十分読み込み、疑問があれば事前にまとめる。
2	現状把握①B と面談	計画地に関する自然環境の把握（佐世保市、平戸市、西海市など）をする。個人目標設定のための面談を実施します。	図書館など資料収集の方法を事前に経験する①
3	現状把握②B	計画地に関する人文・社会環境の把握をする。	図書館など資料収集の方法を事前に経験する②
4	現地調査①B	現地に行き、自分の目で“まち”の雰囲気を把握する。	地図を用意し、現地で書き込みできるように準備する。
5	現地調査②B	現地に行き、あらかじめ決められたテーマ（地域の課題）によって各自が体感する。	事前にテーマを考え、現地で感じたことを復習する。
6	アンケート資料検討	市民に対してアンケート内容を検討し、実施する。（アンケート資料の作成）	疑問点を列記して、アンケート作成に備える。
7	アンケート配布	市民へのインタビューとアンケート配布	コミュニケーションの方法などを事前に練習する。
8	分析・評価①B	現地調査をもとに現状の分析と評価をする。	分析作業で役割分担を協議する①
9	分析・評価②B	回収したアンケートをもとに、問題点や地域資源を分析・評価をする。	分析作業で役割分担を協議する②
10	コンセプトづくり①B	全体の調査資料をもとに、プレストによるコンセプトづくりをする。	チームごとにコンセプト内容を検討する。
11	コンセプトづくり②B	全体の調査資料をもとに、KJ 法、SWOT 分析によるコンセプトづくりを試みる。	KJ 法、SWOT 分析を事前に調べる。
12	コンセプトまとめ	これまでのコンセプトワークからキーワードを抽出して、コンセプトをまとめる。 試験①	チームごとのリーダーを事前協議の上、決定する。
13	市民との協議①B	コンセプトをもとに、市民と意見交換会を行う。	リーダーの下で、パワーポイントによる発表の準備をする。
14	コンセプトの修正	市民との対話の中から、具体的なコンセプトへと修正を加える。	意見交換から得られた情報をまとめる。
15	地図へのプロット①B	まち全体のプロット図・白地図作成による現状図と課題図をつくり、それに対する解決策を議論してまとめる。	チームの意見と市民の意見を織り交ぜる。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠB (CF202)			担当教員	三浦 知子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ・ラーニングの 類 型
本演習では、旅行業法・約款の復習とともに、地域の資源を活かした着地型観光や訪日観光といった、近年関心の高まっている新しい観光について考える。合わせて国際観光、日本の観光政策についても学び、特定の地域を域外に紹介する媒体を作成する。そのためのフィールドワークを行い、前後でそのための準備や共同研究（作業）をおこなう。							①⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標				評価手段・方法		評価比率
専門力	・旅行パンフレットから海外事情を学ぶことができる。 ・データを分析し、文章を自分の言葉でまとめる力をつけ、自分の意見を論理的に発表できるようになる。				・受講者の発表		10% 10%
情報収集、分析力	・フィールドワークの準備や調査で積極的な参加ができる。 ・ワードやパワーポイントを用いてツールを作成することができる。				・グループ課題 ・受講者の発表		10% 10%
コミュニケーション力	・グローバルな視点から、国や地域の問題点や課題について議論することができる。 ・グループでの共同研究を通じて、地域の魅力を発信する媒体を作成することができる。				・グループ課題		10% 20%
協働・課題解決力	・フィールドワークを行い、グループワークで資料をまとめ、課題を提示することができる。				・グループ課題		10%
多様性理解力	・旅行業務の内容、国際観光の現状と日本の観光政策の概略を理解できる。 ・観光資源の発見、資源の応用のプロセスを理解できる。				・ゼミでのディスカッション ・確認テスト		10% 10%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
旅行業法や観光政策については復習テストを行い、理解度を確認する。フィールドワークに向けて、地域についての基礎的な資料の収集、計画を立てた上でフィールドワークを実施し、その地域を域外に紹介する媒体を作成する。その成果物と最終発表での内容、授業態度・授業への参加度合から総合的に評価する。							
授 業 の 概 要							
本演習では、まず旅行業法・約款、日本の観光政策を学んだ上で、着地型観光を軸とした地域の観光、インバウンドツーリズムについて研究します。フィールドワークを行う地域を選定し、地域の魅力を観光資源としてとらえ、最終的にはそれらの資源を（着地型）旅行商品としてまとめ、域外に紹介するツールとして完成させ、内容を発表します。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：特に指定しない 参考書：適宜、関連資料を配布します。 指定図書：『旅行のススメ』、白幡洋三郎著、中央公論社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
地域を売り出す「着地型旅行商品」は、旅行業法などの法律の理解、地域にある観光資源の発見と磨き上げ、商品としての組み立て、総合的なマーケティング、地域内での組織や運営体制、販売先へのセールスなど、クリアすべきハードルがたくさんあります。本演習ではたくさんの分野を学ぶ必要がありますので、どんなことにでもチャレンジできる学生を歓迎します。ディスカッションやプレゼンの機会も多く積極的な参加が必要です。なお、本演習を選択する者は、どのコースを履修してもかまいません。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	ゼミの運営方法について確認する。毎回の学習範囲と事前に準備する資料について確認する。総合旅行業務取扱管理者試験に向けて学習する。	予習：日本の観光政策を調べる 復習：各自の課題設定
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、これまでの履修科目の成績等から前年度の省察を行い、前期の目標設定について確定する。	予習：既習の関連科目の省察と目標設定の作成 復習：前期目標と計画作成
3	旅行業と観光協会の業務と地域における観光振興の課題	旅行業が従来行ってきた旅行商品と旅行業法の関連と、旅行業を取得した観光協会の業務について、比較しながら理解を深める。地域における観光振興と着地型観光について資料を作成し、相互に討論する。	予習：着地型観光について 復習：旅行業法と着地型観光について
4	国際観光と日本の観光政策	観光立国推進計画の推移や、訪日観光客 4,000 万人、観光消費額 8 兆円の規模について理解を深め、今後の動きについて討論する。	予習：日本の観光政策 復習：国際観光と日本の観光政策
5	観光協会の業務とDMOについて	旅行業を取得した観光協会が、DMOへの変革について学び、内容について資料を作成し、相互に発表、討論し、組織の構成や財源について理解を深める。	予習：観光協会の業務内容 復習：DMOについて
6	地域にある観光資源の発見と旅行プランへ①	地域にある観光資源について、その資源の発見と実際に旅行プランとして組み込む方法について、事例をもとに議論する。各自の旅行プランを作成する。	予習：旅行プランの作成 復習：地域の観光資源と地域性について
7	地域にある観光資源の発見と旅行プラン②	作成した各自の旅行プランについて、発表をし、互いに評価する。それぞれ受けた評価を元に、プランの見直しを行う。	予習：プレゼン資料の作成 復習：旅行プランの修正
8	地域が主体の観光ビジネス	地域が主体の観光ビジネスの利点と課題について、講義を中心に学んでいく。課題を克服するためにどのようなことが必要かについて検討する。	予習：配付資料の内容要約 復習：地域主体の観光ビジネスの利点と課題を整理
9	共同研究 (フィールドワーク①)	グループに分かれ、フィールドワーク先の事前資料を収集し、調査内容を検討する等の計画を立てる。共同研究に向けて「商品」の候補を検討する。	予習：当該地域の資料入手 復習：計画の再検討
10	共同研究 (フィールドワーク②)	フィールドワークを実施し、事前計画に基づき調査を実施する。聞き取りや撮影などによって収集したデータを記録する。	予習：調査計画の作成 復習：収集データの整理
11	共同研究 (フィールドワーク③)	フィールドワークの結果をもとに、共同研究の方向性について議論し、報告書作成の計画を立て、グループ内での役割分担を決める。	予習：収集データの検討 復習：報告書作成
12	共同研究（商品造成①）	完成した旅行プランをもとに、旅行パンフレットを作成する。旅行プランとツアーパンフレットの違いを考察し、足りない項目を加える。	予習：旅行プランの整備 復習：旅行パンフレット作成
13	共同研究（商品造成②）	航空会社の運行状況や、現地の宿泊施設について調べ、実際のツアーの類似商品をもとに、具体的な設定日や料金を決定する。	予習：他商品の検討 復習：旅行パンフレット作成
14	共同研究（商品造成③）	造成した商品を販売するためのツールを作成する。内容は旅行業法に沿ったものとし、既存の旅行パンフレットを参考に、内容の正確さに加えて魅力を的確にアピールするものを心がける。	予習：他商品の検討 復習：旅行パンフレット作成
15	商品発表と演習のふりかえり	完成した商品をグループ別に発表する。意見交換を行い、演習全体のふりかえりを行う。	フィールドワーク先の魅力について改めて考え、意見交換する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠB (CF202)			担当教員	宮良 俊行		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ ラーニング の 類 型
本ゼミでは、日本政府の施策である「生涯スポーツ社会の実現」へ向けた「総合型地域スポーツクラブ」の設立・育成の方法や基礎知識を学ぶことである。「総合型地域スポーツクラブ」の実態や存在意義をおさえ、プレゼンテーションすることができることが目標である。そして、学んだ知識を活かし実践の場として、「チャレンジスポーツ」などのスポーツイベントに積極的に参加し、主体的に取り組むことをねらいとしている。							④、⑤、⑥、 ⑦、⑩、⑪
ホスピタリティ を構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標				評価手段・ 方法		評価 比率
専門力	「総合型地域スポーツクラブ」に関することを説明することができる。また、スポーツイベントの企画、運営を補助することができる。				・受講者の発表 ・企画書、発表 資料の作成		15% 20%
情報収集、 分析力	地域におけるスポーツ環境の様々なデータを読み取り、分析することができる。				・資料の作成		15%
コミュニケーション力							%
協働・課題解決 力	「チャレンジスポーツ」や「スポーツフェスタ」のイベントで活動することができる。また、それらのイベントの課題・問題点を発見し指摘することができる。				・全体討議 ・課題レポート		20% 30%
多様性理解力							%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
課題レポートについては、理論的かつ実践的な内容をもつように書くことができたかを評価する。また、文字数不足および誤字・脱字は、減点の対象とする。授業態度・授業への参加については、発表の内容と討論への参加度合を評価する。ポートフォリオで課題レポートのフィードバックを行うので確認すること。							
授 業 の 概 要							
年間を通して、「総合型地域スポーツクラブ」に関する資料を購読し、基礎知識を習得し、問題意識を高めていく。また、グループワークを通して、全員で議論ができるようになることを目指す。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：『ジグソーパズルで考える 総合型地域スポーツクラブ』黒須 充 大修館書店 参考書：授業の中で指示する。 指定図書：『スポーツ解体新書』玉木正之 NHK 出版							
授業外における学修及び学生に期待すること							
各地域で活動している総合型地域スポーツクラブに出向いて行ったボランティア活動を積極的に実施し、社会貢献して欲しい。また、指定された教科書を事前に読んでおくこと。 ※本演習を選択するものは次のコースを履修することが望ましい スポーツツーリズム、地域マネジメント、グローバルツーリズム							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	総合型地域スポーツクラブの運営方法	スポーツクラブとホスピタリティ・マネジメントについて	先行文献を調べ、レジュメを作成する。
2	総合型地域スポーツクラブの運営方法	ニュースポーツの有効活用について	先行文献を調べ、レジュメを作成する。
3	総合型地域スポーツクラブの運営方法	障がい者スポーツと生涯スポーツについて	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
4	総合型地域スポーツクラブの運営方法	プロスポーツクラブにおける地域スポーツクラブについて	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
5	総合型地域スポーツクラブの必要性和社会的役割	学校週5日制と学校運動部活動について	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
6	総合型地域スポーツクラブの必要性和社会的役割	スポーツ活動とボランティアについて	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
7	総合型地域スポーツクラブの必要性和社会的役割	競技力向上におけるクラブの役割について	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
8	総合型地域スポーツクラブの必要性和社会的役割	スポーツ施設の現状とこれからの施設運営のあり方について	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
9	総合型地域スポーツクラブのまとめ	総合型地域スポーツクラブについてまとめる。	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
10	スポーツイベント（継続型）の企画運営について	スポーツイベント「チャレンジスポーツ」に関する企画、運営を学習する。	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
11	スポーツイベント（単発型）の企画運営について	スポーツイベント「スポーツフェスタ」に関する企画、運営を学習する。	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
12	「チャレンジスポーツ」の企画運営補助	「チャレンジスポーツ」の企画を補助し、実践する。	「チャレンジスポーツ」の企画を準備する。
13	「チャレンジスポーツ」の企画運営補助	「チャレンジスポーツ」の運営を補助し、実践する。	「チャレンジスポーツ」の運営をシュミレーションする。
14	「スポーツフェスタ」の企画運営補助	「スポーツフェスタ」の企画を補助し、実践する。	「スポーツフェスタ」の企画を準備する。
15	「スポーツフェスタ」の企画運営補助	「スポーツフェスタ」の運営を補助し、実践する。	「スポーツフェスタ」の運営をシュミレーションする。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠB (CF202)			担当教員	山内 美穂		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ・ラーニングの類型
この演習では、日本語文法について考えます。日本語母語話者が日常当たり前に使っている「ことば」の背後に「ルール」があります。この「当たり前」を深く考え、「ルール」を見出すことが文法を考えることです。演習を通じて、日本語を母語としない人に様々な日本語の文法における「なぜ？」を説明できる力を養います。							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	自分が担当した[問題]の答えについて分かりやすい資料を作る。コーパスデータを用い、その中の文法ルールを分析できる					発表資料 レポート	20% 20%
コミュニケーション力	自分が担当した[問題]の答えについて自分のことばで説明できる。他人の発表や授業で提示される[問題]に対して意見を述べられる。					発表 議論	30% 20%
協働・課題解決力	グループメンバーと協力して [問題] の答えを準備できる					発表準備	10%
多様性理解力							
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
自分の担当箇所の発表資料の作成で 20%、発表で 30%、レポートで 20%、授業の議論への参加で 20%、発表準備の状況で 10%を評価します。発表内容、レポートに関しては、授業中または個別にコメントの形でフィードバックします。							
授 業 の 概 要							
履修者は、教科書に沿って教員が投げかけたテーマについて考え、議論しながら、日本語の文法を学習します。また、各テーマの発表者は、授業の中で指定された教科書の[問題]や教員の出す問題に対して十分に考え答えを準備しておき、授業の中で発表します。発表者以外の人も、教科書の該当箇所を読みこみ、積極的に質問やコメントし、全体でディスカッションします。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分です。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：森山卓郎『ここからはじまる日本語文法』ひつじ書房, 2003 参考書：授業中に指示する。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習は、日本語母語話者が使用する「ことば」に関心がある学生や、日本語を母語としない人に日本語を教えたいと思っている学生の受講を希望します。留学生の受講に関しては、授業内容が理解でき、自分のことばで説明できるレベルが必要です。 授業外でも耳に入る「ことば」に敏感になって下さい。そして、日本語のルールの面白さを楽しんでほしいです。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	本演習のねらい、進め方、発表などについて説明する。 履修者は、前期のレポートで扱った文法項目について簡単に発表する。	予習：前期の課題のレジюме作成。
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	「ない本はない」は本があるのか、それともないのか？	修飾と否定について理解する。 発表者は[問題]に対する答えを発表する。	予習：テキスト pp100-106 を読んでおく。[問題]について考えておく
4	() に入るのは「は」？それとも「が」？ 「電車 () 走る時」	「主語」「主題」について理解する。 発表者は[問題]に対する答えを発表する。	予習：テキスト pp107-116 を読んでおく。[問題]について考えておく
5	「彼はコーヒーしか飲まない」と「彼はコーヒーだけ飲まない」。コーヒーを飲むのはどちら？	副助詞について理解する。 発表者は[問題]に対する答えを発表する。	予習：テキスト pp117-121 を読んでおく。[問題]について考えておく
6	「私は頭が痛い」はいいのに、「あなたは頭が痛い」はどうして不自然か？	モダリティ：断定、不確定について理解する。 発表者は[問題]に対する答えを発表する。	予習：テキスト pp124-131 を読んでおく。[問題]について考えておく
7	「彼はどこにいますかどうかわからない」は言えるか？	モダリティ：事態選択、疑問文について理解する。 発表者は[問題]に対する答えを発表する。	予習：テキスト pp132-138 を読んでおく。[問題]について考えておく
8	「ぼやぼやするな」は言えるのに「ぼやぼやしろ」はどうして言えないのか？	モダリティ：意志、命令について理解する。 発表者は[問題]に対する答えを発表する。	予習：テキスト pp139-144 を読んでおく。[問題]について考えておく
9	「コーヒーを飲みますか」と「コーヒーを飲むんですか」の状況の違いは？	モダリティ：「のだ」「わけだ」、終助詞について理解する。 発表者は[問題]に対する答えを発表する。	予習：テキスト pp145-153 を読んでおく。[問題]について考えておく
10	「太郎が成功するため私は援助した」は不自然か？	複文構造について理解する。 発表者は[問題]に対する答えを発表する。	予習：テキスト pp156-163 を読んでおく。[問題]について考えておく
11	「太郎が来ることを見た」と「太郎が来るのを見た」	名詞修飾節について理解する。 発表者は[問題]に対する答えを発表する。	予習：テキスト pp164-166 を読んでおく。[問題]について考えておく
12	「太郎はアメリカに行く時、コートを買った」←太郎がコートを買ったのは？	名詞修飾とル／タ、時間節について理解する。 発表者は[問題]に対する答えを発表する。	予習：テキスト pp167-172 を読んでおく。[問題]について考えておく
13	「雨が降るとこの傘をさしてください」は言えるか？	条件文について理解する。 発表者は[問題]に対する答えを発表する。	予習：テキスト pp173-177 を読んでおく。[問題]について考えておく
14	「彼はひらがなが読めないし、カタカナがよめる」はどうして不自然か？	順接、逆接、並列について理解する。 発表者は[問題]に対する答えを発表する。	予習：テキスト pp178-182 を読んでおく。[問題]について考えておく
15	まとめ、自然会話コーパスを用いた分析	本学期に学んだ文法項目についてふり返るとともに、会話コーパスデータを用いて、文法項目を説明・記述する方法を解説する。	興味を持った文法項目をコーパスからの実例文を用いて説明するレポート作成

授業科目(ナンバリング)		専門演習 I B (CF202)		担当教員	内田智子			
展開方法		演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い								アクティブ ラーニング の 類 型
この演習では、普段は意識しない日本語の文法に光をあて、日本語教員として必要な知識を身につけるとともに日本語を分析する力を養います。様々な練習問題を解く中で、自ら文法規則を見つけ出し、説明できるようになることを目指します。グループワークや発表を通して、コミュニケーション力も身につけましょう。								①④⑤⑥
ホスピタリティ を構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・方法		評価比率
専門力	日本語の仕組みが理解できる。					毎時間の課題		20%
情報収集、 分析力	多くの例を収集し、そこから規則を発見できる。					発表資料		30%
コミュニケーシ ョン力	他人の発表に対して積極的に意見を述べ、議論し合える。					討論		40%
協働・課題解決 力	メンバーと協力して発表ができる。					発表		10%
多様性理解力								
出 席						受験要件		
合 計						100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明								
発表後の討論への参加度で 40%、自分の担当箇所の発表資料で 30%、毎時間の課題で 20%、発表で 10%を評価します。発表内容や課題に関しては、授業中に、討論または個別にコメントの形でフィードバックします。								
授 業 の 概 要								
教科書を素材として日本語の構造を把握したうえで、文法体系を研究し、グループで発表してもらいます。教員による解説ではなく、学生の発表を中心とした授業です。発表後には討論を行います。発表者以外の人は、授業前に該当箇所をよく読みこみ、積極的に質問やコメントをしてください。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。								
教 科 書 ・ 参 考 書								
教科書：名古屋大学日本語研究会 GA6『ふしぎ発見！日本語文法。』三弥井書店、2006 参考書：授業中に指示する 指定図書：金田一春彦『日本語 下』岩波文庫 1988								
授業外における学修及び学生に期待すること								
このゼミは、将来日本語教員になりたいと思っている学生、日本語の文法体系を本格的に勉強したいと思っている人を対象としたゼミです。留学生の受講に関しては、授業内容が理解でき、自分の担当箇所を発表できる日本語レベルが必要です。発表者は、教科書以外の本も参考にして、内容をしっかりと理解した上で発表してください。								

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習・復 習
1	導入	授業の進め方と発表の方法について説明する。 発表箇所の役割分担を行う。	自分の担当箇所のテキストを読み、内容を把握する (復習)
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	補語と名詞修飾	「内の関係」と「外の関係」について考察し、様々な文を分析する。	pp.73-79を読み、練習問題を解いておく(予習)
4	話し手の認識に関わる表現	「のだ文」とモダリティについて理解する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.81-87を読み、練習問題を解いておく(予習)
5	命令・禁止・疑問の表現	命令・禁止・疑問の表現について考察する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.89-97を読み、練習問題を解いておく(予習)
6	つなぐ言葉と条件表現	接続詞・接続助詞・条件表現について考察する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.99-107を読み、練習問題を解いておく(予習)
7	副詞・連用修飾	副詞と連用修飾について考察する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.109-116を読み、練習問題を解いておく(予習)
8	語用論	語用論の考え方を理解する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.117-124を読み、練習問題を解いておく(予習)
9	あいづち・いいよどみと談話の理論	談話の組み立てについて考察する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.125-132を読み、練習問題を解いておく(予習)
10	敬語とポライトネス	日本語の敬語のシステムについて理解する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.133-138を読み、練習問題を解いておく(予習)
11	視点と制限	とりたて詞・役割語等について考察する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.139-147を読み、練習問題を解いておく(予習)
12	コソアド	コソアドについて考察する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.149-154を読み、練習問題を解いておく(予習)
13	数量詞	数量詞について考察する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.155-162を読み、練習問題を解いておく(予習)
14	「は」と「が」	主語と主題について理解する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.163-169を読み、練習問題を解いておく(予習)
15	まとめ	授業全体のまとめ・討論	興味を持った問題について課題レポート作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IB (CF 202)			担当教員	川上 直彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ ラーニング の 類 型
人類の文明発祥の地で興った「古代オリエントと東地中海世界の文明（古代メソポタミア文明、古代エジプト文明、エーゲ文明、クレタ文明等）を考古学、そして古代史の演習（ディスカッション、グループワーク、発表）の観点から理解し、これらの文明が人類共有のかけがえのない文明であることが理解できる。また、なぜこれらの地が、人類共通の文明発祥の地であるのかを習得し、研究・観光資源である人類共通のかけがえのない文化遺産の宝庫であることが理解できる。観光として、古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡そして博物館・美術館を訪れた時、考古学および歴史学的視点から遺跡と展示遺物を理解するに必要な専門知識を修得することができる。							①⑤⑥
ホスピタリティ を構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・方法	評価比率
専門力	古代オリエントと東地中海世界の文明の遺跡・遺物、そして関連する博物館・美術館に関心を抱き、専門的課題に取り組むことにより、専門力を習得することができる。					レポート・発表	25%
情報収集、 分析力	事前学習と演習を通じて実践する、文献読解から情報収集を行い、レポートを作成することにより、読解力、分析力、そしてレポートを書く能力を習得することができる。					レポート・発表	25%
コミュニケーション力	レポート発表を課し、発表に対する質疑応答と討議を実践することにより、コミュニケーション能力を上達させることができる。					発表	20%
協働・課題解決力	古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡と世界中の博物館に収蔵されている展示遺物の考古学および歴史学的意味についての発表と、発表に対する質疑応答を通じて他学生と協議することにより協働・課題解決力を習得することができる。					授業参加度	30%
多様性理解力							%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
各自、3 本のレポート作成とそれらの発表を实践し、発表内容および発表のスキルを総合的に評価し、全体評価の70%とする。フィードバックは、個別に口頭で行う。							
授 業 の 概 要							
本演習では、人類共通の文明発祥の地に興った古代オリエントと東地中海世界の核をなすメソポタミア文明を中心に、古代エジプト文明、エーゲ文明、そしてクレタ文明等にもふれ、文献購読と配布資料を用いた演習を実施する。演習内容が十分に理解できるように、補足的に講義を实践し、また、DVD などの視聴覚教材も補助教材として用い演習を实践する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180 分です。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：適宜プリントを配布する。 参考書：適宜プリントを配布する。 指定図書：世界の歴史 1：人類の起源と古代オリエント（大貫良夫・前川和也・渡辺和子・屋形複貞、中央公論社）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
古代史・考古学全般に関心をもち、遺跡や博物館・美術館を観光する機会を持ってほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	はじめに 東地中海文明（１）	演習全体の導入と説明 エーゲ海文明 1	復習：今回の復習 予習：エーゲ海文明について調べる
2	東地中海文明（２）	エーゲ海文明 2	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
3	東地中海文明（３）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
4	東地中海文明（４）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：イシン・ラルサ王朝、バビロン第一王朝と古アッシリアについて調べる
5	最古の帝国の出現（１） 古代オリエント文明	交易と交戦	復習：今回の復習 予習：エラム王国カッシート王朝、中アッシリア、ミタンニについて調べ、理解する
6	最古の帝国の出現（２） 古代オリエント文明	都市国家の連合と対立	復習：今回の復習 予習：ヒッタイト、ラムセス 2 世、新王国時代について調べる
7	最古の帝国の出現（３） 古代オリエント文明	古代オリエント世界の国際化と多極化	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
8	最古の帝国の出現（４） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
9	最古の帝国の出現（５） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：今回の復習 予習：新アッシリア帝国と旧約聖書について調べる
10	最古の帝国の出現（５） 古代オリエント文明	アッシリアの台頭とそのライバル	復習：今回の復習 予習：ティグラト・ピレセル 3 世、サルゴン 2 世、エサルハドン、アッシュールバニパルについて調べる
11	最古の帝国の出現（６） 古代オリエント文明	新アッシリア帝国の再興	復習：今回の復習 予習：新バビロニア帝国、ペルシャ帝国、アレクサンドロス大王について調べる
12	最古の帝国の出現（７） 古代オリエント文明	最後の帝国について	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
13	最古の帝国の出現（８） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
14	最古の帝国の出現（９） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：これまでのレポートを読む
15	まとめ	総合復習	復習：今回の復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	柴田 あづさ		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ・ラーニングの類型
この演習では、日本語指導理論の基盤になる初級から中上級までの日本語の教え方や、評価法、様々な外国語教法について学びます。また、前期に引き続き、日本語学習者の会話の練習を支援することで、日本語教師に必要とされる「学習者の習熟度を把握する力」と「異文化への対応力」を養います。加えて、学期の後半には、キャンパス内での日本人学生と留学生との国際交流企画を実施し、異文化間交流の意義について考える機会を持ちます。							①②④ ⑤⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	教科書や図書館にある文献から得た情報をもとに、例をあげながら、自分の言葉で説明したり、意見を述べたり、できる。					レジュメ 課題の提出	10% 20%
コミュニケーション力	・発表のレジュメを指定された形で作成し、レジュメを用いてプレゼンテーションをすることができる。 ・他の学生と学び合いながらディスカッションができる。 ・グループワークにおける自身のパフォーマンスを省察し、自己成長に繋げることができる。					発表 ディスカッション リフレクションシート 自己相互評価	20% 10% 10% 10%
協働・課題解決力	メンバーと協力してよりよい企画を検討し、発表資料を作って準備をしたり、実施したりすることができる。					自己相互評価	10%
多様性理解力	日本語学習者の「会話パートナー」になり、日本語教師に必要とされる「学習者の習熟度を把握する力」と「異文化への対応力」を養う。					自己相互評価	10%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
課題の提出と発表を各 20%、レジュメ作成とディスカッションの司会、リフレクションシートの提出を 10%、自己相互評価 30%で評価します。尚、課題は、ポートフォリオで提示および回収し、個別にフィードバックを行います。							
授 業 の 概 要							
教科書やボランティア活動（会話パートナー、国際交流イベントの企画と実施）をとおして日本語教師に必要な指導理論の基礎知識と技術を身に付ける。授業は、教員による解説はなく、学生の発表や、グループワークを中心として進める。履修する学生には積極的に質問やコメントをして頂きたい。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書： 高見澤孟他『新はじめての日本語教育 2-日本語教授法入門-相補改訂版』ASK（2016）							
参考書：適宜紹介します。							
指定図書： Diane Larsen-Freeman & Marti Anderson, 2011. <i>Techniques & Principles in Language Teaching</i> , Oxford University.							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この演習は、日本語教員養成課程を履修し、ゼミで身につけた知識や技術を、将来、教師として教壇に立った際に役立たせることに関心を持つ学生に適した内容となっています。留学生が受講を希望する場合は、授業内容を理解してレジュメを作成し、発表やディスカッションをとりまとめることのできる日本語力が必要です。同時に、日本語学習者の会話の練習相手になり、誤りがあればリキャストなどで修正できるだけの日本語力（N2 取得以上）が求められます。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	授業の進め方と課題の提出の仕方 グループワークの方法とその意義	予習) シラバスに目を通しておく。
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する	予習) 前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習) 本学期の目標設定の清書
3	第4章 初級の教え方(2) 文字／読解	文字教育を始める前に かな文字の教え方 漢字の教え方 パソコンの利用法 日本語の表記、 誤用の指導	予習) p81-p96 をよく読んで、意見を考えておく 復習) 議論を振り返る
4	第5章 中上級の教え方(1) 会話・聴解①	中級レベルの教育 中上級レベルの会話指導の目標および内容 コミュニケーション能力を育てる指導 テレビドラマの指導、ニュース番組の指導 スピーチの指導	予習) p97-p114 をよく読んで、意見を考えておく 復習) 議論を振り返る
5	第6章 中上級の教え方(2) 読解／情報収集	読本を使った読解教育 新聞を使った読解教育	予習) p115-p124 をよく読んで、意見を考えておく 復習) 議論を振り返る
6	第8章 評価と試験	評価の対象、学習者に対する評価、試験形式の種類、試験の目的別の分類、試験問題の種類、試験の効果	予習) p137-p148 をよく読んで、意見を考えておく 復習) 議論を振り返る
7	第9章 いろいろな外国語教授法①	外国語教授法の変遷 直接法 オーディオリンガルメソッド 広義のコミュニカティブ・アプローチ	予習) p149-p158 をよく読んで、意見を考えておく 復習) 議論を振り返る
8	第9章 いろいろな外国語教授法②	TPR (Total Physical Response) サイレントウェイ CLL (Community Language Learning) ナチュラル・アプローチ サジェストベディア	予習) p159-p168 をよく読んで、意見を考えておく 復習) 議論を振り返る
9	第9章 いろいろな外国語教授法③	脱教授法時代 内容重視の教授法	予習) p169-p180 をよく読んで、意見を考えておく 復習) 議論を振り返る
10	第9章 いろいろな外国語教授法④	協働言語学習 タスク重視の言語教授法	予習) p180-p190 をよく読んで、意見を考えておく 復習) 議論を振り返る
11	日本人学生と留学生との交流企画の実施 1	企画案を発表し、司会として話し合いを進行する	予習) 企画案を考える 復習) 企画案を修正する
12	日本人学生と留学生との交流企画の実施 2	企画内容(目的、対象、場所など)と実施の手順をグループワークによって検討する	予習) 企画内容を考える 復習) 企画内容を修正する
13	日本人学生と留学生との交流企画の実施 3	案内のちらしやホームページを作る 広報を始める	予習) 案内の内容と方法を考える
14	日本人学生と留学生との交流企画の実施 4	企画を実施する	復習) リフレクションシートに記入する
15	日本人学生と留学生との交流企画の実施 5 後期の振り返り	実施した企画を振り返る 課題作成について情報を得る 授業全体を振り返る	予習) 課題のテーマと構成を考える

授業科目(ナンバリング)		専門演習 IB (CF202)		担当教員		神野 周太郎	
展開方法		演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択
授 業 の ね ら い							アクティブ・ラーニングの類型
専門演習 IA に引き続き、本演習では、「体育」「スポーツ」「身体」に関連する問いを各自で設定し、それについての答えをみつけるための能力を培うことを目的とする。それは個人的な問題を他者と共有し、多角的な視点から共通理解となる答え（ものごとの本質）をみつけるための「哲学的思考」を展開する能力を培うことでもある。本演習では、教員や学生が共に対話（議論）を展開することを重視する。							⑤ ⑥ ⑦
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	「体育」「スポーツ」「身体」に関するニュース、コラム、評論、書籍を集め、それらを通覧する中で個人的な問いを設定できる。					・資料収集 ・研究発表の展開内容	3 0 % 1 0 %
コミュニケーション力	「体育」「スポーツ」「身体」についての個人的な問題意識を他者と共有し、共通理解となる答えをみつけるための議論ができる。					・研究発表や実践後の議論内容	6 0 %
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
・プレゼンテーション（研究発表）では各自設定したテーマに関連する適切な先行研究や資料を選択し、それらを概観した上でレジュメを作成しているか、その内容が論理的に展開されているか（問題、テーマ、議論、答え）を評価する。 ・プレゼンテーション（実技指導）では、各自設定した種目、対象について適切な課題や教材を設定した上で指導案（指導計画）が作成されているかを評価する。 ・研究発表や実技指導の後の議論では、問いを共有しそれについての意見を建設的に述べられているか、評価すべき点や改善すべき点は何かにといった自身の意見を述べられているかを評価する。							
授 業 の 概 要							
・体育やスポーツの諸科学の中でも、人文科学的な研究方法に基づいて、問題を共有するためのレジュメ（発表資料）や現場で必要となる指導案を作成し、適宜運動実践も交えつつ、発表内容や実践の省察を議論形式で実施する。議論については、その方法自体を学んだ上で実際に意見を交わし合う。実践については、教員希望者の場合模擬授業を、スポーツ指導者の場合はスポーツ指導を展開し、それについて省察する。 ・この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：『中学校学習指導要領解説 保健体育』 『高等学校学習指導要領解説 保健体育』 参考書：『各県教員採用試験過去問題集 保健体育』 『教員採用試験参考書 保健体育』 『教員採用試験ステップアップ問題集』 指定図書：『月刊 体育科教育』 『現代スポーツ評論』 『はじめての哲学的思考』（苫野一徳：2017）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
「体育」「スポーツ」「身体」に関わるニュース、コラム、評論、雑誌、書籍に触れる機会を増やすこと。ネット記事であればブックマークをしたり、気になる紙媒体の資料があれコピーしてファイリングしたりして情報を蓄積すること。それが後に卒業論文の執筆、教員採用試験、現場実践につながります。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	テキストの選定と研究テーマの再構成	予習：前学期の省察と本学期的目標設定を下書き 復習：本学期的目標設定を清書
2	哲学的対話という方法Ⅱ	超ディベート（共通了解型志向型対話）の実践Ⅱ	・指定図書『はじめての哲学的思考』を通読
3	レジュメの作成Ⅱ	主張の抽出と思考の言語化Ⅱ	・各自関心のあるキーワードで体育・スポーツ学系の論文を検索し通読
4	指導案の作成Ⅱ	授業計画と種目の教材化Ⅱ	・学習指導要領を通読
5	テーマ研究①	担当者が設定したテーマに基づいて発表	・テーマに適切な先行資料をもとにレジュメを作成 ・担当者は発表準備
6	テーマ研究②	担当者が設定したテーマに基づいて発表	・テーマに適切な先行資料をもとにレジュメを作成 ・担当者は発表準備
7	実技指導研究①	種目を設定し担当者が模擬授業を展開	・設定された種目のルール、学習指導要領を確認 ・担当者は指導案作成
8	テーマ研究③	設定したテーマに基づいて担当者が発表	・テーマに適切な先行資料をもとにレジュメを作成 ・担当者は発表準備
9	テーマ研究④	設定したテーマに基づいて担当者が発表	・テーマに適切な先行資料をもとにレジュメを作成 ・担当者は発表準備
10	実技指導研究②	種目を設定し担当者が模擬授業を展開	・設定された種目のルール、学習指導要領を確認 ・担当者は指導案作成
11	授業内小テスト	教員採用試験過去問	・指定された範囲を予習
12	テーマ研究⑤	設定したテーマに基づいて担当者が発表	・テーマに適切な先行資料をもとにレジュメを作成 ・担当者は発表準備
13	テーマ研究⑥	設定したテーマに基づいて担当者が発表	・テーマに適切な先行資料をもとにレジュメを作成 ・担当者は発表準備
14	実技指導研究③	種目を設定し担当者が模擬授業を展開	・設定された種目のルール、学習指導要領を確認 ・担当者は指導案作成
15	まとめ	前期授業のまとめと夏季休暇の課題	・各自設定した研究テーマや作成した指導案の省察

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	Brendan Van Deusen		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ ラーニング の 類 型
This course builds on the skills gained in the previous semester. In addition to further improving students' ability to discuss and present ideas about current global affairs, this course aims to teach students how to communicate and collaborate with students in other countries using online exchange.							2, 4, 5
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力							%
情報収集、 分析力	Students will be able to read about and discuss global affairs in a group				Assignments Presentation		20% 10%
コミュニケーション力	Students will be able to present ideas about global affairs as a group in a way that engages their audience Students can communicate online with students from other countries.				In-class engagement Presentation Report		30% 20% 20%
協働・課題解決 力							%
多様性理解力							%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
In-class engagement (Group discussions, supporting other students with helpful ideas): 30% Assignments (weekly assignments, preparation work for projects): 40% Projects (final presentation, final report): 50%							
授 業 の 概 要							
In the first few classes, students discuss current events topics that are of interest to them. From this, they move on to building an academic presentation about one of these topics. Working in stages, students build their knowledge and ability to communicate their ideas and engage with others in a group setting. The project culminates in a final presentation with extended Q&A / class discussion. この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45 分です。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書: None 参考書: English newspapers in the library 指定図書: English dictionary							
授業外における学修及び学生に期待すること							
1. This course is conducted in English. 2. Students are responsible for the cost of project-related materials and off-campus field work. 3. Student expectations: Students will attend <u>all lessons</u> (unless sick or on a school trip). Students must contact the teacher <u>before</u> missing a class. If a student misses a class, he or she will catch-up on the lesson and homework. Students will complete projects and homework on time. Students will ask for help if necessary. This syllabus is subject to change.							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	Introduction	- Introduce the course and review the syllabus - Framework for selecting and discussing current events	Read syllabus in advance
2	Personal goal setting	Conference with seminar teacher to reflect on last semester's goals and set new ones	Prepare goals
3	Online exchange introduction	- Set up online exchange - Online etiquette and best practices	Decide current even topic
4	Online audio and video skills	- Creating and sharing videos for online exchange - Creating and sharing audio for online exchange	Begin online interaction
5	Group 1 presentation	Group 1 presents global affairs topic, followed by class discussion	Prepare for presentation and discussion
6	Online exchange status report	- Report status of online exchange activity - Fixing communication breakdowns	Summarize activity in notebook
7	Group 2 presentation	Group 2 presents global affairs topic, followed by class discussion	Prepare for presentation and discussion
8	Online exchange status report	- Report status of online exchange activity - Begin formulating final project topic	Summarize activity in notebook
9	Group 3 presentation	Group 3 presents global affairs topic, followed by class discussion	Prepare for presentation and discussion
10	Online exchange status report	- Report status of online exchange activity - Finalize final project topic	Summarize activity in notebook
11	Group 4 presentation	Group 4 presents global affairs topic, followed by class discussion	Prepare for presentation and discussion
12	Online exchange status report	- Report status of online exchange activity - Provide outline of final project plan	Summarize activity in notebook
13	Final presentation preparation	Workshop and status update of final presentation	Bring materials related to final presentation
14	Final Presentations	Students present and participate in Q&A	Prepare for presentation and Q&A
15	Final Presentations Wrap-up	- Students present and participate in Q&A - Final class discussion	Prepare for presentation and Q&A Submit final report

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠB (CF202)			担当教員	森尾真之		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
着地型観光の成り立ちを理解すると同時に、地域の観光素材に対する認識を深め、地域課題解決に資する企画造成を研究します。地域観光素材の活用事例の学習においては、利益、関係者メリット、継続性についての分析ができることを目標とします。そのうえで既存の地域観光素材の再定義を行い、対象とする具体的な市場ニーズに合わせた新たな価値創造のための商品事業化の手法を学びます。							②⑥ ⑦⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	・旅行業および観光業の成り立ちを理解する。 ・現在直面している地域課題と市場の動向について理解する。				企画書作成（ポートフォリオ）		20%
情報収集、分析力	域内の旅行業・観光業に関する最新の情報に触れ、同様の事例情報の収集や、関連する地域のテーマと比較して検討することができる。				・授業への積極的な姿勢		30%
コミュニケーション力	・論点が整理され、簡潔でわかりやすい表現ができる。 ・課題に積極的に取り組み、メンバーの考えを尊重しつつ、自分の考えも説明することができる。				・グループワーク ・プレゼンテーション		40%
協働・課題解決力	自分の役割を設定し、グループでの企画書作成作業に貢献する。				・グループワーク ・授業への積極的な姿勢		10%
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
企画書は様式や見やすさに加え、独自性と表現力、実行可能性の観点から評価します。また企画やプレゼンテーションの出来不出来だけではなく、普段からの議論への参加度も勘案します。講義への参加貢献度は、出席に加え討議をまとめるなどのリーダーシップやグループ内での率先垂範、メンバー支援などを総合的に判断します。							
授業の概要							
主にテーマ別観光の種類、地域課題の背景との関連性、具体的なニューツーリズムの事例研究を通じて、着地型商品企画造成のための基礎知識の習得を図り、グループワークによる商品事業案の策定を行います。また事業案の実施を通し、地域の課題解決につなげる視点を身に着けます。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とします。							
教科書・参考書							
教科書/参考書：特に指定しない。必要なレジュメなどは授業時に配布。 指定図書：「幸せの仕事術」小山薫堂（NHK 出版）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習では現実的に実施可能な企画の手法の研究と実践を目標と、多くの学外機関の方との連携や協力が不可欠です。社会に役に立つ企画を実現させるという高い目標意識をもち、学内外での多くの活動、自主的な調査など授業以外での活動へ積極的に参加する学生の受講を期待します。また、プレゼンや企画書面の作成など表現スキルの向上に取り組むことも期待します。							

回	テーマ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	オリエンテーション	演習概略およびゼミの運営方法を確認する。	(予習) 事前にシラバス及び演習概略に目を通してくる。
2	個人目標の設定	個別面談による I A の振り返りおよび I B 目標設定	(予習) 自身の興味・関心をまとめてくる
3	着地型企画についての基礎知識習得	テーマ別観光による地方誘客事業について	(予習) 観光庁の HP などを見て事業の実態を確認
4	着地型企画についての基礎知識習得	日本における地域課題の背景理解	(予習) 自分の町の課題についてまとめてくる。
5	着地型企画についての基礎知識習得	地域観光素材の活用についての具体的な事例研究①	(復習) 事例のポイントを確認する。同様の事例を調べる。
6	着地型企画についての基礎知識習得	地域観光素材の活用についての具体的な事例研究②	(復習) 事例のポイントを確認する。同様の事例を調べる。
7	着地型企画についての基礎知識習得	地域観光素材の活用についての具体的な事例研究③	(復習) 事例のポイントを確認する。同様の事例を調べる。
8	グループ編成と企画案テーマ検討	これまでの予備学習について各自レポート作成・発表。グループ編成とテーマ設定	(予習) 自分の関心テーマを考えてくる。
9	テーマ案発表と立案企画フレームの精査	各チームのテーマを発表・全員で討議 企画テーマの内容や方向性を確認	(復習) 企画イメージをまとめる。
10	グループワーク	関連データの収集、調査内容の整理・検討およびスケジュールリング確認。	(予習) 調査対象の絞り込み。
11	グループワーク	フィールドワーク（事業パートナーとの打ち合わせ、想定利用施設の視察など）	(予習) 調査ポイントの詳細な確認
12	グループワーク	グループごとの進捗・経過の発表	(予習) 発表内容の論点確認
13	グループワーク	企画案の内容確認・精査	(予習) 自分の調査分野での論点を確認。
14	グループワーク	プレゼンテーション準備	(予習) 発表準備
15	まとめ	グループごとに企画案プレゼンテーション。 意見交換と演習全体のふりかえり。	(予習) グループでの発表の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠB (CF202)			担当教員	中島 金太郎		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ・ラーニングの類型
テーマ：地域文化資源の研究と展示 専門演習ⅠA で実施した地域文化資源に関するフィールドワークを再検討し、その成果をまとめて発表することができる。特に博物館の4大機能の中でも「研究」「展示」機能について学び、収集・記録した資料を研究して展示する活動を行うことで、学芸員に必要な実践的能力を養うことができる。							⑤⑥⑪
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・方法	評価比率
専門力	博物館や地域文化資源に関心を持つことができ、主に資料の研究・展示の方法を身に着けることができる。					展示製作への参加態度	20%
情報収集、分析力	地域文化資源の特性を見出す洞察力や、問題点を把握する分析力及び思考力を取得することができる。					研究成果レポート	30%
コミュニケーション力	展示作業およびグループワークの実施により、集団内でのコミュニケーション能力や発言力、企画立案力を養うことができる。					グループワークへの取り組み	40%
協働・課題解決力							
多様性理解力	ゼミ生の研究発表を聞き、内容を理解することで多様性を理解すると共に、それを評価できる能力を養う。					研究発表	10%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
・演習は展示製作を中心とし、それに至るまでのグループワーク、施工作業への取り組み・態度を総合的に判断する。 ・一連の調査・展示・学習で得られた研究成果をレポートにまとめ、その提出を必須とする。							
授 業 の 概 要							
演習の方法は以下の手順で行う。 1. 博物館における研究および展示の目的・意義を確認 2. 展示のテーマ・目的・場所・日程・方法についてグループワーク 3. テーマに関する文献資料の収集と分析 4. 展示の実施（専門演習ⅠAで行ったフィールドワークの成果を基に、大学祭での実施を目標に展示製作を行う。） 5. 展示製作の中で興味を持った分野について研究を行い、研究レポートを執筆 6. 研究レポートを基に研究発表を行い、ゼミ内で相互評価を行う。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：使用しない 参考書：授業中に指示する 指定図書：デビッド・ディーン『美術館・博物館の展示 理論から実践まで』丸善出版							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この演習は、博物館学芸員としての基礎である展示能力および研究能力を習得するものであり、展示作業を通じて実務能力を習得するだけでなく、地域文化資源に興味を持つ好奇心や、自分自身で深めていく検討能力も養ってほしい。また、展示物の製作にはセンスが求められることもあるため、博物館に限らず様々な展示、ポスター、チラシなどを見てセンスを磨いてほしい。 ※本演習を選択する学生は、博物館学芸員課程の履修者であることが望ましい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	演習内容の確認	ガイダンス（演習内容の把握）を実施。	予習：シラバスを読む 復習：展示製作の方法を確認
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の学習成果を省察し、本学期的個人目標設定のための面談を実施。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標を設定し、用紙にまとめる
3	展示内容の選定	ゼミ内でグループワークを行い、展示のテーマ・内容・展示方法を選定する。 併せて、ポスター等広報についても検討する。	予習：展示テーマの考案 復習：広報物のデザイン等を考案
4	展示製作①	展示物（パネル、題箋類）を制作する。 あわせて、広報物も制作する。	予習：展示内容を確認 復習：展示内容を再検討
5	展示製作②	展示物（パネル、題箋類）を完成する。	予習：展示内容を再検討 復習：展示施工の方法について再確認
6	展示準備・施工	大学祭期間中に展示を公開するため、具体的な施工の準備を行う。 また、大学祭期間には、展示の運営を行う。	予習：展示準備 復習：展示作業の自己評価・自己分析
7	展示の反省	ゼミ内でグループワークを行い、展示の反省点・改善点を協議し、次年度以降の履修生に向けての提言をまとめる。	予習：展示内容の自己評価・自己分析 復習：自分自身の改善点を把握する
8	研究方法の解説	博物館および地域文化資源をテーマとした研究の方法について講義を行う。	予習：人文系分野の研究手法について調べる 復習：授業内容を見直し、自分に合った研究方法を考える
9	研究テーマの設定	フィールドワーク、展示作業などを通じて興味を持った分野を選択し、専門演習ⅠB内で研究を進めるテーマを決定する。	予習：フィールドワーク、展示作業の見直し 復習：研究テーマを決定
10	レポート作成の準備	研究テーマに基づいたレポートを作成するための説明と、文献調査を行う。	予習：専門演習ⅠAで配布された「レポート執筆要領」を再読 復習：作成方法の確認
11	レポート作成①	レポートを作成する。	予習：レポート作成準備 復習：レポート作成
12	レポート作成②	レポートを作成し、ポートフォリオを通じて提出する。 また、レポートを基に研究発表を行うので、発表準備を行う。	予習：レポート作成 復習：研究発表の練習、発表資料作成
13	研究発表①	一人15分程度の研究発表を行う。（質疑応答含む） 発表者以外は発表を評価し、発表者に質疑応答やコメントカードの形で伝達する。	【発表者】 予習：研究発表の練習 復習：レポートへの指摘事項の反映
14	研究発表②		【聞き手】 予習：発表評価方法の確認
15	後期レポートの受理	発表時の指摘事項を踏まえ、修正した研究成果レポートを提出し、後期のまとめを行う。	予習：レポート提出の準備 復習：個人目標の達成状況の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IB (CF202)			担当教員	宮本 彩		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブラーニングの類型
スポーツ科学の基本的な研究アプローチを学び、自分自身の競技・スポーツへの理解を深めることを目的とする。また、成果集の作成や成果報告会での発表を通して、論理的に自分自身の意見をまとめることを学ぶ。さらに、取り組みをまとめ、公表していくプロセスや方法を実践する。							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	スポーツ科学に関する基礎知識を理解し、論理的に説明することができる。				レポート及びプレゼンテーション	30 % (各 15%)	
情報収集、分析力	文献等を基にスポーツ科学に関する情報や知識を収集し、考察することができる。				レポート (成果報告書)	30 %	
コミュニケーション力	自分自身の経験や文献等から得た知識を基に、他者に対してプレゼンテーションすることができる。また、ディスカッションにおいて、自分の意見を述べるすることができる。				プレゼンテーション ディスカッション	20 %	
協働・課題解決力	測定実施や成果報告会に向けて、主体的に取り組むとともに、他者と協力することができる。				授業態度	20 %	
多様性理解力						%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
授業内での取り組みにおいてレポートを作成する。また、本年度の取り組みの成果を成果報告書として作成する。これらレポートの出来栄（論理的に文章が書けているかなど）について評価し、評価比率は全体の 45%とする。なお、レポートの提出はポートフォリオを通じて行い、学生個々への評価のフィードバックを行う。 また、授業内での取り組みにおいてプレゼンテーションやディスカッションを複数回行う予定である。自分自身の意見を端的かつ論理的にまとめられているかについて評価する。なかでも、成果報告会でのプレゼンテーションを重視する。評価比率は全体の 35%とする。 取り組みに対する主体性と他者との協力について評価する。評価比率は全体の 20%とする。							
授 業 の 概 要							
この授業ではスポーツ科学の基本的な研究アプローチを学び、専門競技や興味のある種目が一致あるいは類似する学生同士で組んだグループで研究を行っていく。また、その取り組みを成果報告会ならびに成果報告集としてアウトプットする。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分です。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：特に指定しない 参考書：アスリートとして知っておきたいスポーツ動作と身体のしくみ（ナツメ社） スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法—トレーニング科学の活用テクニック—（大修館書店） 指定図書：アスリートとして知っておきたいスポーツ動作と身体のしくみ（ナツメ社）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本ゼミの内容に興味を持ち、積極的かつ主体的に取り組んでほしい。 ゼミ時間外においても、予習・復習として課題に取り組む必要性があることを理解しておいてください。 いずれの取り組みも自分だけで行うことはできません。他者と協力することを最重要視します。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	前期の振り返りと本年度の目標設定の見直し	前期の大学での学びや取り組みについて振り返り、本年度の目標設定の再確認ならびに見直しを行う。	予習：前期の学習の振り返り
2	研究計画書の作成	自分史を基に研究テーマおよび目的を設定する。研究目的に沿った測定手法を検討する。	予習：自分史の読み返し
3	測定実施に向けた準備	研究目的に沿った測定手法を決定する。	予習：前期に学んだ研究手法について復習
4	データ収集①	研究目的に沿った測定を実施し、データの収集を行う。	復習：測定データの整理
5	データ収集②	研究目的に沿った測定を実施し、データの収集を行う。	復習：測定データの整理
6	データ分析①	測定で得たデータの取りまとめと分析を行う。	復習：測定データの分析
7	データ分析②	測定で得たデータの取りまとめと分析を行う。	復習：測定データの分析
8	データの解釈①	先行研究と照らし合わせながら、得たデータについて解釈を行う。	予習：文献・資料の収集
9	成果報告書の作成	論文の文章構成（研究背景、方法、結果、考察）を学び、これまでの取り組みをまとめる。	復習：成果報告書の作成
10	成果報告会に向けた準備①	成果報告会を企画（タイムスケジュールや発表内容の取りまとめ）する。	復習：成果報告書の作成
11	成果報告会に向けた準備②	他のグループ（担当教員指導の専門演習ⅡB）の成果報告会に出席する。	復習：成果報告書の作成
12	成果報告会に向けた準備③	成果報告会に向けたプレゼンテーションの準備および発表練習を行う。	復習：成果報告会のプレゼンテーション準備
13	成果報告会	本年度の各自での研究成果について報告するとともに、学生間でディスカッションを行う。	予習：成果報告会のプレゼンテーション準備
14	成果報告会の振り返り 成果集まとめ	成果報告会ならびにそれまでの取り組みについて、学生間のディスカッションを基に振り返る。成果集の取りまとめを行う。	予習：成果報告書の修正
15	まとめ	本年度の授業まとめ 次年度以降の課題の確認と目標設定	予習：本年度の授業振り返り

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	元嶋 菜美香		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブラーニングの類型
キッズスポーツプログラム作成に向けて、スポーツ心理学に関するテキストの輪読を通して、児童心理学およびキッズスポーツ指導の基礎知識を理解することを目的とする。また、これらの基礎的知識およびキッズスポーツの分析をもとにディスカッションを通してプログラムを作成し、実施ののち改善案を検討する。							①⑤⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力							%
情報収集、分析力	スポーツ場面における心理的要因を中心に、客観的な根拠を基に自分の考えを理論的に展開することができる。 キッズスポーツを分析、検討することができる。				プレゼンテーション資料 レポート		20% 20%
コミュニケーション力	スポーツ指導者および現役のアスリートとして、児童心理学およびキッズスポーツ指導の基礎知識を説明することができる。 スポーツ場面における心理的要因について自身の意見をまとめ、ディスカッションに積極的に参加し、発表をすることができる。 キッズスポーツに積極的に参加し、活動することができる。				プレゼンテーション、活動の参加度		30% 30%
協働・課題解決力							%
多様性理解力							%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
授業への参加度：授業内でのディスカッションの参加度およびゼミ内での役割の遂行状況について評価する。 プレゼンテーション：担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、周辺領域に関する知識を把握した上で、理論的に説明できているかを評価する。 プレゼンテーション資料：プレゼンテーションを行うにあたり、担当箇所に記載されている基礎知識を理解し要約できているかを評価する。 レポート作成：キッズスポーツの分析および改善点を専門用語を用いてまとめることができているかを評価する。							
授 業 の 概 要							
前半は、スポーツ心理学に関するテキストの輪読を通して、児童心理学およびキッズスポーツ指導を中心的に学ぶ。各章の担当者を決定したのち、担当者は事前にテキストを精読・要約し、プレゼンテーション資料を作成する。作成した資料をもとにプレゼンテーションを行い、ゼミ内でディスカッションを行う。 後半は、基礎的知識およびキッズスポーツの見学を通じた分析をもとにディスカッションを通してプログラムを作成し、フィールドワーク実施ののち改善案を検討する。 課題の提出およびレポートの共有は、ポートフォリオを通じて行う。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：使用しない 参考書：よくわかるスポーツ心理学（ミネルヴァ書房，2012）、スポーツ心理学事典（日本スポーツ心理学会，2008） 指定図書：よくわかるスポーツ心理学（ミネルヴァ書房，2012）							
授業外における学修及び学生に期待すること							

スポーツ心理学に興味を持ち、普段から自分の専門種目や興味関心のある競技種目、日常生活における心理的要因について知識を深めること。また、時間厳守や報告・連絡・相談など、大学生としてふさわしい行動をするように努めること。グループワークが中心となるので、他者の心を思いやり協調性をもった行動をとること。

授業外の活動が中心となるため、各自でスケジュールを管理し、積極的に活動に参加すること。

※本演習を選択するものは、次のコースを履修することが望ましい：スポーツツーリズムコース

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	オリエンテーション	ゼミの進め方、輪読担当箇所の決定	シラバス及び参考書の確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	輪読（１）	キッズスポーツ（１）「子どもとスポーツ」	担当箇所の精読・要約・レジュメ作成
4	輪読（２）	キッズスポーツ（２）「スポーツの楽しさ」「言葉かけ」	担当箇所の精読・要約・レジュメ作成
5	輪読（３）	キッズスポーツ（３）「自己肯定感・運動嫌い」	担当箇所の精読・要約・レジュメ作成
6	キッズスポーツ調査（１）	キッズスポーツに参加し、調査を行う（受付）。	調査内容およびデータ入力方法を確認
7	キッズスポーツ調査（２）	キッズスポーツに参加し、調査を行う（指導）。	キッズスポーツの課題レポート作成
8	キッズスポーツ調査（３）	キッズスポーツに参加し、調査を行う（指導）。	キッズスポーツの課題レポート作成
9	キッズスポーツ調査（４）	キッズスポーツの課題を挙げ、ディスカッションを行う	キッズスポーツの課題レポート発表
10	キッズスポーツ計画（１）	キッズスポーツの実施計画を立て、役割分担を行う。	キッズスポーツのメニューを考える
11	キッズスポーツ計画（２）	キッズスポーツの実施計画を立て、役割分担を行う。	キッズスポーツのメニューを考える
12	キッズスポーツ計画（３）	キッズスポーツの実施計画を立て、役割分担を行う。用具を用いてリハーサルを行う。	キッズスポーツのメニューを考える
13	キッズスポーツ計画（４）	キッズスポーツの実施計画を立て、役割分担を行う。用具を用いてリハーサルを行う。	キッズスポーツのメニューを考える
14	キッズスポーツの実施	キッズスポーツを実施し、課題点を挙げる。	キッズスポーツのメニューを確認する
15	キッズスポーツの検討	キッズスポーツの課題を挙げ、ディスカッションを行う	キッズスポーツの課題レポート